

目次

I. はじめに

II. 平成 29 年度宮崎国際大学の AP 事業

1. 本学 AP 事業の概要 1
2. 平成 29 年度 AP 事業の目的及び成果 2
3. 平成 29 年度 AP 事業の活動スケジュール及び具体的な成果 4

III. 平成 29 年度活動報告

1. ワーキンググループの活動報告 11
 - アクティブ・ラーニングワーキンググループ (ALWG) 11
 - クリティカル・シンキングワーキンググループ (CTWG) 28
 - e-ポートフォリオ・ワーキンググループ (EPWG) 34
 - ループリック・ベース・シラバスワーキンググループ (RBSWG) 43
2. FD 及び学生へのオリエンテーション 50
3. 宮崎国際大学・アクティブ・ラーニングシンポジウム 2017..... 56

IV. 平成 29 年度外部評価委員会

1. 第 3 回 AP 外部評価委員会 83
2. 外部評価委員会 総評 84

V. 参考資料等

1. MIC-AP ニュースレター 86
2. 宮崎国際大学 AP プロジェクト・メンバー 88

I. はじめに

宮崎国際大学 学長 山下 恵子



本学のAP事業が、日本の教育界に貢献できるよう、全力で取り組んで参ります。今後ともご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

II. 平成 29 年度宮崎国際大学の AP 事業

1. 本学 AP 事業の概要

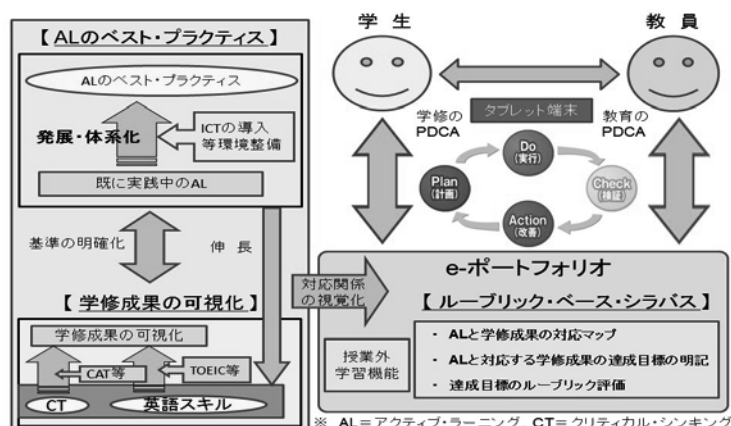
事業の概要

宮崎国際大学は、グローバル化社会において活躍できる人材の育成という教育目標の実現のため、20 年前の開学当初からほぼ全ての授業で英語を用いたアクティブ・ラーニングを行うという特色ある教育を行ってきた。今回採択された本学の取り組みは、これまでの教育実践を基盤に、本学教育の主要な学修成果であるクリティカル・シンキングと英語スキルの可視化を行い、これらの修得を最大化させるアクティブ・ラーニング手法の開発、実践及び体系化を行うものである。本事業の特徴は大きく 3 つある。1 つ目は、これまで実践してきたアクティブ・ラーニングのベスト・プラクティスの明確化である。2 つ目は、このことと関連してクリティカル・シンキングと英語スキルの可視化を行うことである。3 つ目は、アクティブ・ラーニングとクリティカル・シンキング及び英語スキルの対応関係をルーブリック・ベース・シラバスにより視覚化し、学修の PDCA サイクルを確立することである。

事業の目的

宮崎国際大学は、開学以来国際的リベラル・アーツ教育を軸に、ほぼ全ての授業を英語で行い、またアクティブ・ラーニングを導入している。しかし、これまでの取組では、効果的なアクティブ・ラーニングに必要なクリティカル・シンキングの技能をはじめ、アクティブ・ラーニングによる学修成果を可視化する客観的な測定・評価が不完全であり、またアクティブ・ラーニングをさらに発展させるための物的資源の環境整備が整っていない等、不十分な点があった。そこで、本事業では、①従来のアクティブ・ラーニングをさらに発展させ、ベスト・プラクティスの明確化と達成を目指す、②クリティカル・シンキングを客観的に測定・評価するツールを開発する、③②の開発に伴う英語スキルを向上させるアクティブ・ラーニングプログラムを構築する、④e-ポートフォリオを用いて学修成果の可視化を行う、⑤ルーブリック・ベース・シラバスの導入による学修の PDCA サイクルを確立させる、の 5 つの取組を包括した事業を展開することで、本学教育のさらなる質向上を目指すことを目的とする。

本学 AP 事業の概要図



2. 平成 29 年度 AP 事業の目的及び成果

今年度の目的は、主に 4 つあった。

- ① 1 つ目は、昨年度に続き、教員及び学生からアクティブ・ラーニングに関するデータを蓄積することによって、アクティブ・ラーニング（AL）のベスト・プラクティスのモデルの検証と精練である。「ベスト・プラクティス」と呼ばれる教授法が持つ利点と問題点を実際の授業活動（授業外学修も含む）における実践を通して得た経験的データをもって検証し、その改善を図る。
- ② 2 つ目は、平成 28 年度に作成した本学独自のクリティカル・シンキング・テスト（宮崎国際大学クリティカル・シンキングテスト）をさらに多くの学生に対し実施し、その結果の検討・分析を継続して行うことで、データの蓄積を図ることである。そうすることで、テストの改善を図り、新バージョンを作る。
- ③ 3 つ目は、平成 28 年度から活用を進めているループリック・ベース・シラバスの活用状況を、教員、学生の双方から調査し、その利点と問題点を洗い出すことで、その内容の改善を図るとともに、その全学的活用の推進を図ることである。
- ④ 4 つ目は、平成 27 年度から着実に進めてきた、学修成果を可視化するための e-ポートフォリオの活用のさらなる推進を図ることである。e-ポートフォリオをより有効に活用するために、ループリック・ベース・ワーキンググループが中心となり、他のグループと連携し、本学学生の学修成果をより見える形にする。

今年度の目的に沿った実績報告

- ① （目的 1 に関して）昨年度に引き続き、国際教養学部において、教員が授業で使用している AL の具体的な手法に関するデータ収集・分析することで、本学で使用されている AL の指導法の理解に役立った。また、この調査を通じて、教員は様々な AL の手法に関する知識が増え、自分の実施している AL の手法を体系的に鑑みることで授業改善に繋がり、学生は効果的な AL の授業を享受することができた。AL に関する FD 研修会に関しては、ワーキンググループが 2 度実施し、これまでの進捗状況を学内で共有したほか、AP 事業で導入した e-ポートフォリオを使用した、AL のための双方向のジャーナル及びブログをワークショップ形式で指導し、学内の AL の更なる普及に努めた。更に、本学での AL の指導法を効率的に収集及び共有できるホームページ作成の準備も進んだ。来年度は、このホームページ（アクティブ・ラーニングホームページ）を活用し、AL の指導法の事例を効率的に集積し、全教員が実践する指導法を集約したホームページとなるように取組む。今年度は、ベスト・プラクティスに関する取組が予定通りに進まなかったため、来年度は、本ホームページを活用し、指導例を集約し分析することで、一定の体系化したアクティブ・ラーニングのベスト・プラクティスモデルの構築を目指し、学生にとって更に効果的な AL を提供できるようにする。

- ②（目的 2 に関して）昨年度に引き続き、3 回に渡り CT テストを実施し、その結果の検討・分析を行い、テストの更なる発展に役立てた。また、CT に関する FD 報告会を行い、これまでのテストの進展状況を教員間で共有し意見交換することで、効果的なテストの開発に繋げることができた。本学で育成する CT 能力についての知識を深め、教員は指導法の改善及びその実践に取り組む機会を得た。また、アクティブ・ラーニンググループとの連携も始まり、より明確に CT の育成を目的にした具体的な AL の指導法に関する議論が深まった。授業内で特定の CT の能力に焦点を当てた AL を実施することで、学生は CT の能力を効率的かつ効果的に伸ばすことが期待される。
- ③（目的 3 に関して）ルーブリック・ベース・シラバスとして国際教養学部 of シラバスに導入したルーブリックをより授業内外で活用できるものへと発展させるために、様々な用途でルーブリックを活用している関西国際大学に教職員を派遣し、その活用実態を視察した。関係者と意見交換することで知見を深めた結果、本学での学修成果の可視化を実現するためのディプロマ・ポリシー（DP）により沿ったルーブリック（DP ルーブリック）の開発が始まった。具体的には、国際教養学部 of DP に関連した「Advanced Thinking」「Global Perspective」「English」「Japanese」及び「IT Skills」から、40 の評価項目を作成し、学生の自己評価及び授業の成績からの評価を算出し、学修到達度を測り、伸ばすシステムである。これにより、DP で定められた学修目標の到達に向けて、授業内外で取り組める体制を整え、学生は DP の教育目標の到達に向けて円滑に学修に臨むことができる。その他の活動として、これまでの取組及び今後のルーブリックの活用に関する FD 報告会を実施し、今後、DP ルーブリックを円滑に導入し、活用するための議論を行った。
- ④（目的 4 に関して）昨年度と同様に、学生への e-ポートフォリオ・オリエンテーションを実施し、学生が e-ポートフォリオを本学の学修において、有効活用できるように推進した。1 年生のみならず、今年度からは留学する国際教養学部 of 2 年生に対してもオリエンテーションを実施し、学生が留学先で e-ポートフォリオを有効に活用できるよう、指導を行った。1、2 年次のみならず、本学での 4 年間の学修をまとめ、振り返ることができるように、3、4 年生の論文への取組をまとめた「卒業論文ページ」や、英語力やクリティカル・シンキング能力などのディプロマ・ポリシーで定められた教育目標への取組を可視化するための、e-ポートフォリオの活用案を議論し、来年度以降、随時導入予定である。これにより、学生は DP での学修成果及び本学で重要な英語力を可視化した e-ポートフォリオページを活用し、教育効果を最大限に引き出せるよう、本学の学修に臨むことが期待できる。

3. 平成 29 年度 AP 事業の活動スケジュール及び具体的な成果

①	4 月～7 月 MICCAT 第 2 版を実施し、その後データ分析をする。	CT テストに関するデータをさらに収集し、その結果を分析することで、テストの理解への深化が進むとともに、その改善に資する分析結果が得られた。本学で育成される CT 能力を可視化するための取組が進み、近い将来、学生は自身の具体的 CT 能力の伸長度を知り、その能力の育成に効果的に取り組めるようになることが期待される。
②	5 月 平成 29 年度入学生にタブレット端末を貸与し、e-ポートフォリオのオリエンテーションを行う。	新入生へのオリエンテーションを実施し、タブレット端末の基本的な使用法を指導した。新入生は本学の授業内外の学修におけるタブレットの積極的な活用法について学んだ。また、e-ポートフォリオの有効活用を推進するために、6 月及び 1 月に実践形式のオリエンテーションを開催した。さらに、e-ポートフォリオ活用の拡大を目指して、海外研修に参加予定の国際教養学部 2 年生に対して「留学 e-ポートフォリオ・オリエンテーション」を実施した。このような指導の結果、多くの学生が、本学の学修の中で e-ポートフォリオを AL のツールとして有効活用できるようになった。
③	5 月 ルーブリック・ベース・シラバスの活用法に関する FD を行う。	FD 研修会を通じて、これまでのルーブリック・ワーキンググループの活動を他の教員と共有し、その理解を得るとともに、今後のルーブリックの有効活用に向けてのフィードバックも得ることができ、有意義な FD となった。
④	5 月 アクティブ・ラーニングのベスト・プラクティスに関する FD を行う。	本学での AL の現状の共通理解を図るために、これまでの AL の調査結果を本 FD 報告会で発表した。その結果、教員の AL に対する意識を高めることができた。また、AL の指導法についての議論がなされたことは、各教員の授業の改善に繋がることが期待でき、学生はより教育効果の高い AL を受けること

		ができるようになるものとする。
⑤	6月 他大学でのルーブリック活用に関する現地視察を行う。	関西国際大学では、様々なルーブリックと、その使用方法について学び、また、それらルーブリックの活用について関係者と意見交換したことで、本学でのルーブリックの有効な活用方法について客観的に再考することができた。この視察で得た知見を基に、国際教養学部の DP ルーブリックを改訂する取組が始まり、より効果的な学修成果の可視化のために、DP で定められた学修目標を細かく細分化したルーブリックへと改訂した。これにより、DP で定められた学修成果をより可視化することとなり、今後その効果的な運用を通じて、学生は学修目標の達成のための日々の学修に効果的に臨むことができる。
⑥	6月～9月 全学ルーブリック・ベース・シラバスの見直しを行い、必要に応じて改訂をする。	ルーブリックに関するアンケート結果や教員の意見を反映した形で DP ルーブリックを改訂することで、本学での DP ルーブリックの活用は、学生の学修により効果的に機能するものとする。
	FD 報告会での教員からの意見や教員へのアンケート調査結果、また、関西国際大学視察から得た知見を基に、国際教養学部の DP ルーブリックの改訂を開始した。	
⑦	9月 国内で開かれる e-ポートフォリオ（マハラ）に関する学会に参加する。	様々な大学でのマハラ活用に関する知識を得ることができ、本学でのマハラ活用の改善点を知ることができた。本学学生の学修成果の可視化における効果的なマハラ活用を考える有益な機会となった。
	9月に広島大学で開催された「Mahara Open Forum」（本学が採用している e-ポートフォリオのシステムであるマハラ（Mahara）の学会）に教員2人が参加した。	
⑧	10月 カナダで開かれるアクティブ・ラーニングに関する国際的な学会に参加する。	ALに関する国際学会に参加し、本学 AP 事業での AL への取組を発表し、世界の研究者及び教育者と交流することで、AL に関する知見を更に深めることができた。また、海外での AL の実践にかんがみ、本学の AL に対する取組を学生への教育効果の視点から再考することができた。
	10月に、カナダでの教授法と学習に関する国際学会である「International Society for the Scholarship of Teaching and Learning」に教員2人を派遣し、本学の AL への取組を発表した。	

⑨	11月 アメリカの学会にて、これまでの取組み全体を対外的に発表する。	海外の学会で本学の取組みの全体を発表し、世界の研究者からの貴重な意見を聴くことができた。また、本学の AP 事業への取組を海外の研究者にも紹介することができたほか、彼らと直接意見交換することで、本事業の改善点・課題がより明確となった。
	11月に、「American Evaluation Association Conference 2017」（アメリカの評価専門の学会）に教員1人が参加し、これまでの本学の取組全体について発表を行った。	
⑩	11月 ルーブリック・ベース・シラバスの e-ポートフォリオへの導入に関する FD を行う。	FD を通じて、開発中の DP ルーブリックの有効性などを議論することで、学生の学修に役立つルーブリック開発の取組が進展した。また、e-ポートフォリオ内での DP ルーブリックの活用に関して教員間での共通理解を促し、学生がより効果的に e-ポートフォリオを活用できる案を議論した。
	11月に、e-ポートフォリオ内でのルーブリックの活用に関して、教員間での共通理解を促すための FD を行った。（参加教員数：17名）	
⑪	11月～12月 MICCAT 第3版を別の学生グループに実施し、その後にデータ分析を行う。	4年生からのデータを収集することで、本学学生の卒業次（出口）の CT 能力に関するデータを集めることができた。受験者数が少なかったため参考データとなるが、今回初めて4年生のデータを収集することができ、今後のテスト改善への参考データとなった。
	11月に、国際教養学部4年生（6名）に対して、CT テストを実施し、その結果を分析した。	
⑫	12月 アクティブ・ラーニングのベスト・プラクティスに関する第3回目のシンポジウムを開催する。	本学の AP 事業への取組を発表するシンポジウムを開催したことで、他大学の教員及び研究者から本取組に関する貴重な意見を聴くことができた。今回は各セッションでワーキンググループに対する質疑応答を実施したことで、参加者からの意見・質問をタイムリーに受けることができ、議論を有意義に進め、その過程で課題も明確にすることができた。また、シンポジウム後の交流会では、出席者から本事業全体に対する忌憚のない意見を聞くことができ、さらに、本学と同様 AP 事業に取り組んでいる大学関係者との意見交換を通して他大学の課題も知ることができた。本シンポジウムの開催により、今後の事業全体の発展に資する意見や情報を多く得ることができたことは大きな収穫であった。加えて、本学の AP 事業を他の高等教育機関へ発信することができたという点でも有益なシンポジウムとなった。
	12月に、シーガイア・コンベンションセンター（宮崎県）にて、AP の成果を発表するシンポジウムを開催した（参加者は内部関係者を含めて 60 名）。各ワーキンググループが以下のタイトルで AP 事業の進捗状況を発表した。アクティブ・ラーニングワーキンググループ：「本学におけるアクティブ・ラーニングの調査」、クリティカル・シンキングワーキンググループ：「本学でのクリティカル・シンキング測定及び教授法の改善」、ルーブリック・ワーキンググループ：「学修目標と学修成果測定のためのルーブリック」、e-ポートフォリオ・ワーキンググループ：「本学での e ポートフォリオの活用：これまでの取組及び展望」	

⑬	12 月 MICCAT 第 3 版の発展状況及び成果に関する FD 報告会を行う。	参加者は、CT テストの作成手順やその意義、また、実際に使われている質問、さらに、データの分析結果等に関しての説明や報告を受けた。本FD報告会は、教員のCTテストに関する知識の共有を推進する一方、テストの改善に資する方策を議論する場ともなり、今後のテスト発展のための有益な会となった。
	2 月に、CT ワーキンググループが、これまで収集したテストのデータ及びその分析結果を発表する FD 報告会を実施した（参加教員数：15 名）。	
⑭	1 月～3 月 ルーブリック・ベース・シラバスの成果分析（評価・検証）を行い、今年度の活動を見直す。	今年度のルーブリック・ベース・シラバスの成果分析に基づき、DP ルーブリックの評価項目の見直し及び変更を実施した。また、今後改訂した DP ルーブリックを学修成果の可視化のため、どのような形で活用することが有効か、その方策についても議論がなされた。来年度適切な時期を見極めて導入する予定である。DP ルーブリックが学修の PDCA のために有効活用されるよう、今後その導入方法や教員及び学生に対する説明及び指導について議論を深め、その円滑な活用に繋げたい。
	今年度のルーブリック・ベース・シラバスの成果分析（評価・検証）を行い、今後のルーブリック・ベース・シラバスのより良い活用法について議論した。	
⑮	1 月～3 月 e-ポートフォリオの運用に関する評価・検証を行い、今年度の活動を見直す。	今年度の e-ポートフォリオの管理・運用に関する評価・検証を行い、その実施状況や今後の方向性について議論した。その結果、具体的には、3、4 年生の卒業論文への取組をまとめた「卒業論文ページ」の設定、e-ポートフォリオを DP で定められた学修成果を可視化するために活用すること等が決まった。
	今年度の e-ポートフォリオ事業の管理・運用に関する評価・検証を行い、今後の e-ポートフォリオのより良い活用法について議論した。	
⑯	1 月～3 月 MICCAT の使用に関する成果分析（評価・検証）を行い、今年度の活動を見直す。	今年度収集した CT テストに関するデータの分析を実施し、その結果をこれまでの取組状況とともに IR 推進委員会で議論し、今後の方向性を決定した。来年度、さらに洗練された CT テストの作成及びその円滑な実施が見込まれる。
	クリティカル・シンキング・ワーキンググループを中心に、CT テストの成果分析（評価・検証）を行い、より効果的なテストの改訂版作成のための議論がなされた。	
⑰	2 月 国内で開かれる e-ポートフォリオ（ムードル）に関する学会に参加する。	ムードル（本学で使用している e-ポートフォリオ・システムの一つのプラットフォーム）に関する学会への参加は、ムードルそのものの機能についての知見を深めるとともに
	2 月に、e-ポートフォリオ・システムに関する学会（ムードルムート）に教員を 1 人派遣した。	

		に、他大学でのムードルの活用法を学ぶという点で、本学の e-ポートフォリオ・システムの更なる発展に役立つものとなった。
⑱	3 月 平成 29 年度の年次報告書を作成し、外部評価委員会による評価を受ける。	<p>本学と同様、AP テーマⅠ・Ⅱに取り組む大学教員の委員からは、同じ立場に立っての有益な質問や提案を受けることができた。また、AP テーマⅢに取り組み、グローバル教育に詳しい大学教員の委員からは、本学の英語による AL 及び CT 能力の育成という教育実践に対する肯定的評価を聞くことができた。さらに、昨年度と同様、外部評価委員に本学の卒業生や在学生を含めることで、教育を受ける側からの AP 事業の効果に関する貴重な意見を聞くことができた。質疑応答の時間では、本事業全体に関する質問から各ワーキンググループの活動の詳細に関する質問など、多様な質問をきっかけに有意義な議論がなされ、本事業の見直し、今後の事業にあり方、その方向性について多くの示唆が得られたことは大きな収穫であった。</p> <p>今年度の AP 事業への取組に対する評価を受け、現時点での問題点や課題がより明確となり、また前述の通り、来年度以降の事業展開についても貴重なアドバイスを受けることができ、外部評価委員会は残り 2 年となった本事業の今後の展開に大きな力となった。外部評価委員会の評価が本事業の PDCA の重要な一環を担っていることを再確認し、その評価を真摯に受け止め、今後の事業に取り組みたい。</p>
	平成 30 年 3 月 23 日（金）に「平成 29 年度宮崎国際大学 AP 外部評価委員会」を開催し、本学の AP 事業全般に関して外部評価を受けた。外部評価委員会は、学外の有識者 3 人（林透山口大学准教授、坂本ロビン杏林大学教授、中村清子テレビ宮崎報道記者）、本学の卒業生 1 人（現高等学校英語教諭）、本学在学生 1 人、計 5 人で構成された。	

III. 平成 29 年度活動報告

1. ワーキンググループの活動報告

アクティブ・ラーニングワーキンググループ (ALWG)

Group Members (グループメンバー): Gregory Dunne(リーダー), Cathrine Mork, Anne Howard, Aya Kasai, Haruko Aito

Summary of Working Group Activity this year 今年度のワーキンググループの活動の要約 Activities 2017-18

The AL Working Group refined our surveys and once again administered them to both teachers and students. The surveys (questionnaires) were designed to gather detailed information on active learning practice on campus and were administered at the conclusion of spring and fall terms (July and February, respectively). Surveys were administered as a means of acquiring information on how often particular Active Learning Teaching Strategies (ALTS) were being used in the various courses/classrooms at MIC. Two different surveys were used: one for instructors and one for students. This research followed upon our earlier work of building an index of active learning strategies in use at MIC and then categorizing them into readily understood heuristic matrix, which categorized the ALTS into four main areas.

It is thought that this information, will provide at least one useful component in helping us ascertain which strategies constitute “best practices” in active learning at MIC, that is, which ALTS are being used most frequently and in which type of classes. The surveys have helped us to forgo the building of a “documentation system,” which we had earlier considered as a means of determining “best practices.” The group feels that the surveys are a much more efficient way of gathering the needed information.

The early months of the year (April, May, June) were also spent in developing a website that will eventually house various active learning methodologies used by instructors. We envision model lessons being posted by MIC instructors and shared. We envision the website indicating how particular ALTS relate to the development of particular critical thinking skills.

In May, the study group presented an FD designed to inform and update the faculty on our activities and the results of our surveys. At this time, the active learning website was introduced and instructors were asked to consider contributing to it in the future. The website is still under construction at this time.

In October, the Active Learning Working Group began to more closely coordinate with the Critical Thinking Working Group in order to begin to consider how the two groups might more fully understand and explain to others how we see active learning methodologies relating to the development of critical thinking skills. We decided to try to

visually represent some of this connection by incorporating ALTS and Critical Thinking Skills in course syllabi and rubrics. We decided to speak directly to this issue at the November AP Active Learning Symposium by showing the audience a model syllabus and how we see ALTS and Critical Thinking skills as being related.

October, Professor Mork traveled to Calgary, Canada to attend the ISSOTL (The International Society for the Scholarship of Teaching & Learning annual conference. She spoke about our work at MIC and gathered valuable information from other educators related scholarship in teaching and learning.

In November, we were primarily concerned with preparing for the AP Symposium and coordinating with the critical thinking working group as mentioned above. In December and January, we prepared questionnaires, continued to work on the website and to coordinate with the Critical Thinking Working Group. During this time, we were able to reach consensus with the CTWG in determining which particular ALTS were related to the development of particular critical thinking skills.

At the end of January we administered surveys. In February and March analysis on the surveys was undertaken.

今年度の活動（2017 年 4 月から 2018 年 3 月）

ALWG は、教員及び学生への調査の質問票を改訂し、教員及び学生にオンライン調査を実施しました。このオンライン調査は、キャンパスでの AL に関する詳細な情報を収集するために作成され、前期の終わり（7 月）と後期の終わり（2 月）に実施された。この調査の目的は、本学の様々な授業において、特定の AL の手法が使用された頻度に関する情報を得ることである。調査は教員用及び学生用の 2 種類を使用した。この調査は、これまでの取組で作成した“アクティブ・ラーニングインデックス”（AL の手法を特性に基づいて 4 つに分類した表）の研究に基づいて実施された。

本学のベスト・プラクティスとなる AL の手法（つまり、どの AL の手法がどんな授業で最も頻繁に使用されているか）の特定の際に役立つ情報をオンライン調査によるデータは提供すると思われた。オンライン調査は、データの管理システム（ベスト・プラクティスを特定する方法として以前は考えていたシステム）の構築に役立った。オンライン調査は、必要な情報を収集する上で、より効率的な方法と考えられる。

4～6 月（年度の初め）：本学の教員に使用されている様々な AL の指導法を記録できるホームページを開発した。構想としては、このホームページ上で、モデルとなる指導案を本学教員が載せ、共有する。特定の CT 能力育成と関連した AL の指導法を示すホームページとなりうるでしょう。

5 月：FD 研修会を通じて、我々のこれまでの活動及びオンライン調査の結果を教員と共有した。また、この時に、ホームページについての告知もされ、今後、指導案を提出することを考慮するように促した。この時点では、ホームページはまだ作成中であった。

10月：CT能力の育成と関連したALの手法の捉え方をより深く理解し、他者に説明できるようにする方法を考慮するために、ALワーキンググループはCTワーキンググループとより密に連携を取るようになった。授業のシラバス及びルーブリック上に、ALの手法とCTのスキルを組み込むことで、ALとCTの関連性を視覚的に表すことを試みた。モデルとなるシラバス上にALの手法とCT能力の関連性の我々の捉え方を示すことで、11月のアクティブ・ラーニングシンポジウムにおいて、私たちの考えを直接発表することにした。

10月：教授と学修に関する国際学会に参加するために、モーク准教授がカナダのカルガリーへ行った。そこで、ALワーキンググループの取組を発表し、教授と学修に関する教育者から貴重な意見・情報を得ることができた。

11月：シンポジウムの準備及び前で述べたCTワーキンググループの連携に重点を置き活動した。

12月及び1月：引き続きCTワーキンググループとの連携、ホームページ作成及びオンライン調査の準備をした。この時に、どのALの手法がどんなCT能力の育成と関連しているかについて、CTワーキンググループとある程度の合意ができたと思う。

1月：ALオンライン調査を実施した。

2～3月：オンライン調査の分析をした。

Plan for Next Year:来年度の計画

Plan 2018-19

In the coming year, we expect to once more debrief the faculty on our ongoing research through several FDs. We also expect to continue gathering information on active learning on campus thorough our surveys. Crucially, we expect to work closely with the CTWG to implement a revision of course syllabi and rubrics that will account for the relationship between active learning and the development of critical thinking skills. We will also focused on the development of the active learning website and the solicitation of instructors to contribute some of their lessons plans to it, lessons that incorporate ALTS as a means of developing critical thinking skills. Finally, we will be working to see if we can move closer to defining best practices in active learning at MIC by analyzing our survey data, clarifying the connections between, ALTS and critical thinking, and interviews with instructors and students.

2018-19の活動予定

来年度は、いくつかのFD研修会を通じて、教員に対して現在進行中の研究の更なる報告をする予定である。また、引き続きオンライン調査を通じて、学生及び教員からALに関する情報を収集する。大切なことは、CTワーキンググループと連携して、ALとCTの育成の関係を説明できるようなルーブリックや授業シラバスを改訂することである。また、我々は“アクティブ・ラーニングホームページ”を作成し、ALを含んだ指導案（特にCT能力を育成するALの手法を含んだ指導案）を教員から収集することに重点を置く予定である。最後に、ア

ンケート調査の分析、AL と CT の関連性の明確化、教員及び学生からのインタビューなどを通じて、AL のベスト・プラクティスの特定に近づけるように活動する。

最終年度

Final Year

In the final year, we aim to have a fully functioning website that houses a substantial number of lesson plans designed to incorporate ALTS as a means of developing critical thinking skills. Furthermore, we envision the website to be searchable in such a way that an instructor looking to develop a particular critical thinking skill can search the website to locate various lesson plans. In the final year, we will summarize our data from the questionnaires, interviews, and critical thinking tests, to determine best practices in active learning.

最終年度

最終年度、CT の育成のための AL の手法等を盛り込んだ多数の指導案を収集できよう、最大限に活用できるホームページの構築を目指す。更に、このホームページ上では、特定のキーワードで検索できるようにする。例えば、特定の CT 能力育成を目標としている先生が、その特定の能力で検索することで、その用途に沿った指導案をホームページ上で探すことができるであろう。最後に、アンケート調査、インタビュー、またクリティカル・シンキングテストからのデータをまとめて、ベスト・プラクティスとなる AL の指導法を特定する。

アクティブ・ラーニング WG の具体的な活動内容

List of AP-related Faculty Development AP 関連の FD

FD1	
Date 日付	May 25 th , 2017 2017 年 5 月 25 日
参加人数	20 名
Title タイトル	ALTSs and Work So Far in ALWG アクティブ・ラーニングの手法及びこれまでの取組
Purpose 目的	This FD session presented an overview of the activities of the ALWG since inception, with an update on future plans.ワーキンググループが結成された時からの活動の概要及び今後の予定を発表した。
Content of FD 内容	This FD updated new faculty about the activities and progress of the ALWG. The FD also introduced the working development of a website to serve as a repository for ALTSs (active learning teaching strategies) at MIC. This website is not yet “live” and awaits approval from MEI and MIC. It will require participation from all faculty (in the form of ALTS contribution) in order to be

	<p>successful. The purpose of this site is also to serve as an area to showcase the work of the ALWG (particularly to MEXT), and hopefully other working groups as well, particularly the Critical Thinking working group, since one of our goals is to link AL and CT skills. Looking forward, it is hoped that this website will prove useful to faculty who want to design better teaching strategies, particularly ones that focus on CT development. The website could potentially be extended to participation from other institutions. この FD 研修会で、新任の教員はこれまでの ALWG の活動及び進捗状況を知ることができた。また、この FD を通じて、本学での AL の教授法を貯蔵する場所となる、現在作成中のホームページを紹介した。このホームページは、大学からの承認を待っている状態で、まだ活用されていない。ホームページ成功のためには、全教員からの参加が必要になるであろう。このホームページの目的は、ALWG 及びできれば他のワーキンググループ、特にクリティカルシンキンググループ（目標の 1 つは AL の教授法と特定の CT 能力の関連付けなので）の取組を展示する場所とすることである。今後、特にクリティカル・シンキングの育成を含むより良い指導法をデザインしたい教員にとって、このホームページが役に立てば良いと思う。このホームページへの指導案の投稿は、他の大学等ができるように拡大することも可能であろう。</p>
Result of FD 結果	<p>New faculty members were updated on the activities and the overall mission of the ALWG in relation to AP. Additionally, all faculty present were informed of a new website presently under construction. Their active input in the further development of the website was solicited.</p> <p>AP と関連する ALWG の活動及び全体的な使命に関して、新任の教員は知ることができた。更に、参加した教員は、現在作成中の新しいホームページの告知も受けた。今後のホームページの更なる発展のための意見なども、教員からもらうことができた。</p>
FD2	
Date 日付	October 26 th 2017 2017 年 10 月 26 日
参加人数	9 名
Title タイトル	<p>Creating Interactive Blogs/Journals in Mahara</p> <p>マハラでの双方向ジャーナル及びブログの作成</p>
Purpose 目的	<p>This workshop showed participants how to set up / or how to help students to set up student blog(s)/journal(s) in Mahara for use in a course, how to set up a Mahara page, including the blog/journal, and then how to provide links within a Moodle course to all pages of student blogs so that students can actively read and comment on each other's posts/entries. This may be particularly useful for content teachers who want to provide a channel for reflection and/or forum-like</p>

	<p>functionality, and for writing teachers who want to provide opportunities for fluency work.</p> <p>このワークショップでは、授業で活用できるマハラのブログやジャーナルの作成、そして、ブログやジャーナルを含むマハラページの作成、及びマハラのコース内において、お互いの学生が書いたものを読み、コメントできるようにするための学生ブログへのリンク作成に関する知見を参加者は得た。この機能は、振り返りやフォーラムのような機能を活用したいコンテンツの先生にとって役立つ。そして、流暢さを上達させる機会を設けたいライティングの先生にとって、特に役立つものとなるであろう。</p>
Content of FD 内容	<p>A brief overview and review of the literature supporting journaling as a form of extensive writing across the curriculum was shared beforehand. The main rationale is gains in fluency, accuracy, and comprehensibility of writing (in L2 specifically, but also for native writers); gains in confidence levels and self-directed learning ability; deep learning: Students can be asked or required to paraphrase, summarize, analyze, criticize, or offer opinions on content they have read, watched, listened to, or experienced in or for a class. In doing so, students discover meaning, make connections, and think critically. They can gain the perspective and insight of others if they read each other's journals or blogs. Journaling creates a loop that mandates students to internalize and synthesize content instead of just cutting and pasting information. If the content is vocational in nature, they can also instill values of the profession and reflect on professional roles.</p> <p>事前に、カリキュラムを通したエクステンシブ・ライティング（様々なものを書く）方法としてのジャーナル活用の有効性を示す研究結果の復習及び概要を共有した。この方法を活用すべきであるという理論の背景には、ライティングの流暢さ、正確さ及び理解の上達、そして、自信の獲得及び自己学習能力の促進があります。学生は、授業内または授業の課題において、読んだり、見たり、聞いたり、経験した内容に対して、言い換え、まとめ、分析、批判、また意見を言うように要求される。こうすることで、学生は意義を見つけ、他者と関係を持ち、批判的に考える。お互いのジャーナルやブログを読むことで、他者の考え方や洞察力を得ることができる。単に情報を切り取り、張り付けるのではなくて、ジャーナルをつけることで、学生は書く内容を内在化し統合しなくてはならない。仮に、その内容が職業に関することであるなら、学生は、その職業の役割を深く考え、その職業の価値が植えつけるであろう。</p>
Result of FD 結果	<p>Participants learned how to take active learning out of the classroom and develop interactive blogs and journals to foster and develop their critical thinking capabilities (paraphrase, summarize, analyze, criticize, and</p>

	synthesize). 参加者は、授業外でのアクティブ・ラーニングの実施方法、学生のクリティカル・シンキングの養成のための双方向のブログ及びジャーナルの作成方法について学ぶことができた。
--	---

List of Other Presentations, excluding FD. FD 以外の発表

1	
Date: 日付	November 25, 2017 2017 年 11 月 25 日
Conference Name& Location 学会名及び場所	AP Active Learning Symposium, Miyazaki, Seagaia AP アクティブ・ラーニングシンポジウム
Title タイトル	AP Active Learning Symposium Active Learning Working Group Presentation
Content 内容	The presentation took the form of a yearly report and update as to the activities of the working group on Active Learning and how those activities could be of use to other colleges and universities. In brief, the groups continued work on documenting best practices in active learning strategies were shared. Chief among our activities have been the surveying of teachers and students as to which strategies have been used within classes and the building of a matrix which categories how various strategies are used and for what purpose. この発表は、ワーキンググループの年次報告の形を取り、AL に対するワーキンググループの活動及び本活動がどのようにして他の大学などで役立つかについての最新情報を提供した。簡潔に言うと、ワーキンググループの AL の教授法におけるベスト・プラクティスの記録への継続的な取組を共有した。本活動の主な取組は、授業において使用された AL の指導法に関する教員及び学生への調査、そして、様々な AL の活用方法及びその目的を分類するためのマトリックスの構築である。
2	
Date 日付	October 11-13, 2017
Conference Name& Location 学会名及び場所	ISSOTL (International Society for the Scholarship of Teaching and Learning) 2017, Calgary, Canada カルガリー、カナダ
Title タイトル	Poster presentation: "Clarifying and Sharing: The Journey to Define "Best Practices" in Active Learning at a Japanese Liberal Arts College" ポスター発表「明確化と共有：日本のリベラルアーツカレッジでのアクティブラーニングにおけるベスト・プラクティスを定義するまでの道のり」

• Miyazaki International College (MIC) was founded in 1994 as the first liberal arts college in Japan to offer all classes in English. The school focuses on developing critical thinking skills through active learning methodologies. It now has two departments: International liberal arts and Education.

Clarifying and Sharing: The Journey to Define "Best Practices" in Active Learning at a Japanese Liberal Arts College

Cathrine-Mette Mork
Satoshi Ozeki

ACTIVE LEARNING DEFINED

Active learning (AL) is an approach to instruction in which students dynamically engage with the material they study through reading, writing, speaking, listening, and reflecting. It stands in contrast to traditional modes of instruction in which teachers do most of the talking and students are passive.

"The philosophy of AL is at the core of the MIC program, and asserts that academic capability "... is achieved through explorative activities that require students to be actively engaged in reading, writing and discussion as part of the process of problem solving. Through this kind of active learning, students engage in the dynamic development of higher-order thinking skills that enable them to analyze, synthesize, evaluate and create."

ACCELERATION PROGRAM FOR UNIVERSITY EDUCATION REBUILDING (AP)

• Is competitive funding provided by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

• Supports educational reforms corresponding to the educational policy specified in the Educational Rebuilding Implementation Council.

• Has the overall goal of facilitating a student's transition from high school to a member of globalized society through assurance of quality in higher education

• Has 5 different themes to promote such reforms

- Theme I: Active Learning
Theme II: Visualization of Learning Outcomes
Theme III: Entrance Exam Reform / Connection between High School and College
Theme IV: On-Campus Learning Program
Theme V: Quality Assurance in College Education

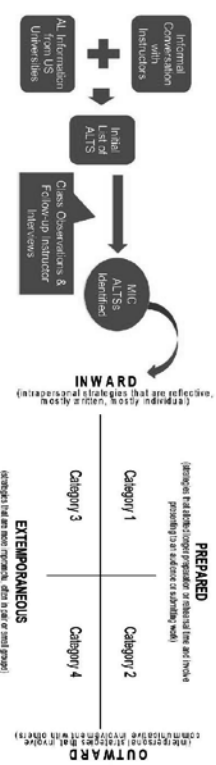
MIC AP PROJECT: 2014 ~ 2019

- Works on Themes I & II Combined
- Has 4 working groups
 - Active Learning
 - Critical Thinking
 - ePortfolio
 - Rubric-Based Syllabi

ACTIVE LEARNING WORKING GROUP (ALWG)

- Facilitates the growth of AL by giving the MIC community a common definition
- Systematizes AL teaching techniques utilized at MIC by collecting empirical data
- Identifies and shares effective AL practices among differing disciplines to improve instructors' overall teaching skills
- Increases visibility of MIC's mission to stakeholders in Japan, where knowledge and practice of AL is not so widespread

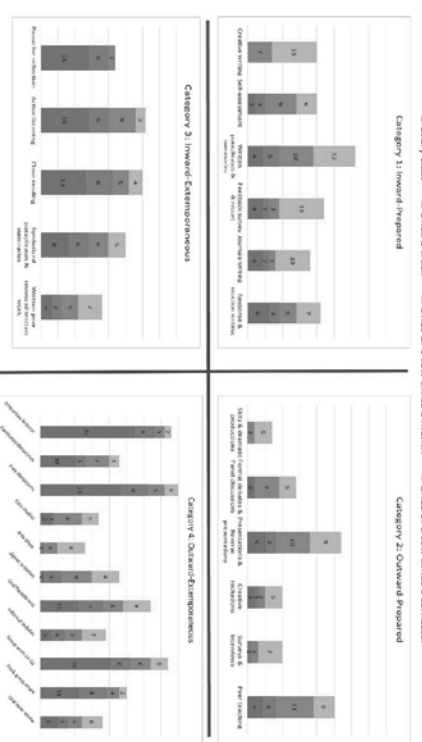
DEVELOPMENT OF ACTIVE LEARNING TEACHING STRATEGIES (ALTSs)



ALTSs include activities or techniques that require students to be active through speaking, reading, writing, listening and reflecting. The ALWG intends to draw conclusions about MIC's preferred strategies and about which type of strategy is used for a certain critical thinking goal or discipline by mapping them onto the matrix above. Not shown is a 5th category for a handful of "all-4-category" ALTSs.

FACULTY QUESTIONNAIRE DATA

Data from 2016 spring & fall faculty surveys on frequency of ALTS use (41 total responses, over 75% response rate)
Graphs show the number of respondents who conducted each ALTS at a particular frequency.



QUESTIONNAIRE FINDINGS

- Overall, extemporaneous ALTSs were more frequently utilized than prepared ALTSs.
- ALTSs in Category 4 were the most often utilized (Interactive Lectures, Free Discussions, and Group Work on Qs were the top 3).
- Active Listening and Close Reading were frequently utilized in Category 3.
- Possible bias toward Category 4 ALTSs from faculty due to a large number of respondents being language teachers and preconceived definitions of AL (AL is often thought to imply physically active and/or visible actions).
- Category 5 ALTSs were omitted for simplification.

ALWG GOALS

- Complete:**
- Identify and categorize ALTSs used at MIC
 - Develop end-of-semester questionnaires for faculty and students to access type and quantity of AL and self-directed learning
- In progress:**
- Continue to define their "AL teaching practices (via questionnaires and interviews)
 - Analyze results of student questionnaires
 - Share teaching practices via faculty development seminars
- Future action:**
- Develop ALTS documentation system, including website for documenting and sharing various components of AP project
 - Investigate relationship between AL and development of critical thinking skills
 - Investigate student-led AL practices

KEY REFERENCES

- Center for Teaching and Learning, University of Minnesota <http://www1.umn.edu/ctr/teaching/active/index.html>
- MIC Institutional Self-Study Descriptive Analysis, 2003, p. 2
- An investigation into active learning at MIC: the beginning and the way forward <http://www.mic.ac.jp/assets/eng/2015.pdf>

ACKNOWLEDGEMENTS

- Developed in conjunction with other MIC faculty: Gregory Dunn, Haruo Aio, Aya Kawai, Anne Howard
- Supported by an AP grant provided by MEXT in Japan
- Cathrine-Mette Mork: cmork@my.mic.ac.jp

Content 内容

以下のポスターを発表した。

A:教員への調査

I. 調査内容

1. 調査：2017 年前期のアクティブ・ラーニング(AL)を伴う指導法の使用状況
2. 対象：国際教養学部教員の教員
3. 有効回答：合計 27 名（前期 15 名・後期 12 名） *同じ教員が前期と後期で回答している可能性あり
4. 質問事項：各教員が学期中に教えた科目の中で、自分の指導法が良く表れていると思う授業科目を 1 つ選ぶ。その授業科目 1 つに対して、以下の各 AL の手法の使用頻度を回答する。
選択肢：ほぼ毎回、週に 1 回、月に数回、学期中に数回、不使用

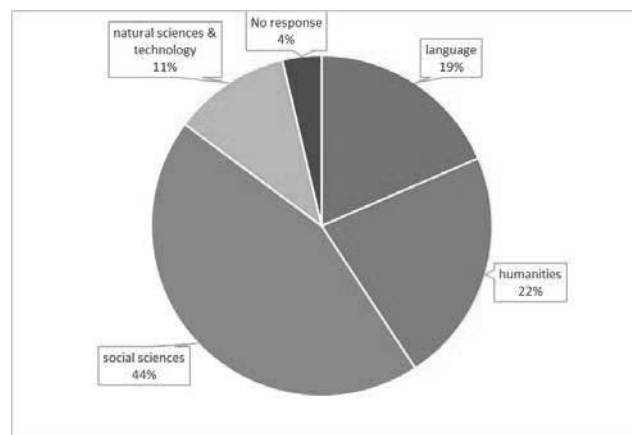
アクティブ・ラーニングの分類	
分類 1: 内向き-準備型 (全 7 種類) 1. クリエイティブ・ライティング 2. 自己評価 3. 要約やまとめを記述する 4. フィードバック・アンケート/レポート 5. ジャーナル・ライティング (振り返りの記述) 6. リアクション・ライティング 7. 卒業論文	分類 2: 外向き-準備型 (全 6 種類) 1. スキットやドラマ制作 2. ディベートやパネル討論 3. プレゼンテーションやリバーズ・プレゼンテーション 4. 創造的な朗読 5. アンケートやインタビュー 6. ピアティーチング
分類 3: 内向き-即興型 (全 5 種類) 1. 作文についての筆記による相互評価 2. 思考する時間を取る 3. アクティブ・リスニング 4. 読解 5. 図などの非言語で要約したりまとめたりする	分類 4: 外向き-即興型 (全 11 種類) 1. 対話式講義 2. ファシリテートされたディスカッション 3. 自由討論 4. 事例研究 5. ロールプレイや即興のスキット 6. ジグソーアクティビティー 7. 口頭での言い換えやまとめ 8. インフォーマルなディベート 9. 質問に対するグループワーク 10. ペアで考えてシェアする、グループで考えてシェアする 11. 作文についての口頭での相互評価
分類 5: すべてのカテゴリーに含まれるアクティブ・ラーニング (4 項目) 1. 学生が協力して行うプロジェクト 2. 実践への応用や実験 3. 地域コミュニティに根ざしたプロジェクト 4. 学生による評価基準の作成	

II. 調査結果

1. 回答者の属性 (27 人中)

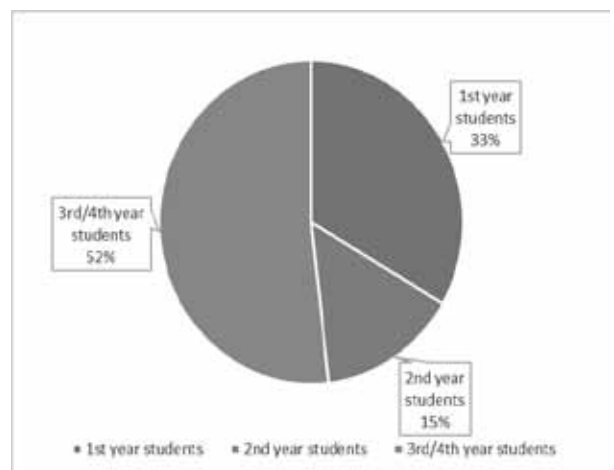
回答した AL に対する授業の種類

社会科学	44%
人文科学	22%
言語（英語）の授業	19%
自然科学	11%
未回答	4%



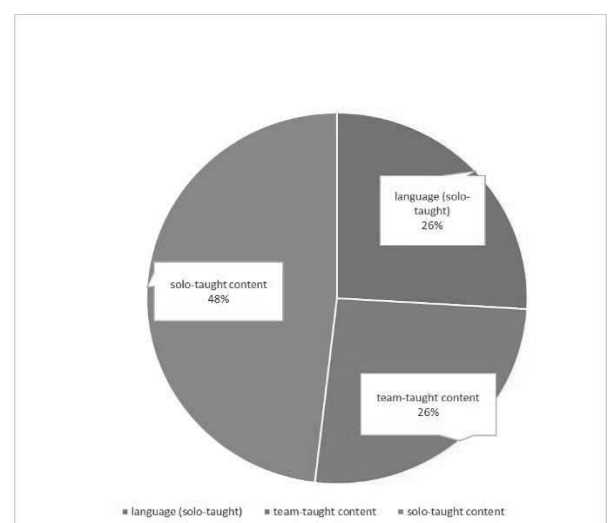
回答した AL に対する授業の対象学年

1 年生	33%
2 年生	15%
3・4 年生	52%



回答した AL に対する授業の形態

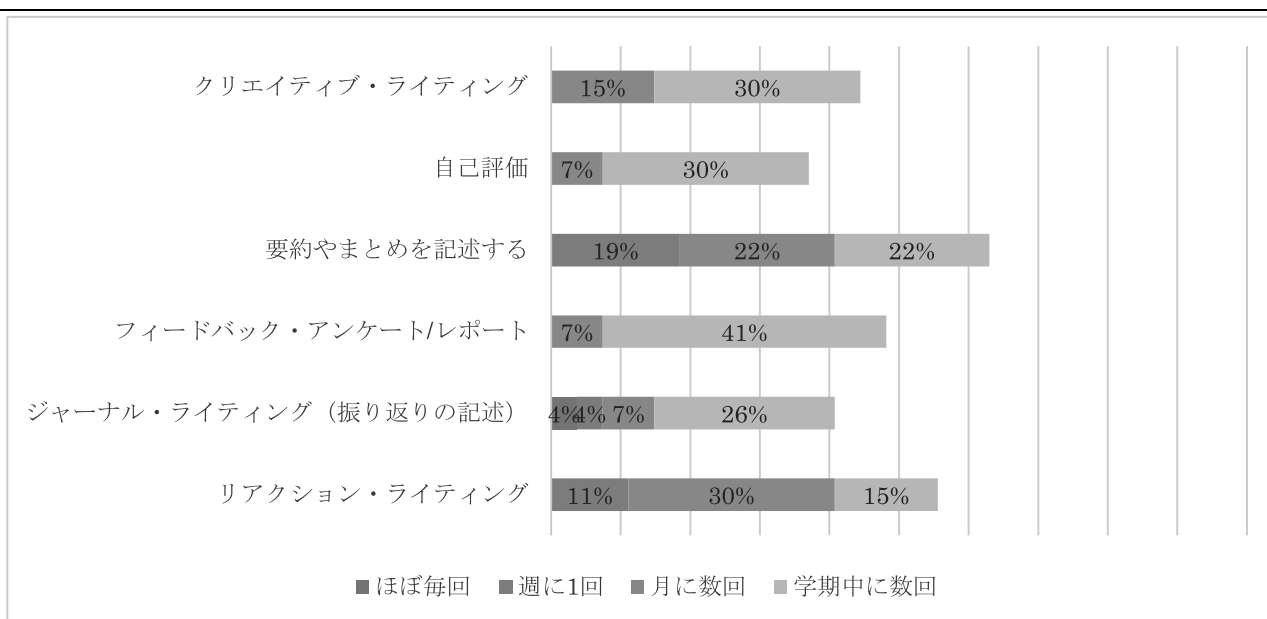
単独で教える普通授業 (Content)	48%
チームティーチングの普通授業 (Content)	36%
単独で教える言語 (英語) の授業 (English)	26%



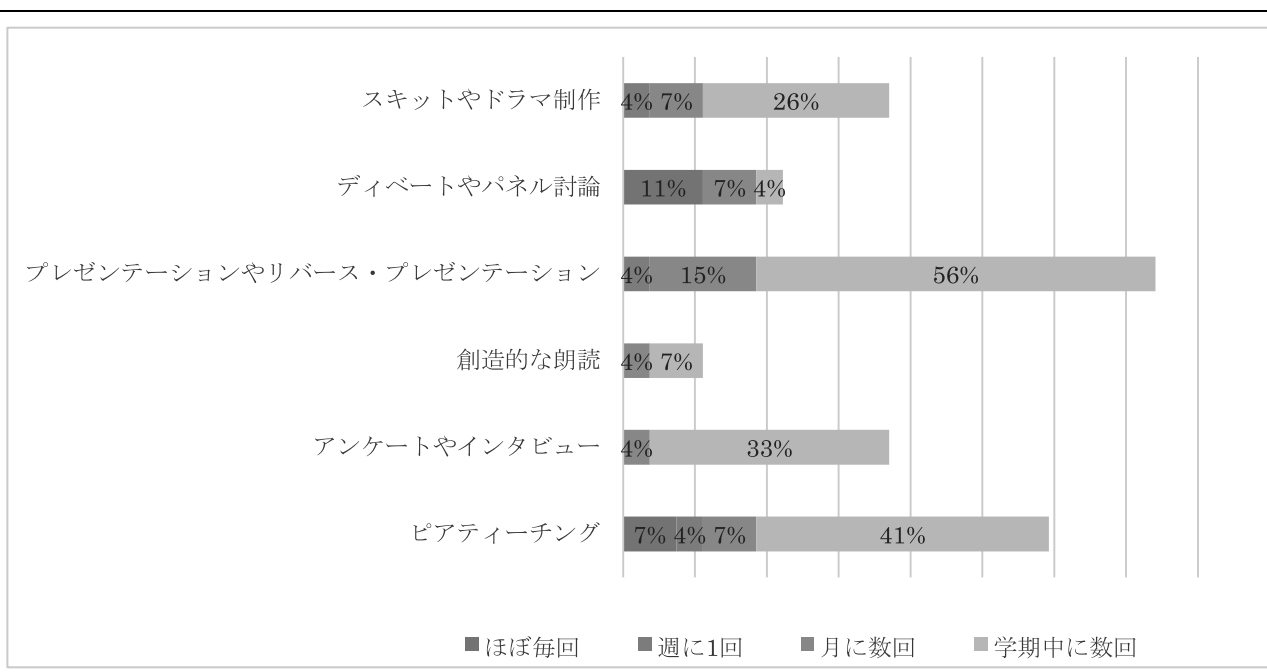
2. 調査結果

AL の分類の観点から考えた、使用頻度のグラフは以下となる。グラフからわかるように、全体的に、分類 3 及び 4 の即興型（その場の状況に応じて展開させる学習活動）の AL の手法は頻繁に使用されていたことがわかった。特に分類 4（外向き-即興型）では、対話式講義、質問に対するグループワーク、自由討論などが頻繁に活用された。分類 3（内向き-即興型）においては、思考する時間を取る、また、アクティブ・リスニング及び読解が頻繁に活用された。即興型程ではないが、準備型の分類 1 及び 2 も比較的頻繁に活用されていて、分類 1（内向き-準備型）においては、要約やまとめを記述する、リアクション・ライティングが比較的頻繁に使用され、分類 2 においては（外向き-準備型）、プレゼンテーションやピア・ティーチングなどがよく使用された。

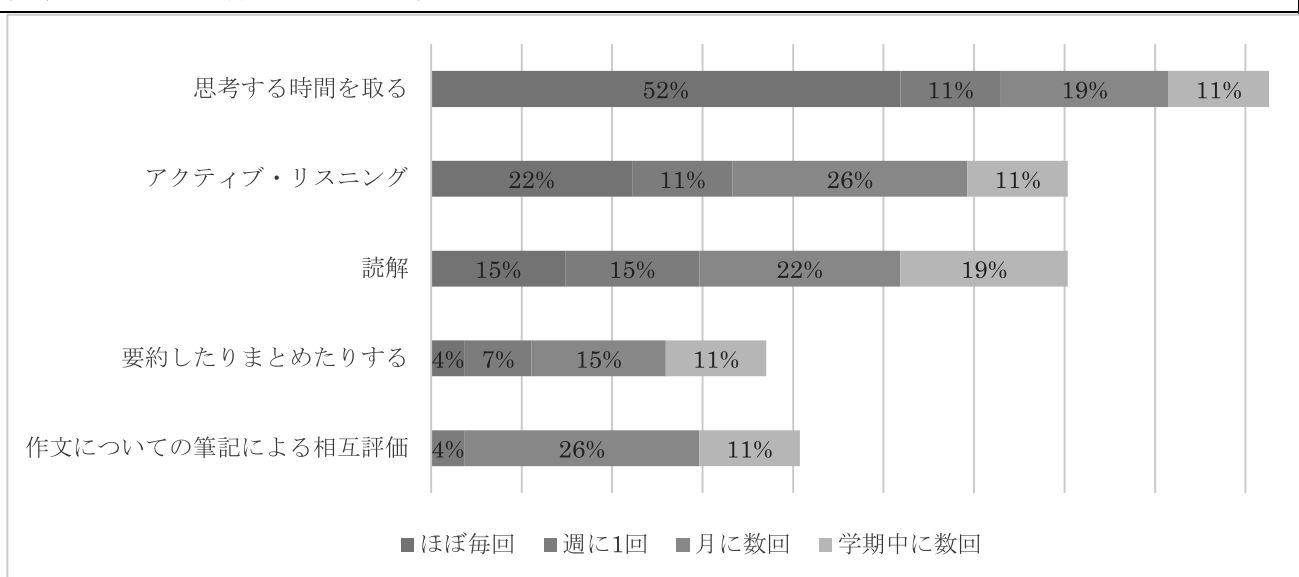
分類 1: 内向き-準備型（全 7 種類）



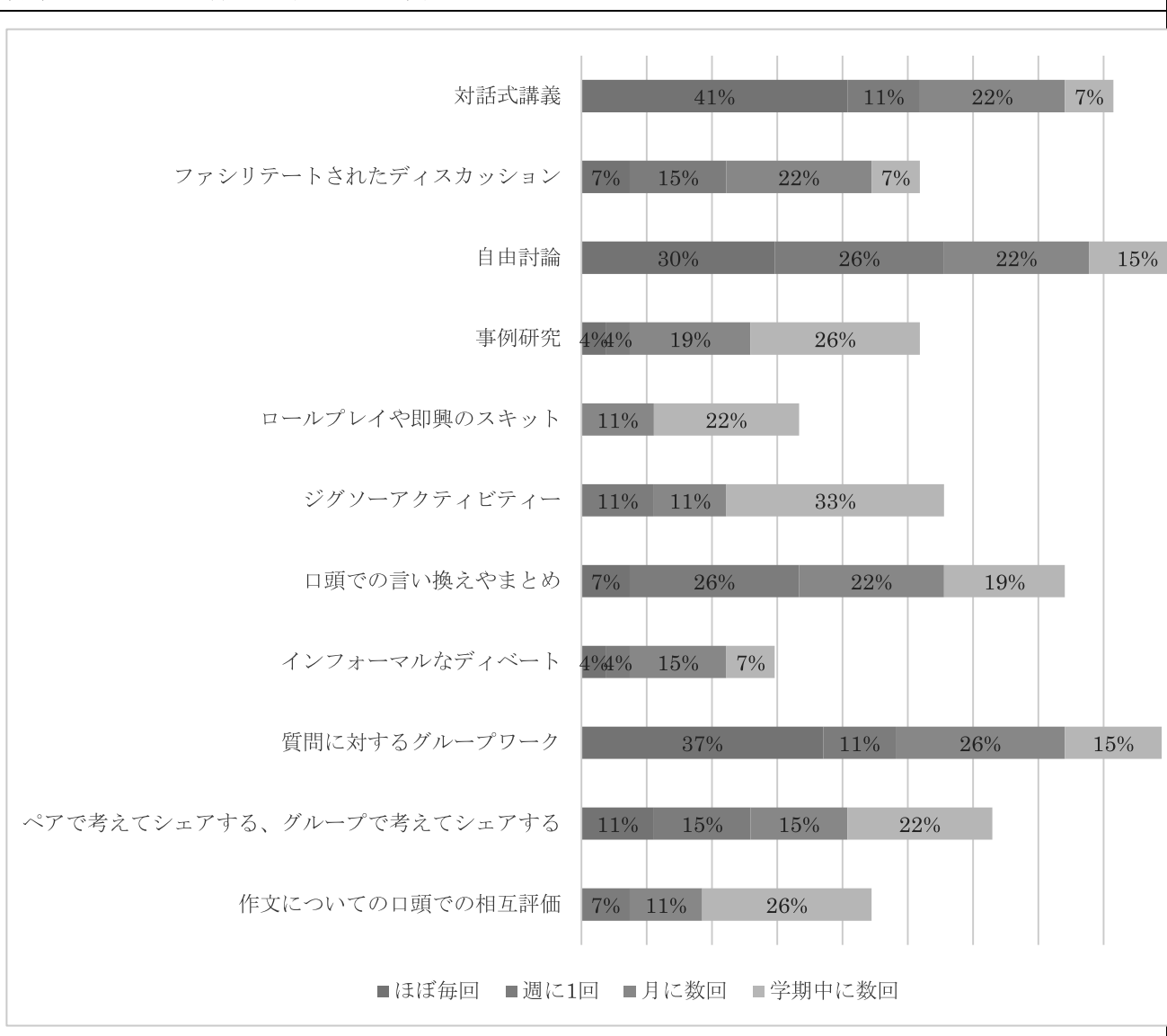
分類 2: 外向き-準備型（全 6 種類）



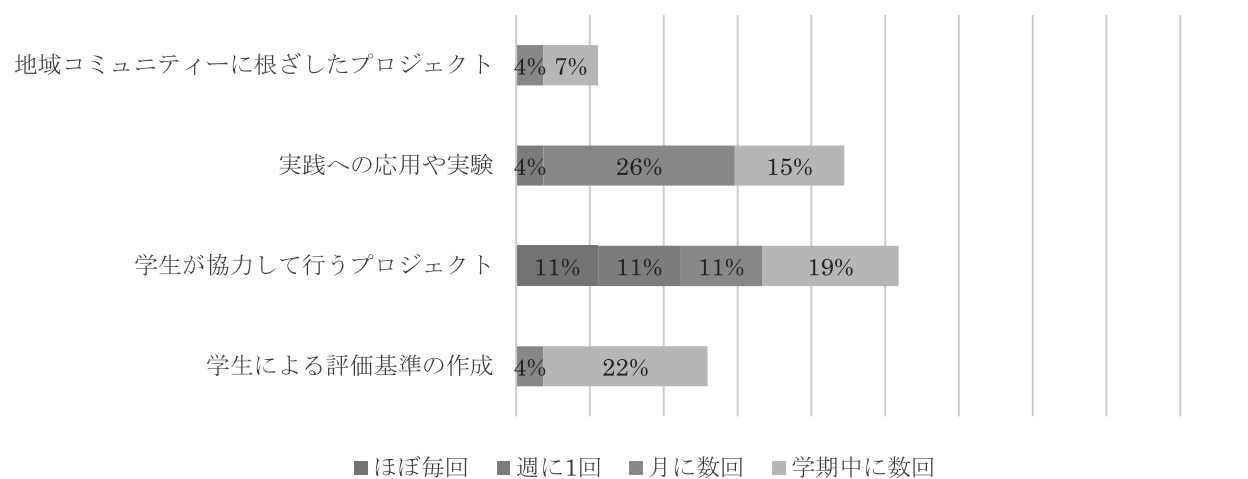
分類 3: 内向き-即興型 (全 5 種類)



分類 4: 外向き-即興型 (全 11 種類)

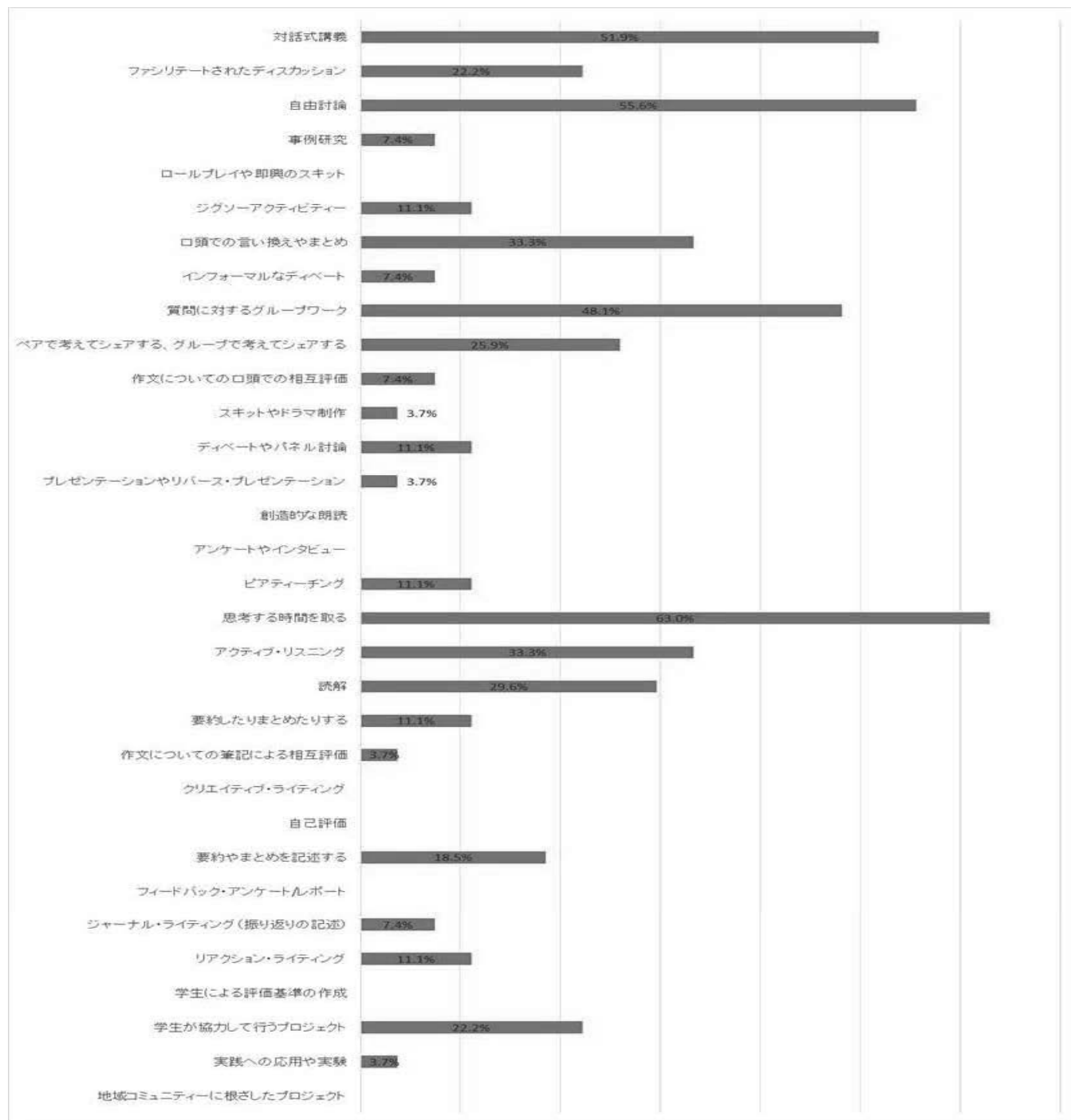


すべてのカテゴリーに含まれるアクティブ・ラーニング（4項目）



3. 特に使用頻度の高い（授業の全ての回数のうち半分以上の授業で使用された）AL の手法

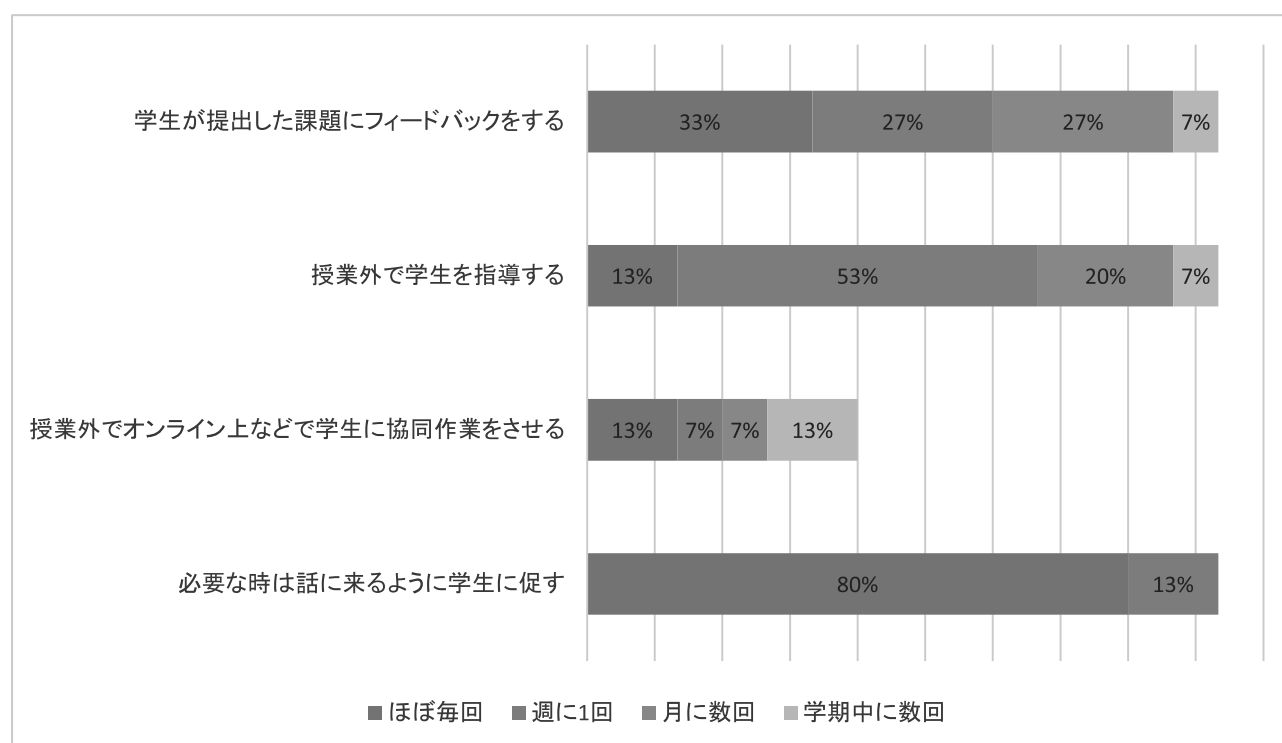
特に頻繁に使用されている AL を特定するために、回答（ほぼ毎回、週に 1 回、月に数回、学期中に数回、不使用）を、以下の 2 つのグループに分けた。授業の全ての回数のうち半分以上の授業で使用された「使用頻度の高いグループ」（ほぼ毎回及び週に 1 回）と、半分以下及び全く使用されなかった「使用頻度の低いグループ」（月に数回、学期中に数回、不使用）である。以下のグラフより頻繁に活用されている AL は頻度の高い順に、思考する時間を取る（63.0%）自由討論（55.6%）、対話式講義（51.9%）及び、質問に対するグループワーク（48.1%）、口頭での言い換えやまとめ（33.3%）及びアクティブ・リスニング（共に 33.3%）ということがわかった。



4. 学生への指導

各 AL の手法の使用頻度の他に、教員の授業外での指導に関する質問をした。

以下の結果の通り、本学の教員は学生への指導を全体的に頻繁に実施していることがわかった。特に、「必要な時、話に来るように学生に促す」は、アンケートに回答した 80%の教員がほぼ毎回の授業で実施している。また、「学生が提出した課題にフィードバックする」と回答した教員も多く、ほぼ毎回（33%）、週に 1 回（27%）という結果になった。「授業外で学生を指導する」と回答した教員も比較的多く、ほぼ毎回（13%）、週に一回（53%）であった。



B: 学生への調査

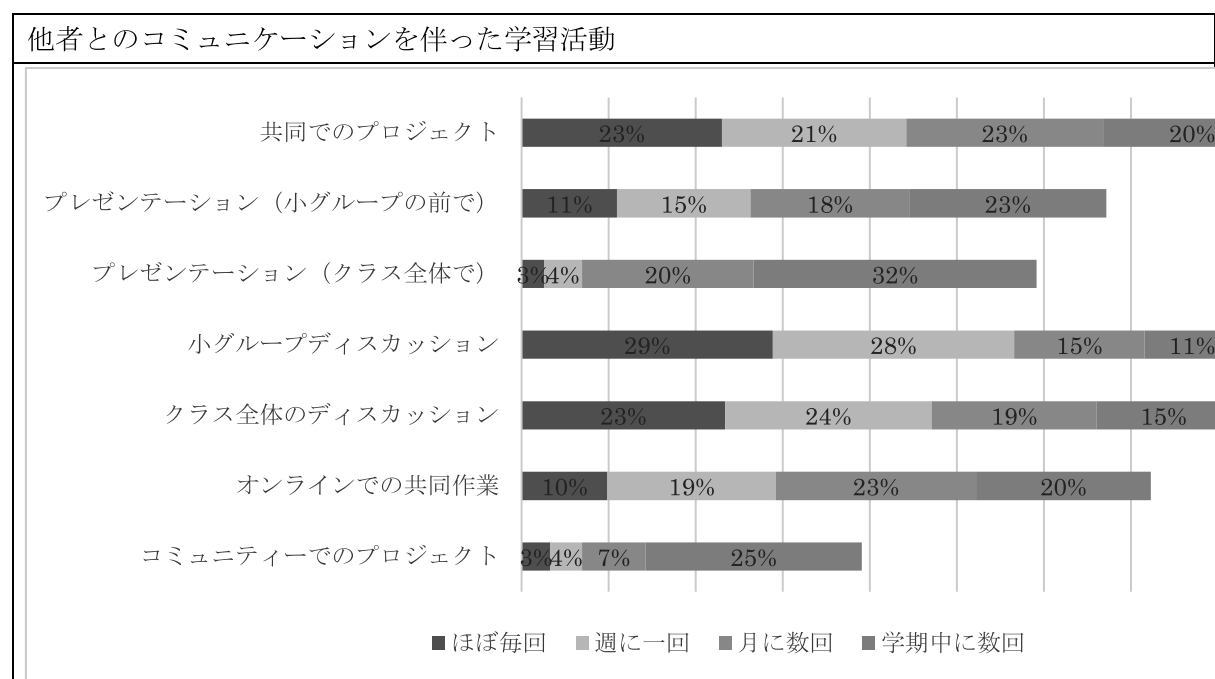
I. 調査内容

1. 調査：2017 年前期のアクティブ・ラーニング(AL)に関する学生への調査
2. 対象：国際教養学部 of 学生
3. 有効回答: 合計 274 名 *受講している授業 1 つに対しての回答なので、同じ学生の別々のコースに対しての回答も含む
4. 質問事項：学生の授業内外でのアクティブ・ラーニングに関する質問事項（他者とのコミュニケーションを伴った学習活動及び学習行動）に対して、以下の各 AL の手法の使用頻度を回答する
選択肢：ほぼ毎回、週に 1 回、月に数回、学期中に数回、不使用

II. 調査結果

他者とのコミュニケーションを伴った学習活動について

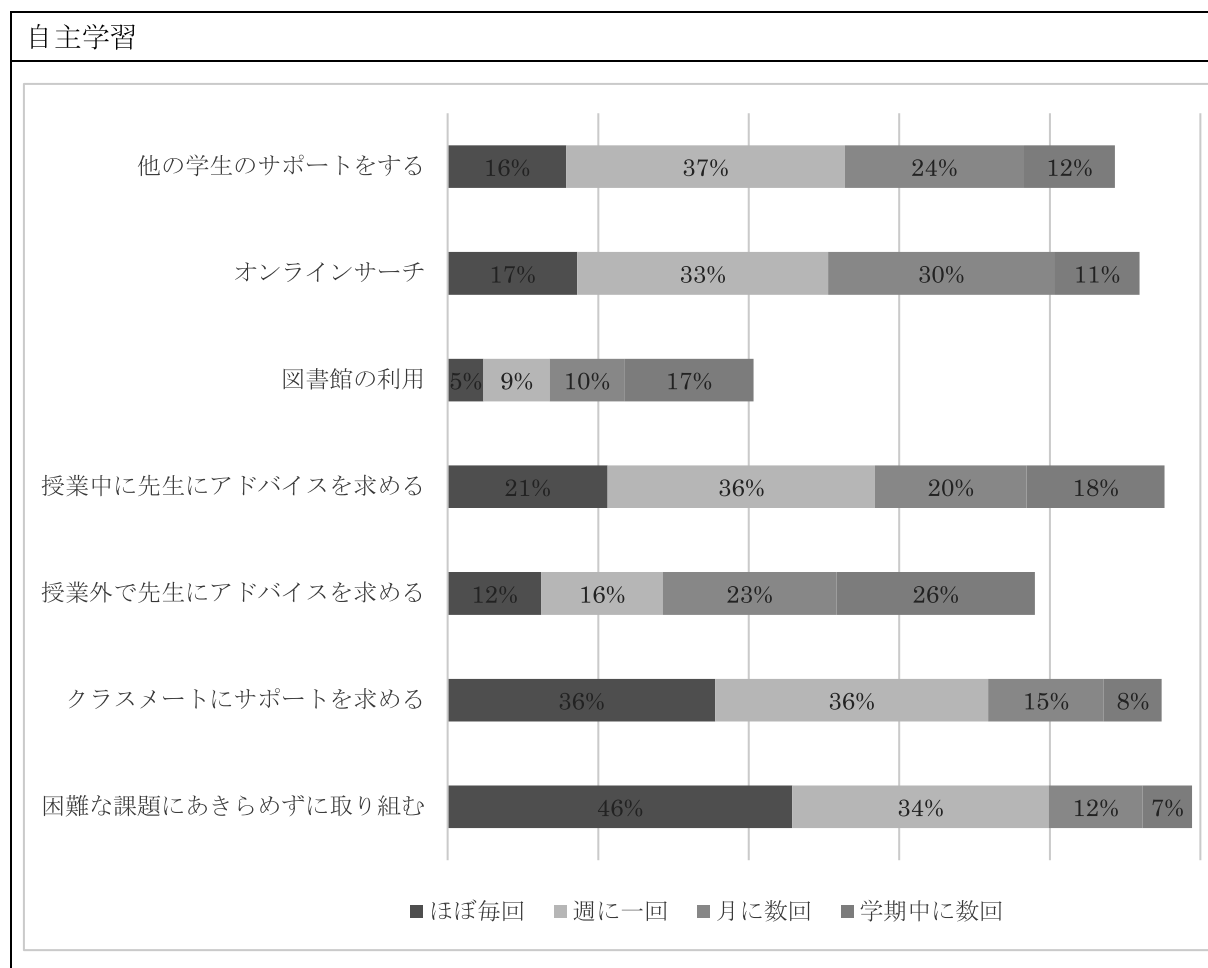
以下のグラフからわかるように、全体的に、本学の学生は 1 つの授業に対する学習行動として、高頻度で他者とコミュニケーションを伴う学習活動を行っていることがわかった。具体的に言うと、「共同でのプロジェクト」「小グループディスカッション」、「クラス全体でのディスカッション」「プレゼンテーション（小グループの前で）」及び「オンラインでの共同作業」は、高い頻度で学生は実施していた。特に、「小グループディスカッション」(29%)、「クラス全体でのディスカッション」及び「共同でのプロジェクト」(23%) に関しては、ほぼ毎回の授業で実施しているという結果が多数見られた。本学の授業では、アクティブ・ラーニングが頻繁に取り入れられているということを示す学生からの 1 つのエビデンスとなりうる結果となった。



学習行動について

以下のグラフからわかるように、「図書館の利用」以外は、全体的に高頻度という結果が出た。具体的に言うと、「困難な課題にあきらめずに取り組む」「オンラインリサーチ」及び授業内外での「先生にアドバイスを求める」などは、高頻度で行われていた。特に、「困難な課題にあきらめずに取り組む」は、毎授業であると答えた学生が46%及び週に1回が34%と多く、国際教養学部学生の英語での授業に、諦めずに取り組んでいる姿勢を指示しているのかもしれない。

また、他の学生のサポートをしたり、必要な時にサポートを求めたりする頻度も高く、本学の学生はクラスメイトと協力して授業に臨んでいる。「図書館の利用」に関しては、比較的頻度が低いという結果になった。図書館に行かなくても「オンラインリサーチ」等で代替し、また図書館以外の学修のスペース（本学の SPOON や国際交流ラウンジ）で勉強することにより、図書館の理由が低くなった可能性はある。また、図書館の利用を促進するために利用法などを学生に周知する必要があるのかもしれない。



クリティカル・シンキングワーキンググループ (CTWG)

Group Members (グループメンバー) : Christopher Johnson (リーダー) , James Furse

Summary of Working Group Activity this year 今年度のワーキンググループの活動の要約

Activities 2017-18

- ① July, April, November 2017: Delivery of MIC CT Test to 1st, 3rd, and 4th year students.
- ② September-November 2017: Development of a Model Syllabus (focusing on Natural Science as an example) to demonstrate how the various accomplishments of the different working groups can be integrated. This articulation is intended to (i) facilitate understanding of the coherence of AP objectives at the working group level, and (ii) visualize (to both faculty and students) the AP project at the level of classroom delivery. The Model Syllabus represents developments by each of the APWGs. Specifically, critical thinking is reflected on the Model Syllabus under *Critical Thinking Objectives* which are newly included under the “Course Objectives” section of the syllabus. These critical thinking objectives are discipline-specific interpretations of general critical thinking skills. Since critical thinking skills are to be delivered via Active Learning Teaching Strategies (ALTS), the Model Syllabus also introduces a section called “Teaching Methodology” which provides specific active learning activities (i.e., particular instantiations of ALTS) that will be used in the course, with activities referring to specific dates and classes in the Course Schedule.
- ③ November 2017: Presentation of CTWG developments at MIC AP Symposium.
- ④ January 2018: Interpretation of MIC ALTS in terms of CT skills targeted: analyzing the list of MIC ALTS developed by the ALWG and determining which general CT skills those ALTS can deliver.
- ⑤ February 2018: FD Session covering development and administration of the MIC CT Test, including providing examples of questions on the MIC CT Test. To apprise faculty of the current state of the MIC CT test and to better inform faculty of the nature of the MIC CT Test.

今年度の活動 (2017 年 4 月から 2018 年 3 月)

- ① 4月に国際教養学部の3年生、7月に1年生及び11月に4年生に対して、CTテストを実施した。
- ② 9～11月：各ワーキンググループの様々な活動をシラバス上でまとめ、示すことができるモデルシラバスを作成した。目的は、各ワーキンググループの活動のAP事業の目的への一貫性に関する理解を促進すること、そして、授業シラバスによって（教員と学生の双方が

使用するものなので)、AP事業を授業レベルで可視化するためである。よって、モデルシラバスは各ワーキンググループの活動が盛り込まれている。具体的に言うと、CTに関する項目は、シラバス上の「授業目標」の下「CTの目標」という欄に、盛り込まれており、CTの目標とは、特定の科目の中で育成できるCT能力である。授業内でのALによってCTの能力は育成されるので、モデルシラバスには、「指導方法」の欄に、授業で使用されるALの指導法の項目を含んでいる。

- ③ 11月：アクティブ・ラーニングシンポジウムにて、これまでのテスト開発への取組を発表した。
- ④ 1月：特定のCTを育成するためのALの手法についての理解を深めた。具体的には、ALWGが開発したALの手法のリストを分析し、どの手法がどんなCTの能力を育成できるかについて議論した。
- ⑤ 2月：CTの開発及び実施（具体的なテスト内容の発表も含む）に関するFD研究会を開催した。目的は、テストの現状及び特徴についての本学教員の理解を深めるためである。

Plan for Next Year: 来年度の計画

Plan 2018-19

- ① Continued pilot testing and analysis of CT Test data
 - April 2018: 3rd year students
 - July 2018: 1st year students
 - November 2018: 4th year students
- ② Conduct third-party analysis of MIC CT Test to validate questions and skills distribution (dependent on securing funding for honoraria). Parties will be sought who are native English speakers and who hold PhDs and are affiliated with national universities, either inside or outside of Japan. Ideally, parties will represent each general area of study at MIC: Natural Science, Social Science, and Humanities. Their task will be to review questions and analysis of questions in terms of the skills claimed tested by the CT Test.
- ③ Analyze sample Active Learning Activities in terms of CT skills targeted (in collaboration with ALWG). To be used at a future FD session (see 5).
- ④ Conduct FD session on interpreting Active Learning Activities in terms of CT skills targeted (in collaboration with ALWG). The purpose of the FD will be to facilitate faculty development of active learning activities that deliver specific critical thinking skills. These activities may then be used on future syllabi and/or to populate an MIC online database of teaching resources.
- ⑤ Conduct FD session informing faculty of CTWG developments.
- ⑥ Seek to publicize the MIC CT Test via presentations or publications.

2018-19 の活動予定

- ① 引き続き、CTテストを適宜実施し、結果を分析する。
- ② 必要に応じて、CTテストの検証を第三者の有識者に依頼する。
- ③ ALWGと連携し、CT能力の育成のためのALの手法を分析する。
- ④ CT能力の育成のためのALの手法に関する、FD研修会を実施する。目的は、特定のCT能力育成に焦点を当てたALの手法に関して、教員の指導技術を向上させることである。そして、将来的には、こういった指導法をシラバスに記載し、オンラインのデータベースで指導案を集めることを目的としている。
- ⑤ これまでのテストの開発に関するFD研修会を実施する。
- ⑥ CTテストを発表もしくは論文により、公表する機会を探す。

最終年度

Final Year

- ① Finalize the MIC CT Test
- ② Prepare test (if appropriate) for ongoing delivery at MIC.

最終年度

- ① クリティカル・シンキングテストの最終版を作成する。
- ② 今後のテスト実施ための準備をする。

クリティカル・シンキング WG の具体的な活動内容

List of AP-related Faculty Development : AP 関連の FD

FD1	
Date 日付	February 1, 2018 2018年2月1日
参加人数	15名
Title タイトル	“The MIC CT Test” 宮崎国際大学のクリティカル・シンキングテスト
Purpose 目的	To apprise faculty of the contents of the MIC CT test. MICテストの内容を教員に知ってもらうため
Content of FD 内容	Explanation of development of CT skills and test items. Examples of questions from the MIC CT test. Discussion of students’ participation in the MIC CT test. Discussion of problems and prospects faced by the CTWG in completing objectives of the AP Grant. CTスキル及びテストの質問の作成に関する説明 テストの質問例の紹介 学生のテスト受験に関する議論 AP事業の目的達成のための、グループが直面している問題点及び今後の展望
Result of FD 結果	Participants were informed of the development of the CT test, reviewed example questions, and participated in a discussion about the importance of maintaining the integrity of research methodology and procedures whilst trying to find ways to increase participation rates in the MIC CT test. 参加者は、CTテストの作成及び実際の質問の例に関して報告を受けた。そして、テストへの参加率を上げる一方で研究の概念、及び研究方法の一貫性を保つ重要性に関する議論を行った。

List of Other Presentations, excluding FD FD 以外の発表

MIC AP Symposium 宮崎国際大学APシンポジウム	
Date 日付	November 25, 2017 2017年11月25日
Conference Name& Location 学会名及び場所	Miyazaki International College Active Learning Symposium 2017 アクティブ・ラーニングシンポジウム2017
Title タイトル	“Critical Thinking Assessment and the Improvement of Instruction at MIC” 本学におけるCTの測定及び教授法の改善
Content 内容	<p>Since early 2016, the Critical Thinking Working Group has been developing a critical thinking test to assess the critical thinking skills of MIC students. This presentation discussed the development and delivery of the critical thinking test, as well as our recent collaboration with the Active Learning Working Group to interpret active learning strategies (ALTS) in terms of critical thinking skills.</p> <p>2016年の初めから、クリティカル・シンキングワーキンググループは、本学学生のクリティカル・シンキング・スキルを測定するテストを開発してきた。本発表では、そのテストの開発及び実施、そして、アクティブ・ラーニングの手法をクリティカル・シンキング能力育成の観点から捉えるべく最近行っているアクティブ・ラーニング・ワーキンググループとの共同研究について発表した。</p>

List of Data Collection Activity (Survey, Observation, Interview, etc.) データ収集活動

MIC CT Test: administered on 3 occasions. 3回、テストを実施した。	
Date 日付	<p>April 28, 2017 (3rd year students: 42 students) 3年生42名</p> <p>July 7, 2017 (1st year students: 21 students) 1年生21名</p> <p>November 9, 2018 (4th year students: 6 students) 4年生6名</p>
Purpose 目的	To continue collection of data on the MIC Critical Thinking Test (MIC CT-Test) 引き続き、テストのデータを収集するため

<p>Data Collection Method データ収集方法</p>	<p>The previously developed MIC CT-Test was administered via 3 separate sittings of the test (outlined above). The test was delivered to participants using a standard examination routine (i.e. venue set-up, materials provided, and time allowed). Responses/answers from all participants were collected using a standard-format answer sheet.</p> <p>CTテストは3回に渡り、テスト実施要項に従い実施された。受験者からの回答は、標準形式テストシートを使用し回収した。</p>
<p>調査対象者</p>	<p>3rd year students: 42 students 3年生42名 1st year students: 21 students 1年生21名 4th year students: 6 students 4年生6名 Total 2017 N = 69 合計69名</p>
<p>Result of FD 結果</p>	<p>Preliminary analysis of results indicates:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) No indication of any appreciable language difficulties in any year class. 2) No suggestion of unusual overall results, i.e., the MIC CT-Test is a moderately difficult test of Critical Thinking skills. 3) Participation rates in the 2017 delivery of the MIC CT-Test indicated that additional measures need to be developed and implemented to increase participation (i.e., sample size) to acceptable levels in all year classes. <p>主な予備的分析結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) どの学年においても、テストで使用された英語が難しいと結論付ける証拠はなかった。 2) 特殊な結果となる兆候はみられなかった。つまり、テストは、クリティカル・シンキングテストとしては、程よい難しさである。 3) 今年度のテストの参加率が悪かったので、来年度はテストの参加率を上げる対策を講じる必要がある。

e-ポートフォリオ・ワーキンググループ (EPWG)

Group Members (グループメンバー) : Jason Adachi(リーダー)、Yukichi Shimizu, Ellen Head, Mai Sakakura

Summary of Working Group Activity this year

今年度のワーキンググループの活動の要約

Activities 2017-18

- ① Provided orientations for first year ILA students in (initial orientation in May and end-of-year page orientation in Jan) and second year ILA (study abroad page) in June
- ② To prepare ①、Created courses and materials for ILA year-end page and ILA study abroad
- ③ Provided an FD session to share a summary of the EPWG activities with faculty members in November
- ④ Presented EPWG activities at symposium in December
- ⑤ Attended two conferences: Mahara Open Forum in September and Moodle Moot in February
- ⑥ Worked on ILA 3rd & 4th year e-portfolio pages to enhance senior thesis process
- ⑦ Started to work on a career design page so that students can keep track of their career goal while working on their degree
- ⑧ Through consultation with a Mahara vendor and English faculty, laid groundwork for development of English skill visualization page.
- ⑨ Attended two conferences: Mahara Open Forum and Moodle Moot

2017-18 の活動

- ① 5月：新1年生へのe-ポートフォリオ紹介のためのオリエンテーション、1月に学年末ページ作成を指導するオリエンテーション、また、6月に留学する2年生への留学e-ポートフォリオ・オリエンテーションを実施した。
- ② ①のオリエンテーションの資料及びムードル（オンラインコース管理ソフト）での専用コースの作成をした。
- ③ 11月：今年度のEPWGの取組及び今後のe-ポートフォリオの推進について、FD研修会で学内の教員に対して発表した。
- ④ 12月：アクティブ・ラーニングシンポジウムで、これまでのEPWGの取組及び今後の展望について発表した。
- ⑤ 情報収集のために関連する学会に参加した。：9月マハラ・オープン・フォーラム及び2月ムードルムート。

- ⑥ 国際教養学部 3, 4 年生の卒業論文作成のための e-ポートフォリオの活用案を議論した。
- ⑦ キャリア・デザイン I の授業での e-ポートフォリオの活用案を議論した。
- ⑧ マハラの業者と協力し、英語力可視化のマハラページ作成のためにマハラを拡張した。

Plan for Next Year: 来年度の計画

Plan 2018-19

- ① Provide orientations for faculty and students in both departments as needed (1st, 2nd, 3rd year ILA and all years in EDU)
- ② Finalize a career page, an ILA 3rd & 4th year thesis page, and an English skills page, and start to use them as appropriate
- ③ Explore & implement ways to better support faculty/courses to encourage effective use of e-portfolio
- ④ Work with e-portfolio center as appropriate to support development of new e-portfolio criteria.
- ⑤ Present EPWG activities at conferences and symposium.

2017-18 の活動予定

- ① 引き続き、学生への e-ポートフォリオ・オリエンテーションを実施し、学生が e-ポートフォリオを本学の学修において、有効活用できるように推進する。また、必要に応じて、教員へのオリエンテーションも実施する。
- ② 英語力可視化のページ、3, 4 年生の論文ページ、1 年生のキャリアのページを随時、運用する。
- ③ 教員が授業において、e-ポートフォリオを円滑に活用する手助けをする。
- ④ e-ポートフォリオセンターと協力し、必要に応じて新しい e-ポートフォリオの評価項目等を作成する。
- ⑤ シンポジウムや学会等で、EPWG の活動を発表する。

どのようにして、ワーキンググループの最終目標を達成するかについての記述

Final Year

The final goal is campus-wide e-portfolio utilization by students for visualization of learning outcomes so that students will be able to maximize their learning at MIC. ILA students will create e-Portfolio pages that showcase their academic achievements throughout their studies at MIC. Specifically, first-year students will create a page summarizing their first-year study, second-year students will make a study-abroad page, and their- and fourth-year students will develop a senior thesis page. In addition, ILA students will utilize e-Portfolio to visualize their work toward educational goals defined in the Diploma Policy, such as English skills and critical thinking skills.

The e-portfolio system is already set up to support creation and assessment of e-Portfolio. The WG will continue orientation and outreach activities to support students and faculty for continuous improvement of MIC's e-Portfolio use.

最終年度

EPWG の最終目標は、学生の学修成果を最大限に引き出す助けとなる、学修成果の可視化のための全学的な e-ポートフォリオ活用である。国際教養学部は、本学での 4 年間の学修をまとめ、振り返ることができるように、e-ポートフォリオを活用する。具体的には、1 年での学修をまとめた「1 年生の学年末ページ」、2 年生の留学生生活をまとめた「2 年での留学ページ」、3、4 年生の論文への取組をまとめた「卒業論文ページ」を作成する。また、英語力やクリティカル・シンキング能力などの、ディプロマ・ポリシーで定められた教育目標への取組を可視化するために、e-ポートフォリオを活用する。

これまでの活動により、e-ポートフォリオを作成し評価する e-ポートフォリオシステムが構築された。目標を達成するために、e-ポートフォリオセンターと協力して、EPWG は教員及び学生の e-ポートフォリオ活用をサポートするために、引き続き活動する予定である。

e-ポートフォリオ WG の具体的な活動内容

List of AP-related Faculty Development AP 関連の FD

FD1	
Date 日付	Dec 7, 2017 2017 年 12 月 7 日
参加人数	17 名
Title タイトル	E-portfolio and Rubrics Working Group Faculty Development Session. e-ポートフォリオ及びルーブリックワーキンググループの合同 FD 研修
Purpose 目的	To inform the faculty of the following: 1) Overview of e-portfolio at MIC 2) Showcasing student evidence 3) Visualization of learning outcomes 以下を教員と共有するため 1) 本学での e-ポートフォリオの概要 2) 学生の学修のエビデンスの提示 3) 学修成果の可視化
Content of FD 内容	The E-portfolio presentation explained that e-portfolios at MIC are divided into two distinct types. The first showcases student development through end-of-year, Study Abroad, and other student-generated Mahara pages. The second compiles institutionally managed data relevant to student progress through the academic

	<p>program. This section may include TOEIC data, grade performance, and other information that students obtain from the administration. The rubrics underdevelopment by the Rubrics Working Group would fit into this section as well.</p> <p>本学での e-ポートフォリオの活用は 2 つに分類できることを説明した。1 つ目は、1 年次の学年末ページ、2 年時の留学ページ、また、その他の学生主導のマハラのページである。2 つ目は、本学の学修プログラムを通じての学生の成長に関する大学が管理するデータを集積するページである。これは、TOEIC の点数、成績評価、本学の学修を通じて育成する力などが含まれる。ループリックワーキンググループが開発しているループリックも、含めることができるかもしれない。</p>
Result of FD 結果	<p>Faculty gained insight into the work being done by the ePortfolio and rubrics WGs. Productive discussion followed the presentation.</p> <p>教員は、私たち e-ポートフォリオグループの活動に対する理解を深めることができた。発表後には議論も行った。</p>

List of Other Presentations, excluding FD. FD 以外の発表

Student orientation	
Date 日付	平成 29 年 6 月 2 日（金） 10 : 00～
Number of participants 参加人数	国際教養学部 1 年生 63 人
Title タイトル	e-Portfolio orientation e-ポートフォリオ・オリエンテーション
Purpose 目的	Teach how to use the e-portfolio system e-ポートフォリオ・システムの使用法を教えるため
Content 内容	e-ポートフォリオの基本操作方法：ログイン、プロフィール設定、テキスト及びジャーナル作成、写真の貼り方、データの保存方法、秘密の URL の作成及び提出方法。
Result 結果	Students learned basics of e-portfolio system 学生は e-ポートフォリオシステムの基礎を学び、オリエンテーション中の課題をすることで、基本操作方法を身につけた。
Student Orientation	
Date 日付	平成 29 年 6 月 21 日（水）
Number of participants 参加人数	国際教養学部 2 年生 40 名

Title タイトル	e-Portfolio orientation for SILA 2 nd years 国際教養学部 2 年生への e-ポートフォリオ・オリエンテーション
Purpose 目的	To create a page collection for the Study Abroad portfolio 留学のページ作成方法を指導するため
Content 内容	留学ページのテンプレートの作成、各ページ要件の確認、コレクションの作成、秘密の URL の作成及び提出
Result 結果	学生は留学のためのページのコレクションを作成し、そのページが外部から見れるように秘密の URL を提出した。これによって、各学生がそれぞれの留学先でページに書き込むことで、留学 e-ポートフォリオが作成できるようになった。
Student Orientation	
Date 日付	平成 30 年 1 月 23 日及び 25 日
Number of participants 参加人数	2 日間の合計：国際教養学部 1 年生 56 名
Title タイトル	e-Portfolio orientation for SILA students: End-of-year Page 国際教養学部 1 年生の学年末ページのためのオリエンテーション
Purpose 目的	To create an end-of-year page for 1 st year SILA 国際教養学部 1 年生が学年末ページを作るため
Content 内容	1 年間の学修をまとめた学年末のページの作成方法を指導した。
Result 結果	Students created a Mahara page for a SILA 1 st year end-of-year page and submitted secret URLs through Moodle to Ozeki, who gave them feedback on their page 国際教養学部の 1 年生は、学年末のページを作成し、シークレット URL を提出し、ページに関するフィードバックを受けた。

ILA 1st Year -

1. Reflective Writing

1. 今年の一年の間で、文学、人類学、社会学など、今まで学ぼうと思っていなかった科目を学ぶことができた。これらの経験を通して、物事を一つの視点からではなく様々な視点から見られるようになった。特にリベラルアーツの授業でその力をつけることができたと思う。
2. 今年 1 年休むことなくすべての授業に出席することができた。授業中もわからない言葉は辞書で調べたりして、ほかの子から後れを取らないようにしっかり取り組みたいと思う。しかし、自分の思った結果を出せなくて後悔した科目もあるので、来年度は後悔をしないように全科目均等に勉強したい。
3. 来年は留学もあるので、自分から積極的に英語で話しかけることを目標にしたい。また、留学後に TOEIC で 200 点あげることを目標にします。留学を経験することで自分の視野も広がると思うので、就活のことも少しずつ考えていきたい。

書くこと (What to write) ・各項目に対して最低文章 2 つ (At least 2 sentences for each)

1. During the year of the year, I was able to learn literature, anthropology, sociology and other subjects I had not thought about them until now. Through these experiences, things have come to be seen from various perspectives, not from a single point of view. Especially I think that I was able to put the power in the class of liberal arts. 「4-A, B, C」で提示したファイルや作成した Mahara ページを振り返り、MIC で学んだことを通じて、世界や自分自身に対する考え方の変化について (Referring to the material in 4-A, B, & C, how did your classes change your understanding of the world and/or yourself as a student?)
2. I was able to attend all the classes without taking a break this year. I think that I tried to work hard to avoid losing from other children by looking up the words I do not understand in the class in the dictionary. However, because I have regretted subjects that I regret not being able to produce the results I thought, I would like to study all subjects equally, so that I do not regret next year. 1 年生での大学生活全般を振り返って (Write about your college life at MIC)
3. Since I am going to study abroad next year, I would like to aim to positively talk to him in English. In addition, I will aim to give 200 points by TOEIC after I study abroad. I think that I will broaden my horizons by experiencing studying abroad so I want to think about my job hunting little by little. 大学生活全般での来年度の目標 (Write about your goals at MIC)

2. Goals & Plans

1. 将来の夢は明確には決まっていますが、MIC で習った経験や知識を生かせるような仕事があります。そのほかにも私には目標にしていることがあります。それは英語を使って世界を旅することです。この目標を達成できるようにあと 3 年間という短い大学生活の中でしっかり英語を身に付けたいです。
2. 私は海外留学に行くという目標のために、今年度は自分の意見を持つことを意識しました。今までは人の意見に流されてばかりだったので、少し成長できたと感じています。逆に今年度できなかったことは、課題以外の勉強です。何かを理由にして結局課題しかないという生活を、気づいたら 1 年近く続けてきました。これは英語力をあげられるはずの機会を自分から逃していたということなので、春休みからこの生活を改善していきたいです。
3. 留学の前は、課題や授業のことだけでなく、語彙力をつけることと留学先のことを調べることに取り組みたいと思います。そして留学中は、英語力を上げることに加えてその国の文化や価値観などを学びたいと思います。また、留学後の 3 ヶ月間で、TOEIC に向けての勉強をして次の学年に上げたいです。

書くこと (What to write) 各項目に対して最低文章 2 つ (At least 2 sentences for each)

1. The future dreams are not clearly decided, but I would like to take advantage of the experience and knowledge I learned at MIC. Besides that, I have a goal. That is to travel the world using English. I'd like to wear English well in a short college life of 3 years to achieve this goal. 将来の目標：キャリアデザインのカラスで考えたことを参考に (Your career goal if you have one: Refer to what you

4-A Mahara Page Link

Liberal Arts:

- Introduction to Liberal Arts:

General Sciences:

- Introduction to ICT:

Other Courses

- AW2:

4-B. Humanities

Page: 1 of 4 Automatic Zoom

Fog
By Carl Sandburg
Adapted by Shiho Nozaki

James, a man in his late twenties, is walking with his wife at the house. Alice, same age, and she is opposite his.

James: Good morning, Alice. What is today's breakfast? *(While yawning and speak slowly.)*

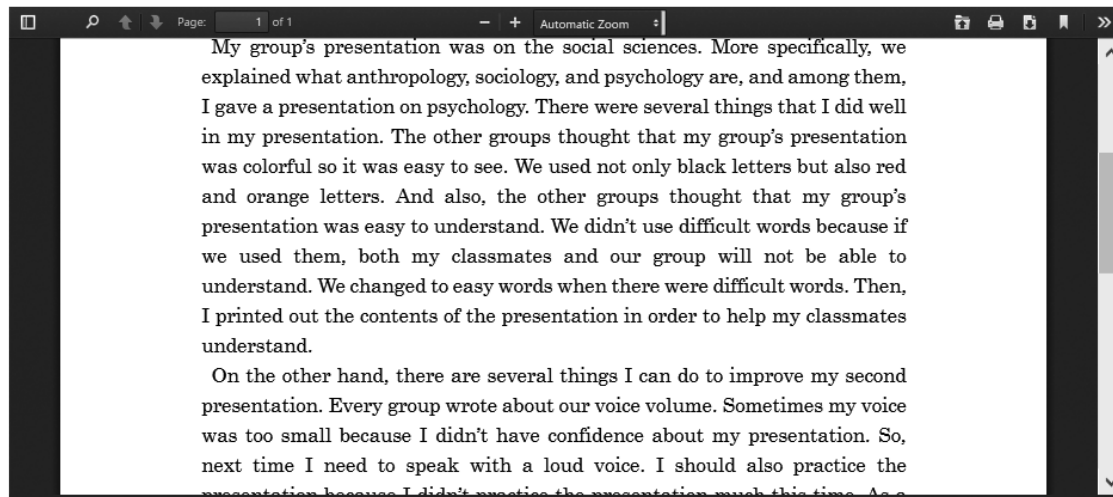
Alice: Good morning, James. Today is bread and scrambled eggs. *(While coking, high torn.)*

James: Oh! That's sounds like great.

Alice: Weather isn't fine, is it? Please help cooking. *(A fog has set in gradually in the*

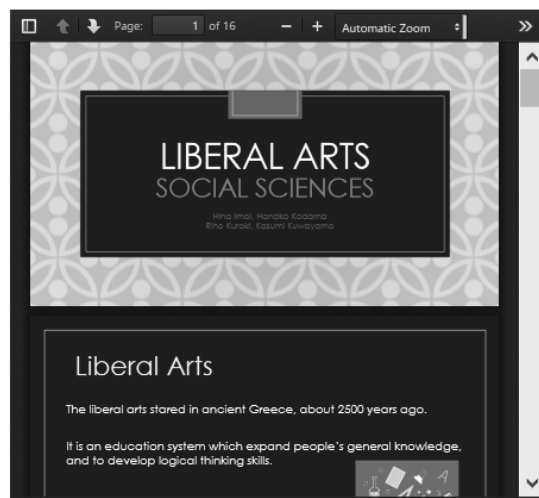
LIB101 Introduction to Liberal Arts

PDF



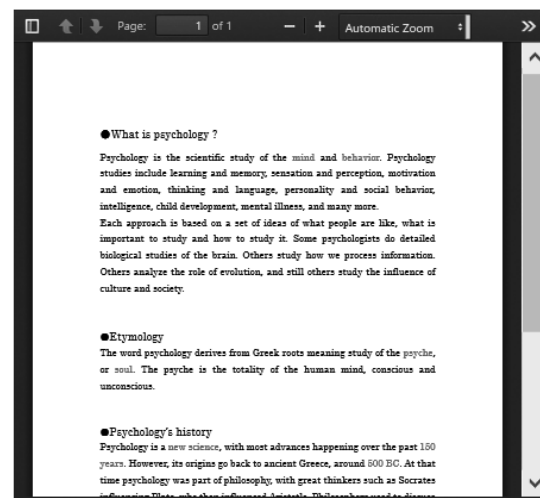
Details

PDF



Details

PDF



Details

Text

- Good things
 - use picture.
 - easy to see.
 - good information.
 - easy to understand.
 - The power point was colorful.
 - The information was clear.
 - Visual beautiful.

GSC 101 intro to ICT

intro to ICT

Questionnaire

Posted by Hanako Kodama on 19 July 2017, 1:24 AM

Last week, I made questionnaires about hair. Question 1 is that "Have you ever changed the color of your hair?". Question 2 is that "How often do you go to hair salon?". Question 3 is that "Do you use a drier?". Question 4 is that "Have you ever got a perm?". Last question is that "What are some reasons you change your hair color (or do not change)?". Next week, I will ask my friends these questions.

Add comment

Excel test

Posted by Hanako Kodama on 04 July 2017, 1:30 PM

I had an excel test last week. First, I saw an answer page with a computer. And then, I made two charts. I imitated the answer page. It took me a long time. The test was difficult for me.

Add comment

Excel

Posted by Hanako Kodama on 28 June 2017, 12:11 AM

Last week, I done excel. And then, I made four questions about cell phone. After that, I interviewed my classmates. My questions are "What kind of your phone?", "Do you install LINE?", and "Do you cover your cell phone?". I was surprised. Because everyone install LINE. And then, I made a chart with excel. Excel is difficult for me. However, it is useful.

Add comment

My typing speed

Posted by Hanako Kodama on 22 June 2017, 1:32 PM

My typing speed has increased rapidly from first time to second time. It is noticeably to see my typing speed improving. My peak of my typing speed is 44WPM. The speed between 12th time and 14th time is remained steady. My typing speed from 10th time to 18th time is gradually improving. My typing speed from 5th time to 6th time is decreasing.

Add comment

Interview

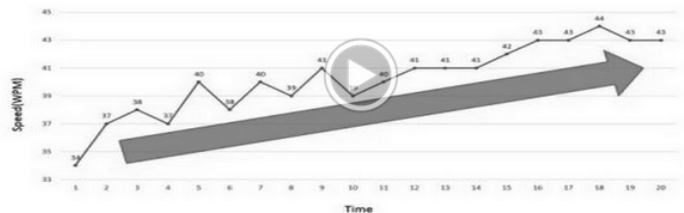
Posted by Hanako Kodama on 20 June 2017, 1:06 PM

Last week, I did type of Harry Potter. Gradually, the speed of my type is improving. It is exciting. After that I made a question. My question was "What is your blood type?". And then, I interviewed my classmate. The blood type of A and AB was the most popular. I was surprised!!

Add comment

Presentation

My typing speed



Unit 1 : Vocabulary

Student	Word	Part of Speech	Definition
-	assist	verb	to help somebody to do something
20171001	bar	noun	displays information about the website or program that you are using
20171002	bottom	noun	the lowest or deepest part of anything.
20171003	browser	noun	a program that lets you look at internet documents
20171004	button	noun	the user can click on or touch to choose an option.
20171005	capital letter	noun	a letter of the form and size that is used at the beginning of a sentence or a name
20171006	choose	verb	to decide which thing or person you want out of the ones that are available
			to choose a particular function or item on a computer screen, etc., by

Unit2 : Email

Situation 2 :

Subject : We can't go to today's party.

Hello, Anderson.

We are sorry, we can't go to tonight's party because we just remembered we have an important test tomorrow.

So, we have to study today.

Thank you.

Hanako Kodama

Page 1 / 1

Unit 3 : Typing



Collection: Study Abroad e-Portfolio :

Next page >

Navigate to page:

You are on page 1/3

Area studies :
(7533words)

Halloween (300words)


October 31 is a special day "Halloween". In Japan, it is becoming popular recently, so many people wear costume and held a Halloween party. However, Japanese do not do trick or treat and carve a pumpkin. Therefore, it was my first real Halloween. I had a Halloween party in CSUSM. Many people wore the costume and took many pictures. I became a poodle. I just put the poodle mask on my face. My host father recommended to me. It looks real so it was creepy and cute. I thought everyone got scared but they said it was cute and funny. Therefore, I was glad to make people smile. Moreover, I got second prize in the contest. It became a good memory. After that, I joined the game, and I got the Halloween cookies. Today was a good day for me. After school, I walked around the house to do trick or treat with my host family. It was my first time to do trick or treat, so it was very fun. My host son and daughter got a lot of candy. Because it had a lot of scary dolls, spooky voice, smoke, and blinking lights. Blinking lights and smoke were hard to see, so children could not guess what happened in here. Moreover, my host father wore a costume which was a pastor, and he put a scary mask on. He hid behind the tree, and many children were surprised. Those things made it scarier, and some children cried because of fear. He likes making people scared, so he said it is unusual. However, it was fun to make people scared. The experience of Halloween is unforgettable for me.

Oceanside Orientation (166words)


Today, I went to the Oceanside for orientation by train. Oceanside is a city famous for its beach. The train was very comfortable, but Oceanside was a little bit farther than I thought. I have never been to the Oceanside with my host family, but to go with my friends was also very fun. I went to the Oceanside Pier. There were a lot of fish, and they got fish like chub mackerel. Today was chilly so I could not swim, so I want to come here again. In addition, I want to go to the downtown Oceanside, not only the beach. There was a farmer market, and it sold a lot of things like food and clothes. And also, there were many shops and restaurants. I ate a sandwich in lunch time. When I ordered, I still became nervous because I have to talk with native speakers. I want to talk with them without being nervous before going back to Japan. I could enjoy to spend in the Oceanside.

The Pumpkin Decoration (155words)


Oceanside with Host Family (171words)


ループリック・ベース・シラバスワーキンググループ (RBSWG)

Group Members : Alan Simpson, Erik Bond, Lloyd Walker, Koji Watanabe

Summary of Working Group Activity this year

今年度のワーキンググループの活動の要約

Activities 2017, April to 2018, March

July: Kansai International University Site Visit. To learn about the Kansai University of International Studies' assessment philosophy and structure, levels of assessment, the KUIS rubric template, steps of implementing assessment throughout a given semester and cohort, and build an institutional research relationship with them.

Oct: Rubric Survey to get faculty feedback about the use of rubrics

Nov: Presentation at the AL symposium

Dec: FD workshop to present the activities of the working group, and create discussion about the institutional rubric formats.

The Diploma Policy Objectives: Advanced Thinking, Global Perspective, Problem Solving, Communication and I.T. Proficiency, were broken down into the skills based categories of: Advanced Thinking, Global Perspective, English, Japanese and I.T. Skills. Those 5 categories were further broken down into 8 criteria for each category, resulting in a total of 40 skills, which the students will develop on their progression towards their graduation. Then a timetable for students to self-assess themselves was created from Orientation, end of 1st, 2nd, 3rd, and 4th year, so that they can visualize their progression.

Similarly a timetable was created for the faculty to decide which skills are applicable to each 1st, 2nd, 3rd and 4th year classes. These skills can then be mapped across to the grades for these classes. A similar visualization can then be created of the students' skill development up to their graduation.

7 月: 関西国際大学での視察を実施した。関西国際大学のアセスメントに関する考え方や実施体制、様々なレベルでのアセスメント、関西国際大学ループリックのテンプレート、そして、学期及び学年でのアセスメント実施のステップを学ぶことができた。

10 月: 本学教員のループリック活用に関する調査をした。

11 月: アクティブ・ラーニングシンポジウムでの発表をした。

12 月: グループの活動の報告及び DP ループリックに関する議論のための FD 研修会を実施した。

ディプロマ・ポリシーで定められた学修目標を盛り込んだループリックの開発について

私たちのワーキンググループは、ディプロマ・ポリシーで定められた学修目標である

「Advanced Thinking, Global Perspective, Problem Solving, Communication and I.T. Proficiency」を、技能という観点からカテゴリー化した「Advanced Thinking, Global Perspective, English, Japanese and I.T. Skills」の5つの大項目に分類した。その分類した各大項目は8つの小項目に細分化されるので、合計40の技能となる。この40項目が本学での学修において、本学の学生が育成する技能となる。

本学学生（国際教養学部）は、入学時のオリエンテーション、1年、2年、3年及び4年の最後に、DP ルーブリックにおいて、DP で示した目標への達成度を測るために自己評価し、学修目標に対する到達度を可視化することができる。同様に、各学年の授業で扱う DP ルーブリックの技能の項目を定める。授業の成績と DP ルーブリックの対応関係を定めておくことで、授業の成績から DP ルーブリックの評価を割り出す。こうすることで、学生は自己評価のみならず、授業から、DP ルーブリックの評価を得ることができる。

Plan for Next Year: 来年度の計画

Plan 2018-19

- ① Self-evaluation will be conducted for ILA freshmen (April 4)
- ② A FD session will be run to get faculty criteria for all 1st year subjects.
- ③ Test the Mahara system for linking 1st year 1st semester grades with course evaluation criteria.
- ④ Kansai International University visit to gather more institutional research data.
- ⑤ Rubric presentation at the JACET conference to get feedback on rubric development, and publish rubric development article.
- ⑥ Report research findings and future directions at the AP Symposium on Feb. 15 2019.

2018-19 年度の計画

- ① 国際教養学部の新入生に対して、本学の DP で定められた学修目標を説明し、自己評価を行うオリエンテーションを開催する。
- ② 国際教養学部の1年生の全ての授業と DP ルーブリックで定められた項目の対応関係を見出す FD 研修会を実施する。
- ③ 前期の1年生の成績と DP ルーブリック評価を関連付ける e-ポートフォリオシステムを試す。
- ④ より多くの機関研究データの収集のために、関西国際大学でのルーブリック活用を視察する。
- ⑤ JACET（大学教育大学英語教育学会での国際学会）に参加し、本学のルーブリック開発に関する論文を発表し、意見をもらう。
- ⑥ 2月のシンポジウムで、研究結果及び今後の方向性を報告する。

最終年度

Final Year

Conduct the 2nd year of Rubric evaluation for the cohort starting in 2018, and graduating in 2022.

Start the evaluation of the 2019 cohort. Use the automated Mahara developed evaluation system rather than the manual Qualtrics developed system.

最終年度

2022 年卒業予定で 2018 年から本学で学ぶ 2 年生の授業に対する DP ルーブリック評価を実施する。また、2019 年入学者に対する、DP ルーブリック評価を開始する。また、e-ポートフォリオ上で実施するシステムを開発する。

ルーブリック・ベース・シラバス WG の具体的な活動内容

List of AP-related Faculty Development AP 関連の FD

FD1	
Date 日付	December 7 th 2017 2017 年 12 月 7 日
Number of participants 参加人数	17 名
Title タイトル	Rubrics Working Group ルーブリック・ワーキンググループ
Purpose 目的	To present the activities of the working group, and create discussion about the institutional rubric formats. ワーキンググループの取組を発表し、共通ルーブリックに関する議論をするため
Content of FD 内容	1) Kansai International University rubric 関西国際大学でのルーブリック 2) MIC institutional rubric 本学で共通ルーブリック 3) Student self-evaluation visualization 学生自己評価の可視化 4) Linking grades to the institutional rubric ルーブリックと成績の関連付け
Result of FD 結果	The development of plans for the student self-evaluation system, and linking grades to diploma policy skills. 学生自己評価システム及びディプロマ・ポリシーと成績の関連付けについてのアイデアを進展させることができた。

List of Other Presentations, excluding FD. FD 以外の発表

Date 日付	November 25 th 2017 2017 年 11 月 25 日
Conference Name& Location 学会名及び場所	AP Symposium, Seagaia, Miyazaki シーガイア・コンベンションセンター
Title タイトル	Rubric Based Syllabus Working Group ワーキンググループの活動
Content 内容	Institutional Research, Faculty Survey, Faculty Development, Institutional Level Rubric, Course and Modular Level Rubrics, Student Level Rubric, Before and After Study Abroad Rubrics 機関研究、教員への調査、FD、共通ルーブリック、コースルーブリック、学生ルーブリック、留学ルーブリックなど

List of Data Collection Activity (Survey, Observation, Interview, etc.) データ収集活動

Data Collection 1.	
Date 日付	July 7 th 2017 2017年7月7日
Purpose 目的	To learn about the Kansai University of International Studies' assessment philosophy and structure, levels of assessment, the KUIS rubric template, steps of implementing assessment throughout a given semester and cohort, and build an institutional research relationship with them. 関西国際大学のアセスメントに関する考え方や実施体制、様々なレベルでのアセスメント、関西国際大学ルーブリックのテンプレート、そして、学期及び学年でのアセスメント実施のステップを学ぶことができた。
Data Collection Method データ収集方法	Institutional visit 機関視察
Characteristics of participants 調査対象者	KUIS President Hamana and the KUIS Assessment team 関西国際大学 濱名学長及びアセスメントチーム
Major Findings 主な調査結果	
Recommendations:	

The KUIS representatives at our meeting had the following direct advice for MIC:

- That we should take some tools from KUIS but be sure to devise our own system.
- Rubrics, while useful for measuring outcomes, are alone neither reliable nor sufficient as an assessment medium.
- That we should not just *have* a system in place because it looks good, but rather have a workable system that is facile for use by faculty and staff. If any system we implement is not used consistently, we should revise it until it works well enough that it is used consistently.
- That we should gather data, and also that said data should be genuinely useful to inform our pedagogy and not just for abstract reports.
- That we should remain always focused on how our system is (or is not) actually helping our students. If the system is not helping students (and, by extension, educators) then it is not a good system.

ミーティングをしたKUIS代表者から、本学への直接的なアドバイスを頂いた。

- KUISで使用されているツールを採用しても良いが、独自のシステムを構築すべきである。
- ルーブリックは成果を測定するのに役立つが、アセスメントの手段として単独では信頼性に欠けるし、十分ではない。
- 良さそうという理由で単にアセスメントのシステムを構築するのではなく、学生及び教員が容易に活用できる、機能するシステムを構築すべきである。実施しているシステムが一貫性なく使用されているなら、そのシステムが十分に一貫性を持って活用できるまで、改訂すべきである。
- データの収集をすべきで、データは抽象的なレポートのためではなく、教授法の改善を示すのに役立つものとなるべきである。
- どのようにしてシステムが学生の助けとなっているかを常に念頭に置くべきである。学生（及び教育者）の助けとなっていないなら、それは良くないシステムである。

Walker and Bond have the following recommendations:

- It is clear that a dedicated assessment presence is necessary on MIC's campus if we are to meet assessment standards in the future. At KUIS, in addition to the faculty and administration who engage directly with students, two dedicated faculty and two staff are responsible for managing the assessment infrastructure. Such a dedicated body is fairly standard at institutions outside of Japan. A working group of faculty and staff who meet periodically cannot approximate our needs.
- The collection and maintenance of panel-level data is a goal worth striving for.

Because of the labor intensiveness of this objective, it will likely be something to be implemented incrementally.

- Membership in President Hamana's consortium could be a readily achievable asset to MIC's progress. In addition to collaborative opportunities, we might be able to get access to their data sets for comparative purposes. Such access would also help us more quickly refine our data collection process.
- Content standards for many courses will need to be revised to be outcome-driven. This will be an ongoing process, but bringing together the pedagogy of the ILA department and the assessment standards of the EDU department may be a goal worth making explicit. However it takes shape, faculty should be strongly involved in this process.
- In the future, whether with KUIS or other institutions, MIC representatives should compile our questions and goals and submit them to our destination institution at least one week prior to arrival whenever possible. Taking questions and goals from faculty and staff not attending the visit may be a worthwhile approach.
- This visit proved exceptionally productive and valuable to our goals. Further collaboration with KUIS and other institutions with a dedicated assessment infrastructure are highly recommended—especially with those institutions with an internationally minded and forward-thinking agenda.

以下は、視察を実施した本学のボンド及びウォーカーの忠告である。

- 将来的に、アセスメントの基準を満たす予定であるなら、本学のキャンパスには専用のアセスメントシステムが必要である。KUISでは、学生と直接的に関わる教員及び管理者がいる他に、専任教員2名及び職員2名がアセスメントの基盤の責任を持って、管理している。そのような強固な組織が国外では、標準である。教員及び職員から成るワーキンググループでは、その要求を満たすことはできない。
- パネルレベルのデータ収集及び管理は、目指す価値のある目標である。この目標にかかる労力を考えると、少しずつ取り組むものであろう。
- 濱名学長のコンソーシアムの会員となることは、本学の進展のための財産となるであろう。共同研究の機会の他に、比較分析目的で、KUISのデータへのアクセスも可能となるかもしれない。そのようなアクセスにより、MICでのデータ収集の過程をより素早く改善できるかもしれない。
- 本学の多くの授業の内容の基準は、成果に基づいたものへと変更する必要がある。これは、進行中のプロセスとなるが、国際教養学部での指導方法及び教育学部での評価基準をうまく統合することは、明確にする価値のある目標かもしれない。どのような形になるにせよ、教員がこのプロセスに深く関わらないといけない。
- 将来的には、KUISもしくは他の機関になろうが、視察する機関を訪ねる最低1週

<p>間前には、本学の代表者は質問及び目的をまとめ、その機関に送付する必要がある。視察に参加しない教員や職員からも質問及び目的を募ることは、有益な方法かもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の視察は、本学の目標にとって、非常に有益で価値のあるものとなったと言えるであろう。専用のアセスメント基盤のあるKUIS及び他の機関との更なる協力は、非常に推奨される。特に国際感覚及び未来志向の議題を持つ教育機関との協力は、有益であろう。 	
Data Collection 2	
Date 日付	October 10 th 2017 2017年10月10日
Purpose 目的	To get faculty feedback about the use of rubrics ルーブリックの仕様に関して教員からのフィードバックをもらうため
Data Collection Method データ収集方法	Qualtrics Online and anonymous survey オンライン調査
Characteristics of participants 調査対象者	Thirteen International School of Liberal Arts Faculty. 国際教養学部の教員13名
Major Findings 主な調査結果	<p>84% of faculty use rubrics. Faculty are wary of creating extra work for students and themselves. And how any new rubric system could be integrated into Mahara and be beneficial for the students. Therefore, the faculty would like any new rubric development to support both the faculty and students.</p> <p>84パーセントの教員が授業で（なにかしらの）ルーブリックを使用した。（新たなルーブリックを使用することで）教員は、学生や自分にとって、余計な仕事となることを心配している。また、どのようにして新しいルーブリックがマハラに統合され、学生のためになるのかを危惧している。よって、教員は、教員及び学生を支援する新しいルーブリックシステムの発展を望むであろう。</p>

2. FD 及び学生へのオリエンテーション

AP 関連の FD 研修会（詳細は、各 WG のレポートを参照）

日付	参加教員数	タイトル
2017 年 5 月 25 日	20 名	アクティブ・ラーニングの手法及びこれまでの取組
2017 年 10 月 26 日	9 名	マハラでの双方向ジャーナル及びブログの作成
2017 年 12 月 7 日	11 名	e-ポートフォリオ及びルーブリックワーキンググループの 合同 FD 研修会
2018 年 2 月 1 日	15 名	宮崎国際大学のクリティカル・シンキングテスト

FD の様子



学生への e-ポートフォリオ・オリエンテーション（詳細は EPWG のページを参照）

日付	参加学生数	タイトル
2017 年 6 月 2 日	63 名	新入生への e-ポートフォリオ・オリエンテーション
2017 年 6 月 21 日	40 名	留学 e-ポートフォリオ・オリエンテーション
2018 年 1 月 23 日及 び 25 日	56 名	国際教養学部 1 年生の学年末ページのためのオリエンテーション

オリエンテーションの様子



オリエンテーション資料

**国際教養学部1年生
マハラ・オリエンテーション
学年末ページ作成について**
ILA 1st Year Page Orientation

2018年1月23, 25日

マハラのログイン Log into your Mahara
送ったファイルを準備 Put the file on Desktop



1

大学教育再生加速プログラム(AP)
Acceleration Program for University Education
Rebuilding 2014 to 2020

• 教育向上のための文部科学省からの助成金
アクティブラーニングの向上 クリティカルシンキング能力の測定



ループブックの開発・導入

e-ポートフォリオの導入・使用



2

マハラ & mahara

• e-ポートフォリオ
授業で学んだことや得た情報を、ファイル(ワード、エクセル、パワーポイント、PDF、写真など)として記録・管理できるインターネット上のスペース



授業での活用
ICT Spring 2016

1年学年末ページ
2年留学ページ

3

e-ポートフォリオ(Portfolio)

• 本学での学修成果の可視化 (Visualization of Learning Outcomes at MIC)

• 4年間の学修記録 (Evidence of Learning Outcomes at MIC)

1. 1年生の学年末ページ (1st year page)
2. 2年生の留学ページ (2nd year study abroad page)
3. 3・4年生の卒業論文ページ (3rd & 4th year senior thesis)

+

授業で作成したページ (Intro to Liberal Arts, Global Citizenship, ICT)

4

今日すること: What to do today

1. レイアウトの作成: Create a page layout (10 mins)
2. シークレットURLの貼り付け: Paste secret URLs (10)
3. 各項目への書き込み: Writing (5 mins each)
4. PDFファイルへの変換: How to create PDF (5 mins)
5. 提出方法: How to submit your page (5 mins)

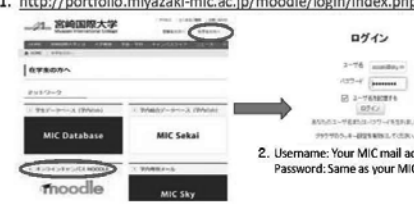
各自完成させて

1. 提出期限: Due on Friday, 2nd, Feb

5


Log in to Mahara (via Moodle)

1. <http://portfolio.miyazaki-mic.ac.jp/moodle/login/index.php>



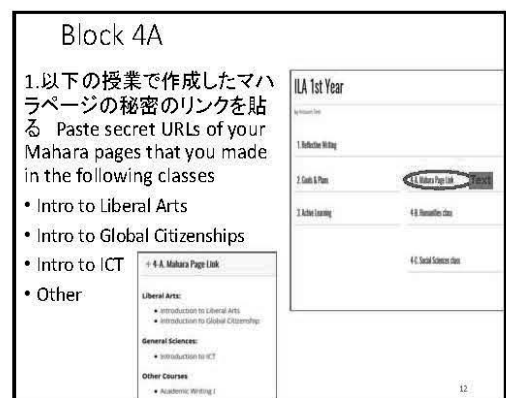
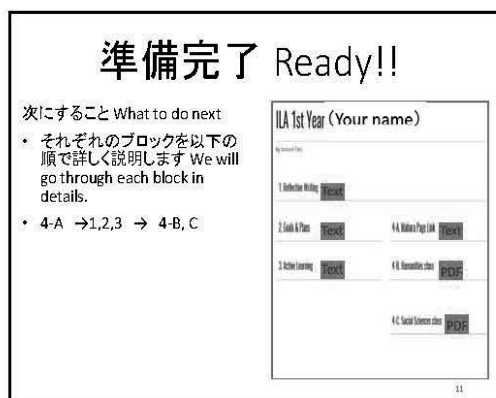
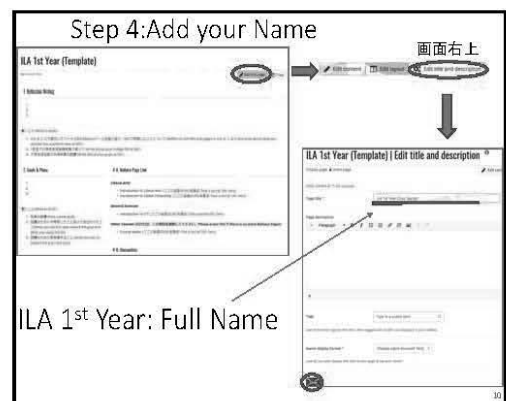
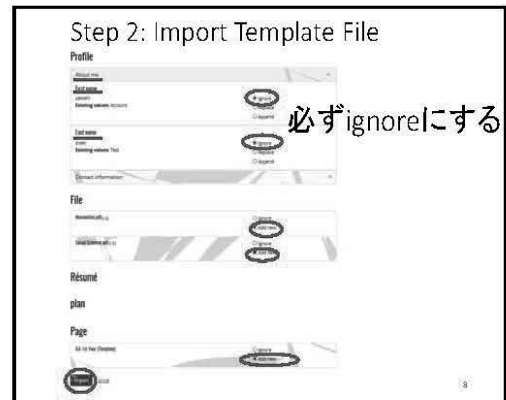
2. Username: Your MIC mail address
Password: Same as your MIC password

3. Click on Mahara



6

オリエンテーション資料



オリエンテーション資料

How to generate a Secret URL: Secret URLの作り方

Click on "New secret URL" and an URL will be created. Then make a copy.

URLのコピーが完了

How to paste a Secret URL: Go to 4-A

Select "Introduction to ICT" Introduction to ICTを選択

Paste URL

Make sure that the color changed 完了すると色が変わります!!

今すること: What to do now

Insert secret URI

- Intro to Liberal Arts
- Intro to ICT
- Other

4-A Mahara Page Link

Liberal Arts:

- Introduction to Liberal Arts
- Introduction to Global Citizenship

General Sciences:

- Introduction to ICT

Other Courses

- Academic Writing I

Block 1, 2, & 3

- 赤い文字の指示に従って書き込む Follow the instructions in red and write
- 書いた後は、赤い文字の指示は消してください。 After writing is finished, erase the instructions in red.

今すること: What to do now

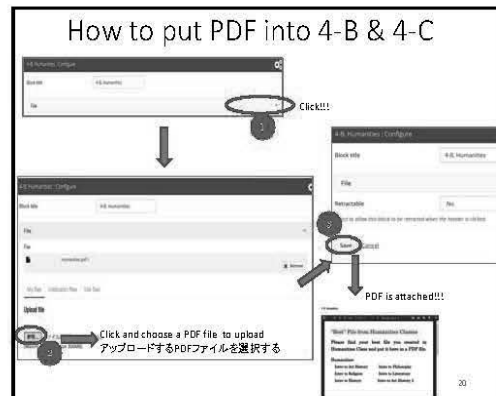
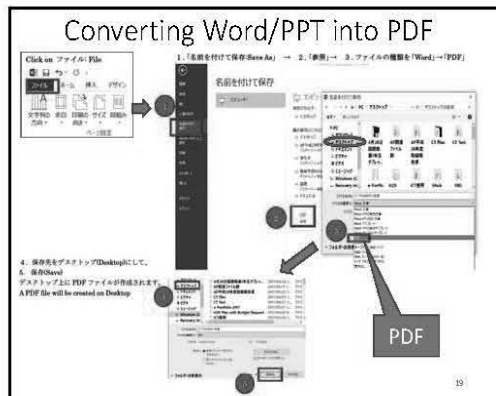
Block 1, 2, & 3: in Japanese and English

- International students: English only
- Japanese students: Japanese & English

- Work on Block 2: 5 minutes
- Work on Block 3: 5 minutes
- Work on Block 1: 5 minutes

Block 4B & 4C

- HumanitiesとSocial Sciencesの授業で作成した各ファイルをPDFにして、貼る。 それぞれ、一番良い作品 Find one file you created in Humanities Class and in Social Sciences Class respectively. The best one from each category.



提出 (Submission)

Deadline: Wed, 3rd, Feb (2月3日水曜日)

- ムードルのコースから提出 Submit your Secret URL through the moodle course, "AP 2017 ILA 1st year page".
- 提出前にページの要件をすべて満たしていることを確認してください。Before submitting your page, make sure that your page satisfies all the page requirements.

3. 宮崎国際大学・アクティブ・ラーニングシンポジウム 2017

日時：平成29年11月25日（土）

受付13：00～

開始13：30～16：50

情報交換会17：00～18：00

場所：場所：シーガイア・コンベンションセンター

内容：本学の各 AP ワーキンググループの取組

主催：宮崎国際大学

参加者：60 名（内部も含む）

宮崎国際大学
アクティブ・ラーニング
シンポジウム 2017

日時: 2017 11/25 (土) 13:30~16:50 (受付13:00~)

会場: シーガイアコンベンションセンター3F瑞洋 (〒880-8545 宮崎県宮崎市山崎町5-1)

主催: 宮崎国際大学 文部科学省・大学教育再生加速プログラム (AP) テーマ1・II 複合型加速12

スケジュール

- 13:30 開会の挨拶 登壇: 山下 恵子
本学のAP事業への取組概要
登壇: ベンジャミン・ピーターズ
Overview of the MIC AP project Vice President Benjamin Peters
- 13:35~13:50 本学におけるアクティブ・ラーニングの調査
登壇: グレゴリー・ダンズ カタリーナ・モーク教授
Surveying Active Learning Activity at MIC
Presenters: Prof. Gregory Dunes Asst. Prof. Catharine-Mette Moerk
- 14:45~15:00 休憩 Break
- 15:00~15:35 本学でのクリティカル・シンキング測定及び教授法の改善
登壇: クリストファー・ジョンソン教授
Critical Thinking Assessment and the Improvement of Instruction at MIC
Presenter: Asst. Prof. Christopher Johnson
- 15:35~16:10 学習目標と学習成果測定のためのルーブリック
登壇: ロイド・ウォーカー 学部長補佐
Rubric for Assessment of Learning Objective and Outcome
Presenter: Assistant to the Dean of Faculty Lloyd Walker
- 16:10~16:45 本学でのeポートフォリオの活用: これまでの取組及び展望
登壇: 清水 貴志講師
ePortfolio Utilization at MIC: So Far and Into the Future
Presenter: Lecturer Yukichi Shimizu
- 16:45~16:50 閉会の言葉 Closing Remarks
APプロジェクトリーダー・学部長補佐 西村 直樹
AP Project Leader/Assistant to the President Naoki Nishimura
- 17:00~18:00 情報交換会 Information Exchange Session

詳しくはこちらのページをご覧ください。 <https://www.mic.ac.jp/ap/symposium>

事前申込み(参加費無料) 11月16日(金)までにQRコードの下のオンライン申込欄で
お申込み。 <https://goo.gl/forms/58P2C83wskZALP512>

宮崎国際大学AP事務局 TEL: 0985-86-5931 e-mail: ap@sky.miyazaki-u.ac.jp
宮崎国際大学 〒880-8545 宮崎県宮崎市山崎町5-1 4F 407号室 URL: <http://www.mic.ac.jp/>

平成29年11月25日(土)
Saturday, November 25, 2017

宮崎国際大学アクティブ・ラーニングシンポジウム2017
MIYAZAKI INTERNATIONAL COLLEGE
ACTIVE LEARNING SYMPOSIUM 2017

大学教育再生加速プログラム (AP) テーマI-II 複合型
Acceleration Program for University Education Rebuilding (AP) Themes I & II Combined

プログラム / Program

司会: 学部長補佐 ロイド・ウォーカー
MC Assistant to the Dean of Faculty Lloyd Walker

13:00 受付開始 Reception

13:30 開会の挨拶 Opening Remarks
登壇: 学長 山下 恵子
President Kenzo Yamashita

13:35~13:50 本学のAP事業への取組概要 Overview of the MIC AP project
登壇: 副学長 ベンジャミン・ピーターズ
Vice President Benjamin Peters

13:50~14:45 本学におけるアクティブ・ラーニングの調査 Surveying Active Learning Activity at MIC
登壇: グレゴリー・ダンズ教授 カタリーナ・モーク教授
Presenters: Prof. Gregory Dunes Asst. Prof. Catharine-Mette Moerk

本発表では、本学で開発されている様々なアクティブ・ラーニング教授法のなかからベストプラクティスを特定する研究の進捗状況、及びアクティブ・ラーニング調査(学生と教員)に関する取組について報告します。また、その調査結果が本学の個別の学習環境で、また、継続して使われているアクティブ・ラーニング教授法の開発にどのように役立っているかについて報告します。

This presentation speaks to ongoing research into the identification of best practices in active learning at MIC and reports upon recent findings gathered from active learning surveys (student and teacher) and how those findings contribute to a further understanding of how active learning strategies (ALLT) are being used within and among the various disciplines at MIC.

14:45~15:00 休憩 Break

15:00~15:35 本学でのクリティカル・シンキング測定及び教授法の改善 Critical Thinking Assessment and the Improvement of Instruction at MIC
登壇: クリストファー・ジョンソン教授
Presenter: Asst. Prof. Christopher Johnson

2016年の始めから、クリティカル・シンキングワーキンググループは、本学学生のクリティカル・シンキングスキルを測定するテストを開発してきました。本発表では、そのテストの開発及び実施、そして、アクティブ・ラーニング教授法をクリティカル・シンキング能力の向上の観点から捉え直すべく検討されているアクティブ・ラーニングワーキンググループとの協働について報告します。

Since early 2016, the Critical Thinking Working Group has been developing a critical thinking test to assess the critical thinking skills of MIC students. This presentation will discuss the development and delivery of the critical thinking test, as well as our recent collaboration with the Active Learning Working Group to interpret active learning strategies (ALLT) in terms of critical thinking skills.

15:35~16:10 学習目標と学習成果測定のためのルーブリック Rubric for Assessment of Learning Objective and Outcome
登壇: ロイド・ウォーカー 学部長補佐
Presenter: Assistant to the Dean of Faculty Lloyd Walker

本学の教育目標は2017年に改定され、その結果内容は、本学の教育目標(コア・コンピテンシー)と一致し、ルーブリックに反映されました。ルーブリックは、学生の学習成果を測定するために使用されています。本発表では、そのルーブリックの作成と使用について報告します。また、ルーブリックの作成と使用に関する取組について報告します。

The educational goals of MIC are being revised in 2017. The changes to these goals were reflected in our revised Learning Objectives and Outcomes. This presentation will describe how the rubric and goals are working in tandem to assess student learning and faculty surveys on rubric use, as well as cover strategies to continue to better both the implementation of and delivery of rubrics.

16:10~16:45 本学でのeポートフォリオの活用: これまでの取組及び展望 ePortfolio Utilization at MIC: So Far and Into the Future
登壇: 清水 貴志講師
Presenter: Lecturer Yukichi Shimizu

eポートフォリオシステムはAP事業を通じて本学に導入され、現在試験的に利用されています。本発表では、そのシステムの導入を、授業での活用とAPセッションにおける活用の両面から報告します。また、eポートフォリオが学生の学習の進捗を、また、自身の学習の進捗を把握するための学習成果の可視化にどのように役立っているかについて報告します。

Through the AP Grant, an ePortfolio system has been introduced at MIC and is being employed both inside and outside of course content. This presentation will describe ways in which the system is being used at MIC through specific examples of prehistory and assessment. In addition, the ePortfolio will be discussed as a means by which learning outcomes may be visualized to foster autonomous student learning and to promote a greater awareness of individual progress.

16:45~16:50 閉会の言葉 Closing Remarks
APプロジェクトリーダー・学部長補佐 西村 直樹
AP Project Leader/Assistant to the President Naoki Nishimura

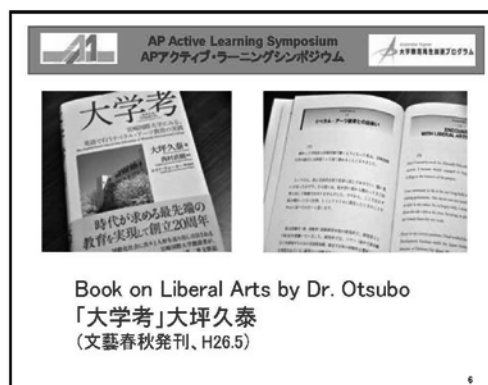
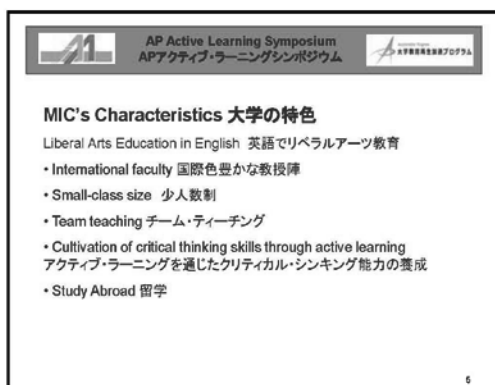
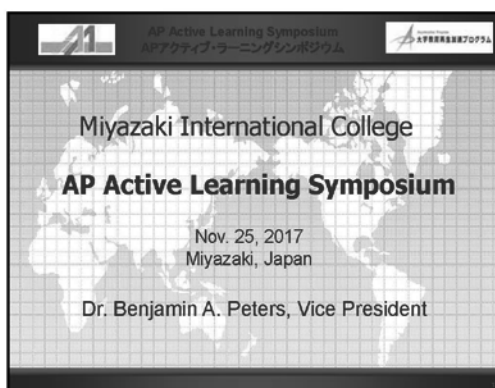
17:00~18:00 情報交換会 Information Exchange Session

シンポジウムの様子



シンポジウム発表スライド

本学のAP事業への取組の概要



本学のAP事業への取組の概要

AP Active Learning Symposium
APアクティブ・ラーニングシンポジウム

Overview : 概要

1. Miyazaki International College (MIC): Liberal Arts Education in English
宮崎国際大学 : 英語でリベラルアーツ教育
2. The Acceleration Program for University Education Rebuilding (AP) at MIC
本学における大学教育再生加速プログラム (AP)

7

AP Active Learning Symposium
APアクティブ・ラーニングシンポジウム

MIC-AP
宮崎国際大学大学教育再生加速プログラム

Themes I & II Combined テーマ I・II 複合型

- I. Active Learning アクティブ・ラーニング
- II. Visualization of Learning Outcomes
学修成果の可視化

8

AP Active Learning Symposium
APアクティブ・ラーニングシンポジウム

MIC-AP Project Goals プロジェクト目標

1. To further develop current practices in active learning, and clarification and implementation of best practices
実践しているALを体系化し、効果的なALの手法を提示する。
2. To develop an objective critical thinking measurement and assessment tool
クリティカル・シンキング(CT)を測定するツールの開発
3. To develop an active learning program for the enhancement of English language skills 英語スキルを向上させるALプログラムの構築
4. To visualize learning outcomes through the use of an ePortfolio
e-ポートフォリオを用いた学修成果の可視化
5. To develop a PDCA cycle for learning by introducing rubric-based syllabi
ルーブリック・ベース・シラバスの導入による学修のPDCAの確立

9

AP Active Learning Symposium
APアクティブ・ラーニングシンポジウム

Miyazaki International College Active Learning Symposium 2017
宮崎国際大学アクティブ・ラーニングシンポジウム2017

- Surveying Active Learning Activity at MIC
本学におけるアクティブ・ラーニングの調査
- Critical Thinking Assessment and the Improvement of Instruction at MIC
本学でのクリティカル・シンキング測定及び教授法の改善
- Rubrics for Assessment of Learning Objectives and Outcomes
学修目標と学修成果測定のためのルーブリック
- e-Portfolio Utilization at MIC: So Far and Into the Future
本学でのe-ポートフォリオの活用:これまでの取組及び展望

10

AP Active Learning Symposium
APアクティブ・ラーニングシンポジウム

宮崎国際大学 AP Model Syllabus モデルシラバス

11

AP Active Learning Symposium
APアクティブ・ラーニングシンポジウム


宮崎国際大学 AP Model Syllabus

Miyazaki International College
Course Syllabus (Spring/Fall Semester 20XX)


Course Title/Credits	Section 01: Nature of Coursework (20XX)
Location	Faculty Room
1-4th session	Faculty Room (Room No. 101)
5th session	AMC 101 (L1, R1)
Other notes	Monday 10:00 - 12:00 Tuesday 10:00 - 12:00
Location	Faculty Room
1-4th session	Faculty Room (Room No. 101)
5th session	AMC 101 (L1, R1)
Other notes	Monday 10:00 - 12:00 Tuesday 10:00 - 12:00

12

本学のAP事業への取組の概要



AP Active Learning Symposium
APアクティブ・ラーニングシンポジウム




大学教育研究センター
 大学教育研究センター


宮崎国際大学 AP Model Syllabus

<p>1. Course Overview</p> <p>This course is designed to provide students with a solid foundation in the field of AP. The course is designed to be a challenging and rigorous program that will provide students with the knowledge and skills necessary to succeed in the field of AP. The course is designed to be a challenging and rigorous program that will provide students with the knowledge and skills necessary to succeed in the field of AP.</p> <p>2. Course Objectives</p> <ul style="list-style-type: none"> Students will be able to identify and describe the major concepts and theories in the field of AP. Students will be able to apply the concepts and theories in the field of AP to real-world situations. Students will be able to analyze and evaluate the research in the field of AP. Students will be able to communicate their understanding of the field of AP to others. <p>3. Course Structure</p> <p>The course is structured as follows:</p> <ul style="list-style-type: none"> Week 1: Introduction to the field of AP Week 2: The history of the field of AP Week 3: The major concepts and theories in the field of AP Week 4: The application of the concepts and theories in the field of AP Week 5: The analysis and evaluation of the research in the field of AP Week 6: The communication of the understanding of the field of AP <p>4. Course Materials</p> <p>The course materials include:</p> <ul style="list-style-type: none"> Textbook: [Textbook Title] Research articles: [Research articles] Case studies: [Case studies] Video lectures: [Video lectures] <p>5. Course Evaluation</p> <p>The course is evaluated as follows:</p> <ul style="list-style-type: none"> Midterm exam: 30% Final exam: 40% Class participation: 10% Research paper: 20% 	<p>2. Course Overview</p> <p>This course is designed to provide students with a solid foundation in the field of AP. The course is designed to be a challenging and rigorous program that will provide students with the knowledge and skills necessary to succeed in the field of AP. The course is designed to be a challenging and rigorous program that will provide students with the knowledge and skills necessary to succeed in the field of AP.</p> <p>3. Course Objectives</p> <ul style="list-style-type: none"> Students will be able to identify and describe the major concepts and theories in the field of AP. Students will be able to apply the concepts and theories in the field of AP to real-world situations. Students will be able to analyze and evaluate the research in the field of AP. Students will be able to communicate their understanding of the field of AP to others. <p>4. Course Structure</p> <p>The course is structured as follows:</p> <ul style="list-style-type: none"> Week 1: Introduction to the field of AP Week 2: The history of the field of AP Week 3: The major concepts and theories in the field of AP Week 4: The application of the concepts and theories in the field of AP Week 5: The analysis and evaluation of the research in the field of AP Week 6: The communication of the understanding of the field of AP <p>5. Course Materials</p> <p>The course materials include:</p> <ul style="list-style-type: none"> Textbook: [Textbook Title] Research articles: [Research articles] Case studies: [Case studies] Video lectures: [Video lectures] <p>6. Course Evaluation</p> <p>The course is evaluated as follows:</p> <ul style="list-style-type: none"> Midterm exam: 30% Final exam: 40% Class participation: 10% Research paper: 20%
--	--

[illegible][illegible][illegible]



AP Active Learning Symposium
APアクティブ・ラーニングシンポジウム



大崎学園大学
WAKOKU UNIVERSITY

富崎国際大学 AP Model Syllabus

Thank you and enjoy the symposium!

AP Active Learning Symposium
APアクティブ・ラーニングシンポジウム

Active Learning Working Group (ALWG)

アクティブ ラーニング ワーキング グループ

発表者:
グレゴリー ダン カタリーナ モーク
Gregory Dunne & Cathrine-Mette Mork

Outline

- 1) Activities to date
今までの活動
- 2) Questionnaire Analysis
アンケートの分析
- 3) Future Plans
これからの計画

What is Active Learning (AL)? アクティブラーニングとは？

"...[S]tudents must do more than just listen: they must read, write, discuss, or be engaged in solving problems. Most important, to be actively involved, students must engage in such higher-order thinking tasks as analysis, synthesis, and evaluation.

Within this context, it is proposed that strategies promoting active learning be defined as instructional activities involving students in doing things and thinking about what they are doing."

(Bonwell & James. 1991).

Initial Research Questions 初期の研究課題

Active Learning Teaching Strategy(ALTs)
アクティブラーニングのツール

- 1) Preferred practices for ALTs?
アクティブラーニングのツールで好んで使われているものは何か？
- 2) Connection between ALTs & course type/discipline?
授業の種類・教科によって用いられているツールの傾向があるか？
- 3) Connection between ALTs & MIC's CT goals?
アクティブラーニングとクリティカルシンキングの発達に相関性はあるか？

Prior to 2017 2017以前

- 1) Compilation of ALTs, refined through informal discussion with faculty アクティブラーニングツール(ALTs)のリストアップ：教員との対話による
- 2) Class observations クラスの見学
- 3) Interviews with Instructors 教員へのインタビュー
- 4) Development of a classification system for ALTs
ALTsリストから、カテゴリーを見出し分類した
- 5) Development & pilot of teacher & student questionnaires 学生および教員アンケートの開発とパイロット

Categorization of ALTs ALTsの分類

- 1) INWARD - intrapersonal strategies involving reflective, mostly written, mostly individual work

内向き - 思案や記述など、主に個人的に行う学習活動
- 2) OUTWARD - interpersonal strategies involving communicative involvement with others

外向き - 他者と供に行う学習活動

Categorization of ALTSS
ALTSSの分類

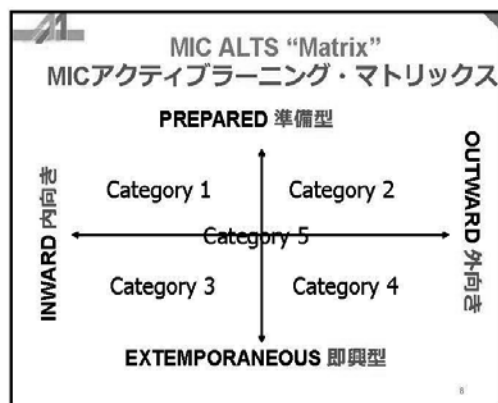
3) **PREPARED** - strategies allotted longer preparation or rehearsal time and involving presenting to an audience and/or submitting work

準備型 — 事前に準備をしておく学習活動

4) **EXTEMPORANEOUS** - strategies that are more impromptu, often in pairs or small groups

即興型 — その場の状況に応じて展開させる学習活動

7



Cat. 1: INWARD-PREPARED
内向き-準備型

Examples 例:

Self-assessment 自己評価

Written Paraphrases / Summaries
言い換えたり、概要をまとめて書くこと

9

Cat. 2: OUTWARD-PREPARED
外向き-準備型

Examples 例:

Formal Debates 構成されたディベート

Presentations プレゼンテーション

10

Cat. 3: INWARD-EXTEMPORANEOUS
内向き-即興型

Examples 例:

Written Peer Review of Written Work
学生同士の相互評価を記述

Pause for Reflection
思索する時間をとる

11

Cat. 4: OUTWARD-EXTEMPORANEOUS
外向き-即興型

Examples 例:

Role Play ロールプレイ

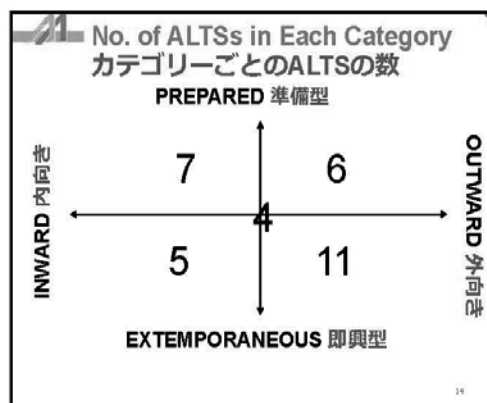
Facilitated Discussions
ファシリテートされたディスカッション

12

Cat. 5: ALL 4 QUADRANTS
4つのカテゴリー

Examples 例:
 Cooperative Based Projects
 他者と協力して行うプロジェクト
 Simulations and Experiments
 実践への応用と実験

13



Instructor Questionnaire
先生へのアンケート

- 1) Demographic questions 人口学的背景
- 2) ALTs use どのようなALTsを使っている?
- 3) Other ALTs? その他のALTsは?
- 4) Efforts to give students encouragement, feedback, and time outside class 授業時間外に、学生に対してどのような学習支援やフィードバックをしているか?
- 5) Self-reflection on ALTs use
ALTsの使用についての振り返り

15

National Survey of Student Engagement (NSSE)
生徒の学習行動に関する全国調査

Indiana University Bloomington インディアナ大学

Assesses "the extent to which students engage in educational practices associated with high levels of learning and development."

高度な学習と発達に関連性のある教授法や学習行動とは?

Carr, R., Palmer, S., & Haged, P. (2019). Active learning: The importance of developing a comprehensive measure. *Active Learning in Higher Education*, 19(2), 173-186.

16

Student Questionnaire
学生へのアンケート

- 1) Demographic questions 人口学的背景
- 2) Perceptions of class activities (ALTs)
ALTsについての理解
- 3) Self-analysis of self-directed learning behaviors
能動的学習行動についての自己評価
- 4) Self-reflection 振り返り

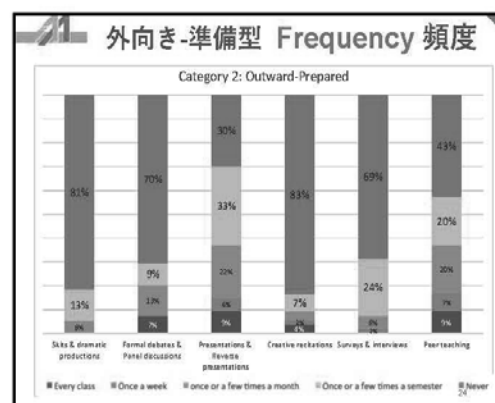
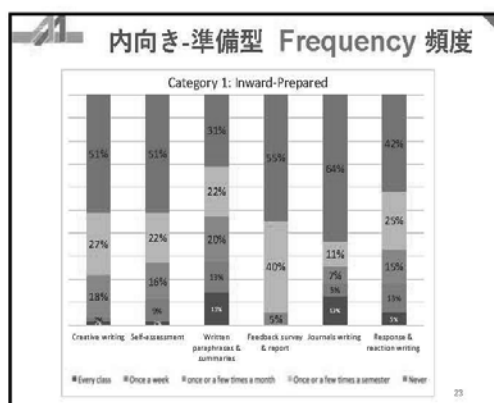
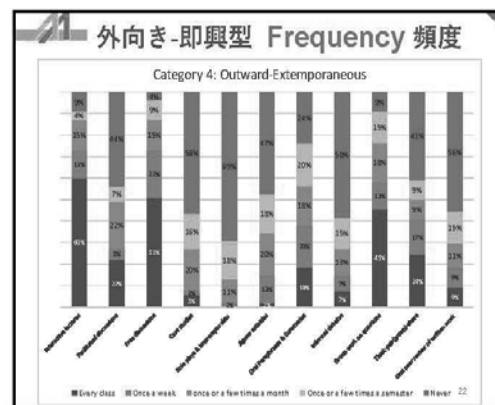
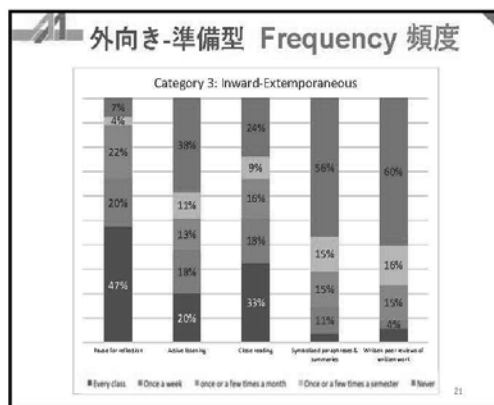
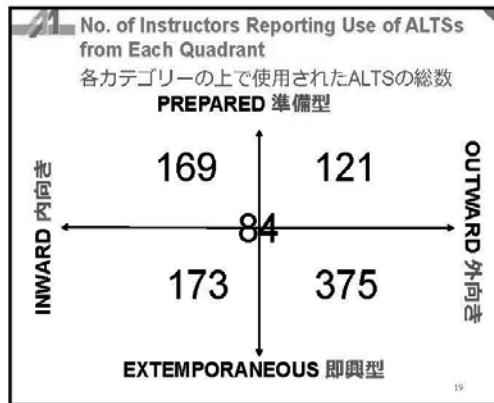
17

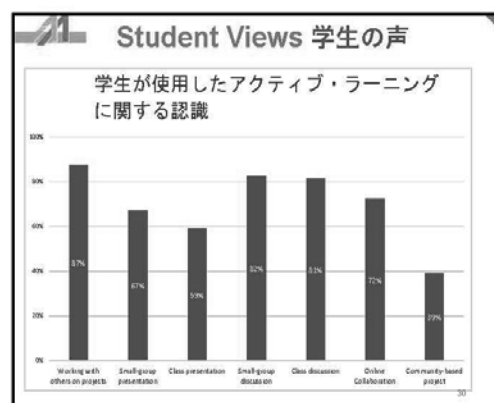
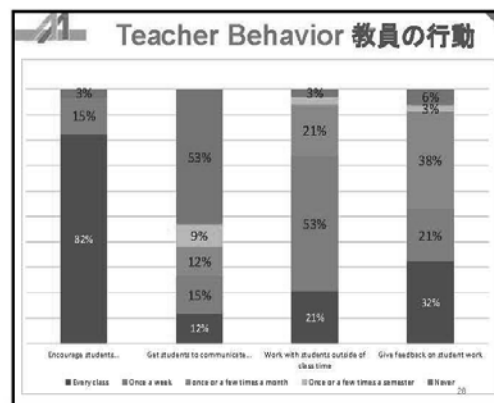
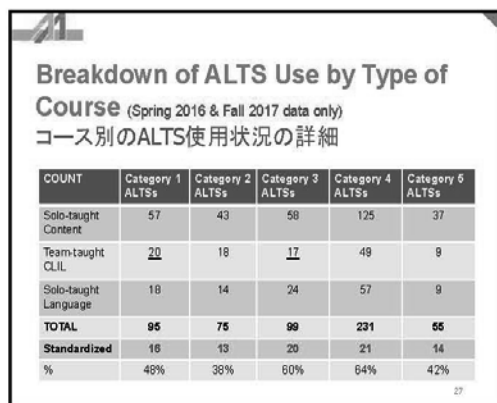
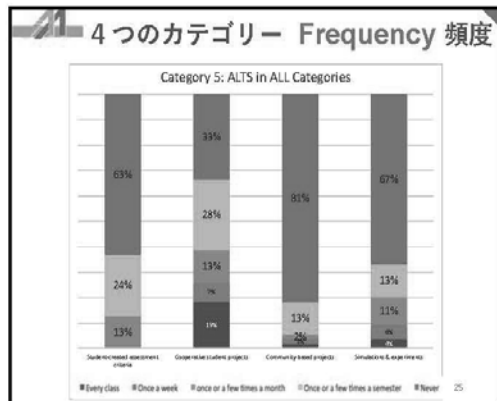
Questionnaire Analysis
アンケート分析

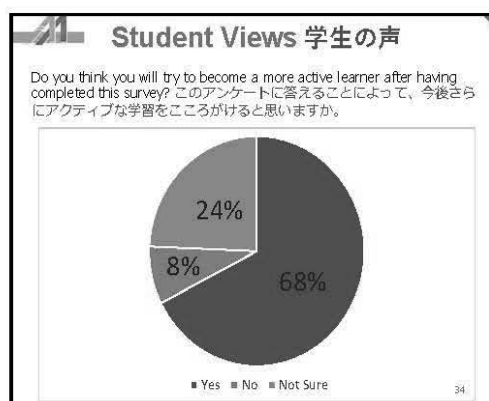
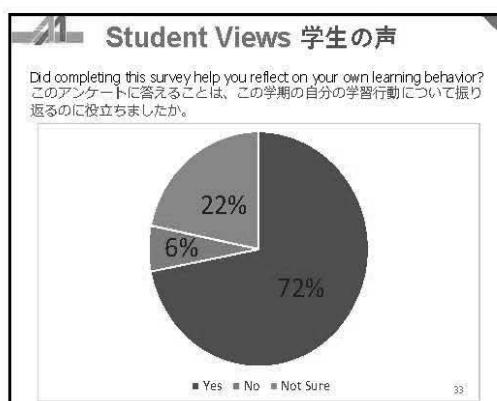
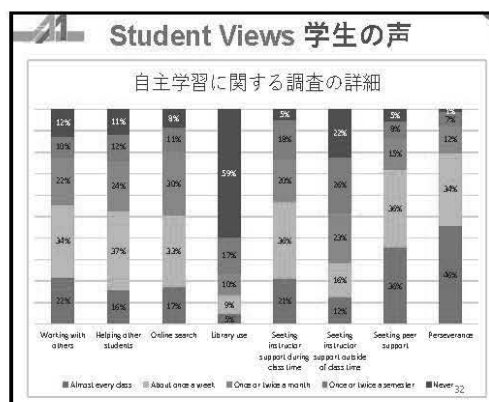
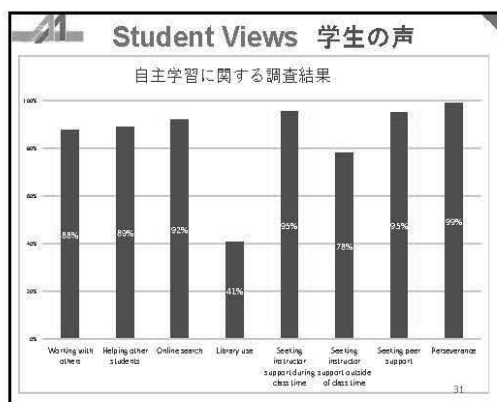
Instructor Questionnaire:
 Data from spring 2016, fall 2016, spring 2017
 (only fall 2016 & spring 2017 for some analysis)
 教員アンケート：2016年度の春・秋学期及び2017年度の春学期

Student Questionnaire:
 Data from spring 2017
 学生アンケート：2017年度春学期

18







Recap 発表のまとめ

- 1) Preferred practices for ALTs? アクティブラーニングのツールで好んで使われているものは何か?
- 2) Connection between ALTs & course type/discipline? 授業の種類・教科によって用いられているツールの傾向があるか?
- 3) Connection between ALTs & MIC's CT goals? アクティブラーニングとクリティカルシンキングの発達に相関性はあるか?

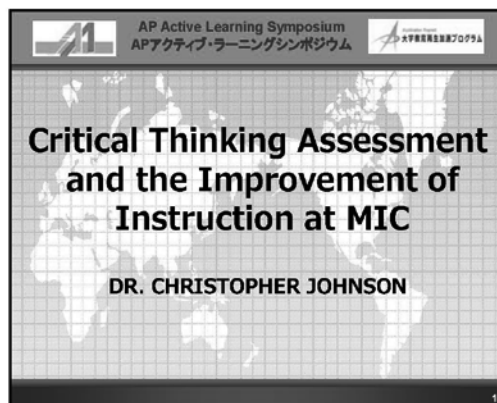
(in progress 進展中)

- Student Voice 学生の声
- Website オンラインサイト

35

Website ウェブサイト

36



Overview 概要

- A) Purpose and mandate of the Critical Thinking Working Group
クリティカルシンキングワーキンググループの目的と使命
- B) History and development of the MIC critical thinking test
MICクリティカルシンキングテストの歴史と開発
- C) Incorporating critical thinking objectives into MIC course syllabi
クリティカルシンキング目標のMICコースシラバスへの導入
- D) Projected schedule 今後の予定

A) Purpose and Mandate of the CTWG 目的と使命

- MIC's liberal arts tradition MICでの教養教育の伝統
 - Active learning and critical thinking アクティブラーニングとクリティカルシンキング
- The humanistic tradition 人文主義の伝統
 - Enlightened inquiry and development of the person 賢明な探求と人格形成
 - Responsible civic life 責任ある市民育成
- Prudential goals 思慮深い目標
 - The modern workplace 現代の就労環境

Pedagogical Ends 教育実践の目標

1. Feedback re. students' capacities
学生の能力に関するフィードバック
2. Targeted teaching to develop skills
能力開発に焦点を絞った教育
3. In-class assessment of learning
教室内での学習の測定

B) The MIC CT Test MICのCTテスト

1. Content – Which skills to test?
内容: どのスキルを測るか?
2. Format – How to test these skills?
形式: どのように測るのか?
3. Delivery – Who and how often to test?
実施: 対象者と頻度は?

B) The MIC CT Test MICのCTテスト

1. Content – Which skills to test?
内容: どのスキルを測るか?
2. Format – How to test these skills?
形式: どのように測るのか?
3. Delivery – Who and how often to test?
実施: 対象者と頻度は?

Core Skills 基本スキル

1. Identifying Relevant Information 関連情報の特定
2. Evaluating Reliability of Information 情報の信頼性の評価
3. Methods & Strategy 手法と攻略法
4. Categorical Thinking 分類的思考
5. Perspectival Thinking 見通しを持った思考
6. Application & Evaluation 適用と評価
7. Deductive Logical Inference 演繹的な論理的推測

Core Skills Elaborated 基本スキルの詳細

CORE COMPETENCIES

1. Identifying Relevant Information

- Identify relevant information after identifying needs, interests, and/or multiple needs and their objectives

2. Evaluating Reliability of Information

- Identify the source of information: the credibility of sources
- Identify the source of information: authority, expertise, and function: other than self
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

3. Methods & Strategy

- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

4. Categorical Thinking

- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

5. Perspectival Thinking

- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

6. Application & Evaluation

- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

7. Deductive Logical Inference

- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

1. Identifying Relevant Information

- Identify relevant information after identifying needs, interests, and/or multiple needs and their objectives

- Identify the source of information: the credibility of sources
- Identify the source of information: authority, expertise, and function: other than self
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication
- Identify the source of information: in terms of intellectual communication

B) The MIC CT Test MICのCTテスト

1. Content – Which skills to test?
内容:どのスキルを測るか?
2. Format – How to test these skills?
形式:どのように測るのか?
3. Delivery – Who and how often to test?
実施:対象者と頻度は?

Testing Schedule テスト実施スケジュール

APRIL
3rd year students

➤ After return from study abroad
留学から帰ってきた後の3年生

JULY
1st year students

➤ Near the end of the 1st semester
1学期終了前の1年生

NOVEMBER
4th year students

➤ Near the end of programme
卒業前の4年生

Pilot Test – Question Analysis 質問分析

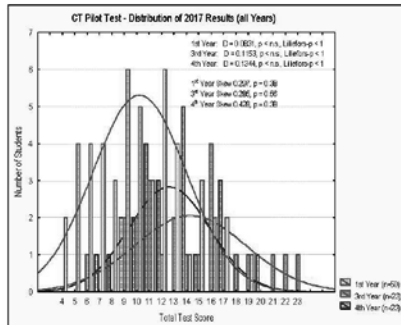
	Identifying Relevant Information	Evaluating Reliability of Information	Deductive Logical Inference	Inductive Logical Inference	Methods & Strategy	Categorical Thinking	Perspectival Thinking	Application & Evaluation
Question 1			X	X		X		X
Question 2		X		X		X		X
Question 3	X		X	X			X	
Question 4		X		X				
Question 5	X		X	X	X			
Question 6		X	X	X			X	X
Question 7		X	X	X		X	X	X
Question 8		X	X	X		X	X	X
Question 9		X	X	X		X	X	X
Question 10		X	X	X		X	X	X
Question 11		X	X	X		X	X	X
Question 12		X	X	X		X	X	X
Question 13		X	X	X		X	X	X
Question 14		X	X	X		X	X	X
Question 15		X	X	X		X	X	X
Question 16		X	X	X		X	X	X
Question 17		X	X	X		X	X	X
Question 18		X	X	X		X	X	X
Question 19		X	X	X		X	X	X
Question 20		X	X	X		X	X	X
Question 21	X		X	X		X	X	X
Question 22	X		X	X		X	X	X
Question 23		X	X	X		X	X	X
Question 24	X		X	X		X	X	X
Question 25		X	X	X		X	X	X
Question 26		X	X	X		X	X	X

Test Participation: 2016 and 2017 テストの参加状況

Student Year	2016	2017
Year 1	50	21
Year 2	n/a	n/a
Year 3	23	42
Year 4	23	-
Totals	96	63

- Overall student participation has been adequate (N=159)
全体的に十分なテスト受検者(159人)
- Measures implemented to ensure adequate participation in test
テスト受検者を十分に確保するための方策

Test Results: 2016 テスト結果



Analysis of 2016 Results 2016年の結果分析

- CT test is at an appropriate level of difficulty
CTテストは適切な難易度であった
- No indications of substantial language difficulties
言語に関する大きな問題は特になかった
- Test Score – TOEIC: no strong positive relationship
テストの点数: TOEICとの強い関連性はなかった
- A moderately difficult test of critical thinking skills
適度な難しさのCT能力を測るテストであった

Overview 概要

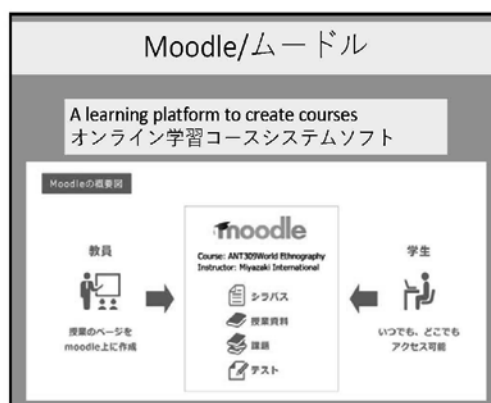
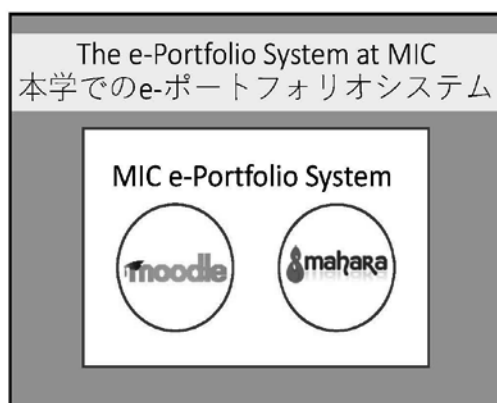
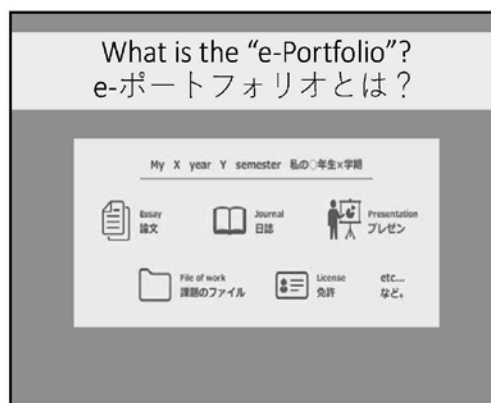
- Purpose and mandate of the Critical Thinking Working Group
クリティカルシンキングワーキンググループの目的と使命
- History and development of the MIC critical thinking test
MICクリティカルシンキングテストの歴史と開発
- Incorporating critical thinking objectives into MIC course syllabi
クリティカルシンキング目標のMICコースシラバスへの導入
- Projected schedule 今後の予定

C) Critical Thinking Objectives & Syllabi CT目標とシラバス

- Critical thinking objectives – as targeted by ALTS
アクティブラーニングの手法によって焦点を絞ったクリティカルシンキングの目標
- Course schedule – daily practice and development
コーススケジュール: 日々の練習と進歩

Critical Thinking Objectives	
<p>1. Analyze the structure and content of an argument.</p> <ul style="list-style-type: none"> Identify the conclusion and premises of an argument. Identify the logical structure of an argument. Identify the logical form of an argument. 	<p>2. Evaluate the strength of an argument.</p> <ul style="list-style-type: none"> Identify the logical structure of an argument. Identify the logical form of an argument. Identify the logical structure of an argument.
<p>3. Apply critical thinking skills to a variety of contexts.</p> <ul style="list-style-type: none"> Identify the logical structure of an argument. Identify the logical form of an argument. Identify the logical structure of an argument. 	<p>4. Communicate the results of critical thinking.</p> <ul style="list-style-type: none"> Identify the logical structure of an argument. Identify the logical form of an argument. Identify the logical structure of an argument.

Critical Thinking Objectives	
<p>1. Analyze the structure and content of an argument.</p> <ul style="list-style-type: none"> Identify the conclusion and premises of an argument. Identify the logical structure of an argument. Identify the logical form of an argument. 	<p>2. Evaluate the strength of an argument.</p> <ul style="list-style-type: none"> Identify the logical structure of an argument. Identify the logical form of an argument. Identify the logical structure of an argument.
<p>3. Apply critical thinking skills to a variety of contexts.</p> <ul style="list-style-type: none"> Identify the logical structure of an argument. Identify the logical form of an argument. Identify the logical structure of an argument. 	<p>4. Communicate the results of critical thinking.</p> <ul style="list-style-type: none"> Identify the logical structure of an argument. Identify the logical form of an argument. Identify the logical structure of an argument.



Mahara/マハラ

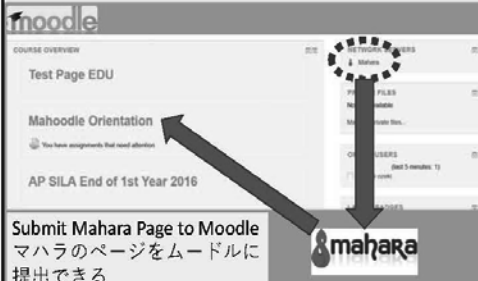
Online e-Portfolio Web Application
インターネット上のeポートフォリオ



マハラをまとめたeポートフォリオ

- Coursework: Sample from General Science, Social Science, and Humanities
- Goals and Tasks
- Active Learning
- Reflective Writing
- Other

Integration of Moodle/Mahara 本学でのe-ポートフォリオシステム



Submit Mahara Page to Moodle
マハラのパージをムードルに提出できる

Overview of e-Portfolio Use at MIC 本学でのe-ポートフォリオ活用の概要

Visualization of Learning Outcomes at MIC
本学での学修成果の可視化

1. Evidence of Learning Outcomes at MIC
4年間の学修記録（エビデンス）
2. Student Progress toward Educational Goals
本学の目標に対する学生の成長

1. Evidence of Learning at MIC 4年間の学修の記録

International Liberal Arts 国際教養学部

- 1st Year End of year page
1年生の年末ページ
- 2nd Year Study abroad (and Area Studies on campus) portfolio 2年生留学ページ
- 3, 4th Year Senior Thesis Page (2019)
3、4年生の卒論ページ（2019年予定）

2. Recording Student Progress toward Educational Goals 本学の目標に対する学生の成長

- English Skills 英語力
- Skills & Abilities defined in ILA Diploma Policy
ディプロマ・ポリシーで定められた能力
- Critical Thinking クリティカルシンキング
- Career Design 就職関連ページ

Keep track of student progress toward MIC educational goals
本学での学修において、学生の成長を管理する

What we have done so far これまでの活動



Brief History of e-PWG Activities これまでの活動歴

2014

- Setting up of Moodle/Mahara environment
Moodle/Mahara (eポートフォリオ) 環境の整備

2015


- Pilot End of year page for 1st year students
1年生の年末ページ
- Pilot Study abroad (and Area Studies on campus) portfolio
Maharaで留学ポートフォリオ(キャンパス内のみ)

Brief History of e-PWG Activities これまでの活動歴

2016

- Full implementation of e-portfolio course pages(3 in total)
3つのコースで、e-ポートフォリオページを運用
- End of year page for 1st year students
1年生の年末ページ
- Study abroad (on campus and off campus) portfolio
留学ポートフォリオ(キャンパス内とキャンパス外)

Orientation for faculty and students 教員と学生へのオリエンテーション



FD 教員へのオリエンテーション



Student Orientation 学生へのオリエンテーション



ePortfolio Examples 例

- 1st Year End of year page 1年生の年末ページ
- 2nd Year Study abroad portfolio 留学ページ
- Course-Specific Pages 授業内での活用
 - Intro to Liberal Arts, Global Citizenship, ICT



Goals and Evidence: First Year Portfolio 目標と証拠資料：1年生の学年末のページ

understand: meaning of liberal arts	understand: college study skills	show: relationship of first-year goals to long-term goals	show: critical thinking skills	show: application of CT to real-world issues
---	--	--	--------------------------------------	--

Evidence: coursework from three courses (general science, humanities, social science), **reflective writing** in introductory text box & descriptions of evidence, career counseling data, also Journals, other text, Moodle forums, etc.

End of Year e-Portfolio Submission Rubric 学年末ページ提出のルーブリック

	Not Good	Acceptable	Good
Page Layout	Layout makes content hard to understand, contains inappropriate items <i>0points</i>	Layout needs improvement <i>1points</i>	Layout looks and functions well, contains 50% <i>2points</i>
Reflective writing	Content missing, unreadable, or inappropriate <i>0points</i>	Short, hard to read, lacking description <i>1points</i>	Readable paragraph, describes page well <i>2points</i>
General Science	Content missing or from a non-liberal arts course <i>0points</i>	Title needs improvement, content not suitable <i>1points</i>	Good title with proper content <i>2points</i>
Social Science	Content missing or from a non-liberal arts course <i>0points</i>	Title needs improvement, content not suitable <i>1points</i>	Good title with proper content <i>2points</i>
Humanities	Content missing or from a non-liberal arts course <i>0points</i>	Title needs improvement, content not suitable <i>1points</i>	Good title with proper content <i>2points</i>
Active Learning	Content missing, unreadable, or inappropriate <i>0points</i>	Short, hard to read, lacking description <i>1points</i>	Readable journal or paragraph, describes all experience well <i>2points</i>
Goals and Tools	Content missing, unreadable, or inappropriate <i>0points</i>	Short, hard to read, lacking description <i>1points</i>	Readable module or paragraph, describes goals/tools well <i>2points</i>
Submission	Problems with both screenshot and secret url <i>0points</i>	Problem with either screenshot or secret url <i>1points</i>	Proper use of screenshot & secret url <i>2points</i>

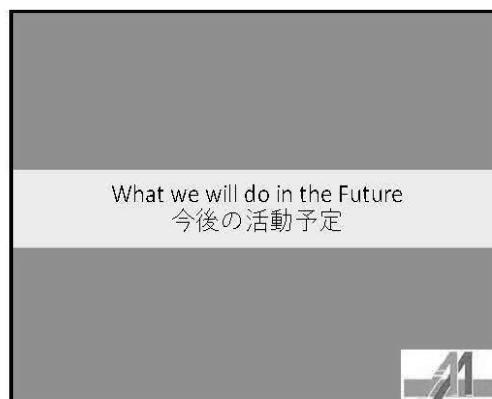
Submitting Mahara to Moodle 学年末ページ提出

The Final Product: 1st Year students 1年生の学年末マハラページの例

The Final Product: Study abroad 留学ポートフォリオの例

Course-Specific e-Portfolio Use Example e-ポートフォリオの授業での使用例

- Syllabus of courses created in 2016 requires students to make an e-Portfolio page.
2016年度に新たに作られた科目で、e-ポートフォリオページ作成が必須となり、シラバスに明記されている
- Introduction to Liberal Arts
リベラル・アーツ入門
- Introduction to Global Citizenship
グローバル市民入門
- ICT入門



e-PWG Activities in the Future
スケジュール

- Continue to provide FD & student orientations
教員及び学生へのトレーニングの継続
- Revising 1st year page and 2nd year Study Abroad Pages
1年生の学年末ページ及び2年生の留学ページの改訂
- Creating 3rd and 4th year Senior Thesis Page
3、4年の論文ページ
- Working on Student Progress Pages
学生の成長のページ
- Effective use of Student Progress pages
学生の成長のページの効果的な運用

Student Progress toward Educational Goals
本学の目標に対する学生の成長

- English Skills 英語力
- Skills & Abilities defined in ILA Diploma Policy
ディプロマ・ポリシーで定められた能力
- Critical Thinking クリティカルシンキング
- Career Design 就職関連ページ

Keep track of student progress toward MIC educational goals
本学での学修において、学生の成長を管理する

English Skills
英語力

包括的な英語力の把握
Comprehensive English Skills

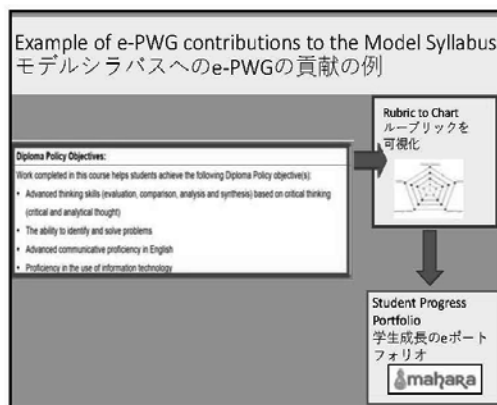
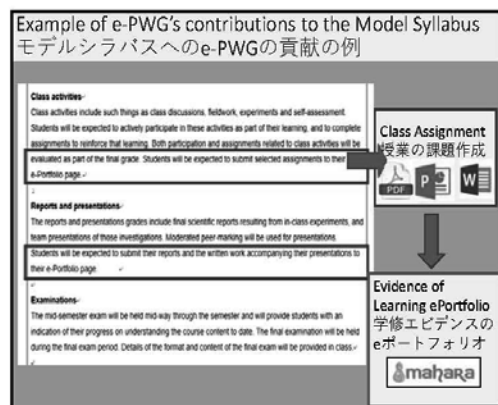
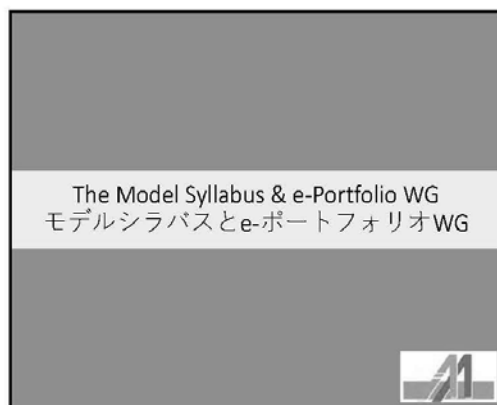
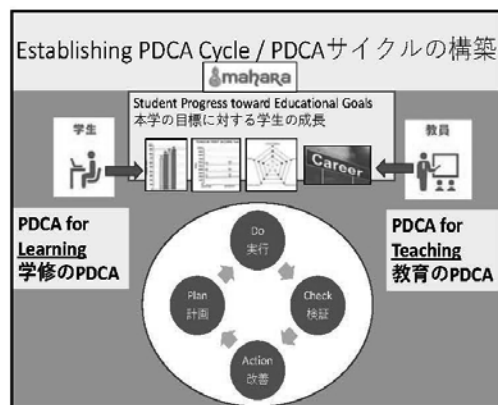
2018運用開始
1. 語彙テスト (Vocab)
2. TOEICテスト

2019-20予定
1. Can do リスト
2. Rubric
ルーブリック

Diploma Policy
ディプロマポリシー

国際教養学部学修成果
ILA Learning Outcomes in Diploma Policy

Advanced thinking skills
高次元の思考能力
Advanced Communication Proficiency
高度なコミュニケーション能力



AP Active Learning Symposium
APアクティブ・ラーニングシンポジウム

Rubric Based Syllabus Working Group (RBSWG)

ルーブリック・ペース・シラバス ワーキング グループ

発表者:
ウォーカー ロイド
Lloyd Walker

Outline アウトライン

- 1) Past Activities – An Overview 過去の活動
- 2) This Year's Objectives: 今年の目標
 - A. Institutional Research – KUIS 機関研究
 - B. Faculty Survey 教員対象調査
 - C. Faculty Development
 - D. Institutional Level Rubric 機関(学部)レベルルーブリック
 - E. Course & Modular Level Rubrics コース及びモジュールルーブリック
 - F. Student Level Rubric 学生レベルルーブリック
 - G. Before and After Study Abroad Rubrics 留学ルーブリック
- 3) Future Challenges 今後の課題

Past Activities – Overview これまでの活動の概要

- Rubrics now included in guidelines for creating syllabi
シラバス作成基準へのルーブリックの導入
- Continuing survey and analysis of faculty feedback on rubrics
教員を対象とするルーブリックに関する意識調査を行い、フィードバックの分析を継続実施する
- Discussing modification of institutional/departmental rubric for better compliance with revised diploma policy
改定DPに基づき、機関・学部レベルルーブリックの改定を図る

Institutional Research – KUIS
機関研究：関西国際大学

- ◆ From the Faculty of Education to the Faculty of Health Sciences, DP based rubrics confirmed to be common to all departments of the university 教育学部から健康科学部まで、DPに基づいたルーブリックが大学のすべての学部で共通に存在した
- ◆ Confirmed that rubrics are integrated on multiple levels – institutional, departmental, course, and student ルーブリックは機関、学部、科目、学生など、様々なレベルで統合されていた
- ◆ Suggestions for effective use of rubrics to support analysis of achievement of educational outcomes 教育目標の到達の分析を助ける効果的なルーブリックの活用の方に関する提案

Faculty Survey 教員対象調査

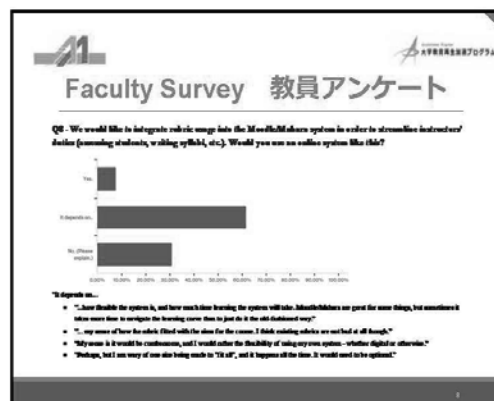
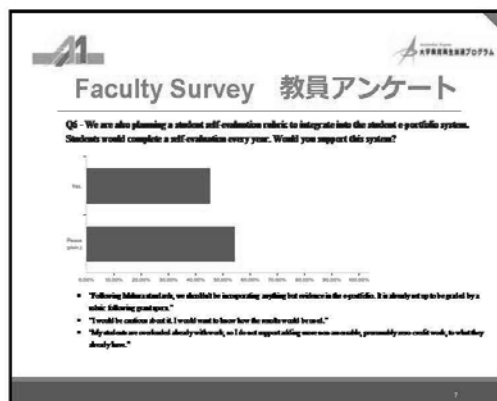
- ◆ Introduction of faculty survey on rubric usage
ルーブリック使用に関する教員対象調査の紹介

Faculty Survey 教員アンケート

Q3 - Specifically, do you currently use the MEC Institutional Rubric? (eyond simply including it in your syllabus)

Response	Percentage
Yes	10%
Not used	10%
Not a regular practice	80%

- "I explain to students that they should understand this as an operational developmental process."
- "The Institutional Rubric is now possible to be used in the dissemination of a semester grade. It is, however, a good guideline of principles that 500 offer performance in specific assignments."
- "During it is students doing off the hour and adding them to our curriculum as it is coming along. I'd rather let them make assignments through."
- "I usually let the students have my students know with it back at the beginning of the semester and at the end."



Faculty Development

❖ Role of continued faculty development
継続的なFDの実施の重要性

- Faculty investment in improvement of rubrics
「ルーブリックを改善することに意義がある」との教員の意識改革
- Faculty input on institutional, departmental, course and student level rubrics
機関、学部、科目及び学生レベルのルーブリックに関する教員からの意見

Diploma Policy ディプロマポリシー (DP)

- Advanced thinking (problem identification, comparison, analysis, synthesis, problem solving, and evaluation) クリティカルシンキング (批判的・分析的思考法) をベースにした高度な思考 (比較、分析、総合、評価) 能力を身につけている。
- The ability to understand and accept (think critically about) different cultures developed through acquisition of a broad knowledge and comparison between the cultures of Japan and other nations 日本文化と外国の諸文化に対する広範な知識とその比較を通して得た、高い異文化理解・受容能力を身につけている。
- The ability to identify and solve problems 課題発見及び問題解決能力を身につけている。
- Advanced communicative proficiency in both Japanese and English 日英両語における高度なコミュニケーション能力を身につけている。
- Proficiency in the use of information technology 情報技術活用能力を身につけている。

ILA Rubric 国際教養学部ルーブリック

		4 th year	3 rd year	2 nd year	1 st year	
		Advanced	Proficient	Developing	Emerging	Lack of evidence
Advanced Thinking	Headings	<input type="checkbox"/> Criteria 1 <input type="checkbox"/> Criteria 2 <input type="checkbox"/> Criteria 4 <input type="checkbox"/> Criteria 5 <input type="checkbox"/> Criteria 6 <input type="checkbox"/> Criteria 8	6 criteria	4 criteria	2 criteria	
Global Perspective	English					
	Japanese					
	I.T. Skills					

Consistent criteria across all 4 years, shows academic progression towards diploma policy goals

ILA Rubric - Advanced Thinking 国際教養学部ルーブリック 高度な思考能力

Acceleration Program		Advanced	Proficient	Developing	Emerging	Lack of evidence
Advanced Thinking	Deductive Logical Inference <input type="checkbox"/> Evaluates results/evidence and arrives at a logical conclusion <input type="checkbox"/> Evaluates conclusions from premises Inductive Logical Inference <input type="checkbox"/> Assesses completeness of information (reasonable judgement) <input type="checkbox"/> Avoids fallacies <input type="checkbox"/> Avoids over-generalization <input type="checkbox"/> Makes predictions using multiple sources <input type="checkbox"/> Analyzes correlational data appropriately <input type="checkbox"/> Evaluates reliability	6 criteria	4 criteria	2 criteria		Insufficient effort or evidence of achievement

ILA Rubric – Global Perspective 国際教養学部ルーブリック グローバルな視点					
Acceleration Program	Advanced	Proficient	Developing	Emerging	Lack of evidence
Global Perspective	<ul style="list-style-type: none"> Engages with current events Empathizes with social inequalities Empathizes with cultural differences Demonstrates how perspective on cultural difference/social inequalities have changed Study abroad/area studies portfolio demonstrates growth in knowledge, attitudes & abilities Analyzes concepts of the social sciences, physical sciences, and humanities Synthesizes concepts of the social sciences, physical sciences, and humanities Summarizes concepts of the social sciences, physical sciences, and humanities 	6 criteria	4 criteria	2 criteria	Insufficient effort or evidence of achievement

ILA Rubric – English 国際教養学部ルーブリック 英語					
Acceleration Program	Advanced	Proficient	Developing	Emerging	Lack of evidence
English	<ul style="list-style-type: none"> Oral Communication <ul style="list-style-type: none"> Pronounces clearly & speaks fluently Speaks accurately with appropriate vocabulary Writing <ul style="list-style-type: none"> Uses speaking strategies and chooses appropriate language for the situation Reading <ul style="list-style-type: none"> Writes relevant content, with supported and developed ideas Writes a range of grammatical structures accurately Structures and writes text coherently Comprehends texts and reads fluently Uses reading strategies 	6 criteria	4 criteria	2 criteria	Insufficient effort or evidence of achievement

ILA Rubric – Japanese 国際教養学部ルーブリック 日本語					
Acceleration Program	Advanced	Proficient	Developing	Emerging	Lack of evidence
Japanese	<ul style="list-style-type: none"> Oral Communication <ul style="list-style-type: none"> Presents confidently Orally expresses ideas and findings effectively and persuasively Writing <ul style="list-style-type: none"> Consistently answers student questions Reading <ul style="list-style-type: none"> Expresses ideas in writing Expresses ideas based on text or discussion findings Reads texts critically and with attention to detail Finds important issues in the texts for discussion in class Forms excellent opinions about the texts 	6 criteria	4 criteria	2 criteria	Insufficient effort or evidence of achievement

ILA Rubric – ICT Skills 国際教養学部ルーブリック 情報通信技術活用能力					
Acceleration Program	Advanced	Proficient	Developing	Emerging	Lack of evidence
Information Technology Skills	<ul style="list-style-type: none"> Information Technology <ul style="list-style-type: none"> Word processing Built test Uses spreadsheet Library <ul style="list-style-type: none"> Enters and refines data, organizes and manages files and folders Professional <ul style="list-style-type: none"> Produces concise, informative and interesting presentation materials (emails, presentations, reports) Internet usage and research <ul style="list-style-type: none"> Types quickly & uses keyboard shortcuts Values on all language, politeness and appropriateness Sources data from the internet 	6 criteria	4 criteria	2 criteria	Insufficient effort or evidence of achievement

Course & Modular Rubric コース及び変更可能な(モジュール)ルーブリック	
Preparatory Objectives for 2018 2018年度に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> Introduce the institutional rubric to all syllabi 機関・学部ルーブリックをすべてのシラバスへ導入 Assess current need for course and modular rubrics 科目及びモジュールルーブリックの必要性の査定 Consolidate faculty resources for current-course and modular-level rubrics 教員用のリソースとして現在の科目及びモジュール式ルーブリックを整備 Connect diploma policy objectives with syllabi objectives DPの目標とシラバスでの目標を関連付ける 	

Model syllabus モデルシラバス	
<ul style="list-style-type: none"> Levels of institutional rubric (advanced, proficient, developing, emerging) used to inform syllabus content, language and critical thinking objectives 機関・学部レベルルーブリックでシラバスの内容、言語及びクリティカル・シンキングの目標を確認する Not all grading is completed using rubrics. Only course and assignment level where they are appropriate, such as presentations or certain activities. すべての評価でルーブリックを使用するわけではない。ルーブリックによる評価はプレゼンテーションや特定の活動のみ <ul style="list-style-type: none"> On days 17 and 30 of the model syllabus, there are presentations which are graded according to the following modular rubric 例えば、モデルシラバスの第17回、30回では次のルーブリックでプレゼンテーションを評価することになっている 	

Model syllabus モデルシラバス

❖ The reporting on day 17 of the syllabus involves a presentation which is graded according to a presentation rubric シラバスの第17回の課題にはレポート報告が含まれている。これをプレゼンテーションルーブリックで評価する。

Teaching Methodology
Course objectives will be achieved through a variety of active learning teaching strategies, including but not limited to:

Active Learning Teaching Strategy

1. Interactive lectures
2. Facilitated group discussions
3. Laboratory experiments and practical feedback
4. Group reports and presentations

Course Schedule

Most classes

Days 2, 10, 16, 28

Days 10, 17, 30

16. Spontaneous Conversation Experiment 3: design experiment to investigate spontaneous generation

17. Experiment 3: presentation

Presentation Rubric プレゼンテーションルーブリック

		4	3	2	1	0
Content & Structure	Accurate content					
	Slides, graphs, pictures, amount/size of text, background					
Communication	Structure: introduction, 3 main points/sections, and conclusion					
	Idea organization					
	Delivery (voice projection, is it read? or if memorized?)					
Q & A	Fluency					
	Grammar					
	Body language					
	Answering questions					
Q & A	Clarification and checking meaning					
	Heritation devices					
	Deferring questions					
Total						

Student Rubric 学生ルーブリック

❖ In April orientation, students should be advised how to complete their self-evaluation rubric. 4月のオリエンテーションで、自己評価ルーブリックを説明

❖ This will be same rubric from course entry to exit. 入学から卒業まで活用する

❖ However, the language will need to be simplified and translated to Japanese. 言語は簡素化され日本語に翻訳される

❖ The aim is to give students more awareness of their responsibility for their own development. 目的は学生の自己成長への意識を促進させるため

❖ For example, in the Global Perspective category, orientation students might be able to empathize with social inequalities at an emerging level. 例えば、グローバルな視点の項目において、Social Inequalities(社会不平等)を学生に対して強調する。

Evaluation Level	Emerging	Developing	Proficient
Global Perspective	Understanding diversity	Engages with current events	
	Awareness of Current Events & Global Issues	Empathizes with social inequalities	
	Empathy		

Before and after Study Abroad evaluation 留学前後での評価

There is a need for rubric criteria to evaluate the progress students have made during their study abroad program. 留学プログラム中での学生の成長を評価するためのルーブリック式の項目が必要である。

❖ We are making a proposal to measure intercultural competence. This shows cross-cultural competence: knowledge, abilities & attitudes along a continuum over time. 知識、能力、態度に関する異文化コンピテンシーを図る。

❖ Culturally egalitarian 文化的に偏りが無い

❖ Bilingually accessible 日英両語で使用可能

❖ Progressive development 漸進的な発達

❖ Ready made measurement tool すぐに使用可能な測定ツール

Moving Forward

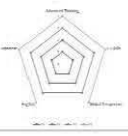


Future Challenges 今後の課題

Integration of Rubric with e-Portfolio ルーブリックのe-ポートフォリオへの導入

❖ Rubric with tailored & translated language for student self-reflection on achievement of educational outcomes (implemented from entering class of April 2018) 教育目標のリフレクションのために日英両語で使用できるルーブリック(2018年度の学年より)

❖ Integration of rubric into e-Portfolio will allow students to see how they are/have evolved during the four years of their course of study. ルーブリックのe-ポートフォリオへの導入により、本学での4年間での成長を見ることができる



Category	Outcome	Level	Comments
Global Perspective	Understanding diversity	Emerging	
	Awareness of Current Events & Global Issues	Emerging	
	Empathy	Emerging	
	Engages with current events	Emerging	
Social Inequalities	Understanding diversity	Emerging	
	Awareness of Current Events & Global Issues	Emerging	
	Empathy	Emerging	
	Engages with current events	Emerging	




Future Challenges 今後の課題

- ❖ Developing further faculty consensus 教員の賛同を得るために
 - Continued faculty support and input continues to be vital to the success of rubric-based assessment in syllabi and the e-Portfolio 教員への継続的な支援及び教員からの意見収集が重要である
 - PD to highlight and consider student achievement of learning outcomes 学習成果の達成を考慮したPD
 - Faculty participation in developing rubric assessment as an effective tool for assessing the attainment of LP objectives LPの目標達成度を評価するための有効な道具としてのルーブリックアセスメント実装への教員参加
 - Rubric assessment for advising purposes 学生指導を目的としたルーブリック評価
- ❖ Developing an institutional rubric for both schools: 両学部の機関ルーブリックの開発
 - Bringing the School of Education on board with the institutional rubric 教育学部の賛同を得る
- ❖ Developing Institutional Research using rubrics: ルーブリック活用に関する機関研究
 - Student, course, department & institution-level assessments 学生、科目、学部及び機関レベルでのアセスメント

25




Thank-you for listening

26

IV. 平成 29 年度外部評価委員会

1. 第3回 AP 外部評価委員会

1. 目的 平成 29 年度の本学 AP 事業を外部の有識者に評価して頂き、来年度の事業に役立てる。

2. 日時 平成 30 年 3 月 23 日（金曜日）：14～17 時

3. 場所 宮崎国際大学 2 号館 102

4. 外部評価委員

林透先生（山口大学 大学教育センター・准教授）AP テーマⅠ・Ⅱ採択校

坂本ロビン先生（杏林大学外国語学部学部長・教授）AP テーマⅢ（高大接続）採択校

中村清子様（株式会社テレビ宮崎 UMK 報道部 報道記者）

柳澤聡先生（延岡星雲高校教諭 本学卒業生）

池邊香楠美さん（国際教養学部 3 年生）

5. 本学会者

山下学長 西村学長補佐 福田教育学部長 パッソス国際教養学部長 河野事務局長

ウォーカー学部長補佐 各 WG の代表者 大関 AP オフィサー 西中 AP 事務補佐

6. 当日のスケジュール

時間	スケジュール
14:00 ～ 14:20	全体会（挨拶及び出席者紹介） <ul style="list-style-type: none"> 開会の挨拶（学長） 本学教職員の紹介 外部評価委員自己紹介 本学の AP 事業の概要説明
14:20 ～ 14:40	外部評価委員による事前打合わせ <ul style="list-style-type: none"> 委員長の選出 委員による資料の精査及び質問事項の選定
14:45 ～ 15:50	質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> 各ワーキンググループの代表者への質疑応答（各 WG 毎に 10～15 分） アクティブ・ラーニング WG クリティカル・シンキング WG e-ポートフォリオ WG ルーブリック・ベース・シラバス WG プロジェクト全体への質疑応答
15:50 ～ 16:30	外部評価委員による講評の打ち合わせ <ul style="list-style-type: none"> 各委員による講評 委員長による総評
16:30 ～ 17:00	全体会（外部評価委員会総評） <ul style="list-style-type: none"> 委員長による総評及び（必要に応じて）補足質問 閉会の挨拶


2. 外部評価委員会 総評

宮崎国際大学 AP 事業の取組は、これまでの自大学での教育方針や教育実践を基礎に進められており、全体的に安定感があり、補助期間中に確実な成果が挙げられることが強く期待できる。また、宮崎国際大学でなければ取り組めないような独自性が、アクティブ・ラーニングの推進や学修成果の可視化の取組において随所に見られ、他機関に対して、一つのモデルケースになるものである。その上で、AP 事業 3 年目を終え、かつ、平成 29 年度が中間評価の時期であることを踏まえ、平成 29 年度以降に取り組んでいただきたい課題を列举しておきたい。

- (1) テーマⅠ・Ⅱ複合型の取組として、類型化されたアクティブ・ラーニングのうち、個々のアクティブ・ラーニングの実践を通して、10 数種類あるクリティカル・シンキングのどのスキルが育成・強化されるかについて、その関係性を概念図化しておくことを求めたい。そのことによって、アクティブ・ラーニングを通じた学修成果を可視化することができ、宮崎国際大学 AP 事業の独自性や特徴をアピールすることにつながるはずである。
- (2) 外部評価委員には、現役学生、卒業生、ステークホルダーの方々が含まれており、今回の外部評価委員会の質疑応答を通して明らかなように、宮崎国際大学の取組が各方面から評価されていることを重要なエビデンスとして活かしていただきたい。特に、宮崎国際大学が育成する力として長年育んできた「クリティカル・シンキング」の学生・卒業生への浸透度、さらには、現役学生にとって一見理解しにくい「クリティカル・シンキング」が学修プロセスを通して徐々に理解が深まる実態を成果として活かしてほしい。
- (3) 学生が多様化している現状において、「入試成績、学業成績、クリティカル・シンキングテストなどの直接評価」と「アンケート調査などの間接評価」を活用した多角的分析に取り組み、貴学の教育改革に活かすことを期待したい。
- (4) 貴学の AP 事業の数値目標の進捗状況において、授業外学修時間などの幾つかの項目において、今後、更なる充実が求められる項目が見られ、今後 3 年間での目標達成に期待したい。
- (5) 国際教養学部での取組を推進しながら、もう一つの学部である教育学部への波及に適宜取り組んでいただきたい。

外部評価委員会の様子





宮崎国際大学
Miyazaki International College

MIC-AP NEWSLETTER

Newsletter of MIC-AP

School Year 2017 (March, 2018)

CONTENTS

● 2017-18 Project Summary ● Symposium ● AP Activities

● Working Group Highlight : ILA DP Rubric

2017-18 Project Summary

Our Acceleration Program for University Education Redesigning (AP) project completed its fourth year. Based on the college's educational philosophy of developing critical thinking (CT) through active learning (AL), our AP project has been aiming to develop a system of securing and improving educational quality by identifying effective AL techniques, creating our own CT test, and utilizing rubrics and e-Portfolio for visualizing learning outcomes. Following on from last year, our working groups engaged in different activities to improve quality in education, such as implementing AL surveys and CT tests, developing rubrics, and promoting e-Portfolio use. In addition to FD sessions to promote the AP project within the college, we worked on promoting our AP project at our symposium and international conferences.

Issued by the AP Office
Miyazaki International College
1405 Kano, Miyake,
Miyazaki 889-1605, Japan
URL: <http://www.mic.ac.jp/ap/>

MIC-AP Goals

- Theme I : Active Learning (AL)**
1. To identify and categorize AL teaching strategies in use at MIC, and determine effective AL teaching practices
 2. To create an AL program to improve English skills
- Theme II : Visualization of Learning Outcomes**
1. To develop a critical thinking assessment tool
 2. To establish a PDCA learning cycle by introducing rubric-based syllabi
 3. To visualize learning outcomes through an e-Portfolio

AP Symposium 2017

On Saturday, November 25th, we held our Active Learning Symposium 2017 at Sagami Convention Center in Miyazaki and reported on the progress of our AP project. Following President Yamashita's address, each working group representative presented their progress, including the AL survey results, CT test development and implementation results, and rubric and e-Portfolio utilization at our college.



Lastly, Naoki Nishimura, the AP project leader/assistant to the President, delivered closing remarks and discussed the prospects of the AP project towards its conclusion in 2020. The working groups, the driving force of the AP project, are actively collaborating with each other as we progress towards our AP goals.

Snapshots of Our Activities

FD Sessions
As part of our AP project, each working group held an FD session. In FD sessions, each WG shared their activities with faculty members and received their feedback in order to facilitate the institutional implementation.



Student Orientations
Orientations were held to promote effective student use of the e-Portfolio introduced by the AP project. In addition to a freshmen orientation, a study-abroad orientation was also held this year to enable students to use the e-Portfolio effectively at their study-abroad site.



International Presentations

Taking advantage of our international faculty, we continue to seek opportunities to promote our AP project internationally. This year, we made two presentations at international conferences in Canada and the United States.



Working Group Activity Highlight : Rubric Development

Rubric Working Group Aims

The aim of the Rubric Working Group is to develop a system which can help to visualize student learning outcomes. From the Diploma Policy (DP) Objectives of Advanced Thinking, Building a Global Perspective, English, Japanese and I.T. skills, forty evaluative criteria were developed. Student self-evaluation 'can do' statements are now being built into the Mahara system. Similarly, the forty criteria are being selected for each course, so that grades can be correlated. Self-evaluative and grade based learning outcomes can then be graphed and compared.

One can-do Example from each DP objective

Can-do Statement Self-Evaluation (O=can't do well)	0	1	2	3	4
Advanced Thinking					
Global Perspective					
English					
Japanese					
I.T. Skills					

* Note: There are eight criteria for each category

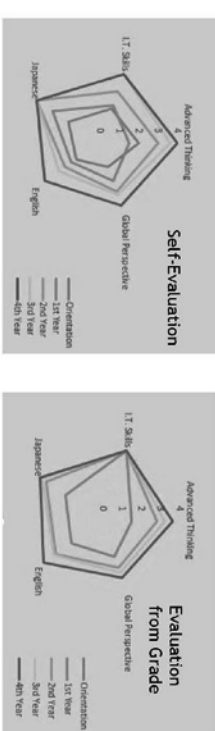
Matching criteria with courses, A-E

	A	B	C	D	E
Advanced Thinking					
Global Perspective					
English					
Japanese					
I.T. Skills					

Assigning Course Grades to criteria for an example student

	A	B	C	D	E
Advanced Thinking					
Global Perspective					
English					
Japanese					
I.T. Skills					

* Note: Grade A=4, B=3, C=2, D=1, F=0



2017-18 AP Major Activities

- Apr~ CT Test Implementation and Data Analysis
- Jun e-Portfolio Orientation for Freshmen
- Jun FD session on AL and Rubric
- Oct Study-abroad e-Portfolio Orientation
- Oct Presentation at an international conference in Canada
- Nov Presentation at a conference in the U.S.
- Dec AP Symposium 2017
- Jan FD Session on CT Test Development
- Jan Analysis of WG Activities
- March External Evaluation Committee 2017

2018-19 AP Plan

- Apr Self-evaluation orientation for Freshmen
- Apr College-wide FD on AP Project
- Apr~ e-Portfolio Orientations
- Apr~ CT Test Implementation and Data Analysis
- May FD on Active Learning
- May FD on DP Rubric
- Nov FD on e-Portfolio use
- Dec FD on CT Test
- Feb e-Portfolio Orientation for 1st year page
- March AP Symposium 2018
- March External Evaluation Committee 2018

2. 宮崎国際大学 AP プロジェクト・メンバー

- アクティブ・ラーニング WG
 - Gregory Dunne (Group Leader)
 - Anne Howard
 - Cathrine Mork
 - Aya Kasai
 - Haruko Aito

- e ポートフォリオ WG
 - Jason Adachi (Group Leader)
 - Yukichi Shimizu
 - Ellen Head
 - Mai Sakakura

- ルーブリック・ベース・シラバス WG
 - Erik Bond (Group Leader)
 - Lloyd Walker
 - Alan Simpson
 - Koji Watanabe

- クリティカル・シンキング WG
 - Christopher Johnson (Group Leader)
 - Benjamin Peters

- AP 事務局 e ポートフォリオセンター
 - Satoshi Ozeki
 - Masae Nishinaka

- 宮崎国際大学・AP 事業推進者
 - Keiko Yamashita (President)
 - Naoki Nishimura (Assistant to the President / AP Project Leader)
 - Anderson Passos (Dean: School of International Liberal Arts)
 - Nobuhiro Fukuda (Dean: School of Education)
 - Lloyd Walker (Manager of Academic Affairs)